

# 豊岡市文化財保存活用地域計画（案）

# 豊岡市文化財保存活用地域計画 ～「豊岡の宝もの」を守り、活かすために～（案）

## 目 次

<b>第1章</b>	<b>はじめに</b>	
第1節	背景と目的	1
第2節	計画の対象 ～「豊岡の宝もの」と歴史文化～	2
第3節	位置づけ	4
	（1）法における位置づけ	4
	（2）上位・関連計画との関係	4
第4節	計画の期間	5
第5節	計画作成の経緯・体制	6
<b>第2章</b>	<b>豊岡市の概要</b>	
第1節	自然的・地理的環境	9
	（1）位置・面積	9
	（2）気候	9
	（3）地形	9
	（4）地質	11
	（5）水系	11
	（6）動植物	12
第2節	社会的環境	13
	（1）行政単位の変遷	13
	（2）人口	16
	（3）産業	17
	（4）交通	18
	（5）「豊岡の宝もの」の保存・活用施設	19
	（6）「豊岡の宝もの」の保存・活用に関する主な法規制等	20
第3節	歴史的環境	22
<b>第3章</b>	<b>「豊岡の宝もの」</b>	
第1節	「豊岡の宝もの」の概要	29
	（1）指定等文化財	29
	（2）指定等を受けていない「豊岡の宝もの」	30
	（3）関連する制度による指定等	31
第2節	「豊岡の宝もの」の特徴	34
	（1）歴史資源	34
	（2）文化資源	39
	（3）自然資源	43
<b>第4章</b>	<b>豊岡市の歴史文化</b>	
第1節	豊岡市の歴史文化の特性	47
第2節	「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語	50

---

## 第5章 「豊岡の宝もの」を守り、活かす

第1節	将来像と方向性 .....	65
第2節	「豊岡の宝もの」の保存・活用の現状と課題 .....	66
	(1) 調査・研究.....	66
	(2) 価値共有・担い手育成.....	68
	(3) 保存対策.....	70
	(4) 魅力発信・活用.....	72
第3節	「豊岡の宝もの」の保存・活用の方針と事業 .....	75
	(1) 「豊岡の宝もの」をほりおこす.....	76
	(2) 「豊岡の宝もの」を知り・学ぶ.....	78
	(3) 「豊岡の宝もの」を守る.....	80
	(4) 「豊岡の宝もの」を伝え・活かす.....	82

## 第6章 「豊岡の宝もの」の防災・防犯

第1節	豊岡市における災害等 .....	85
	(1) これまでの災害等.....	85
	(2) 今後発生のおそれがある災害等.....	86
第2節	「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する近年の取組 .....	88
	(1) 国・兵庫県等の取組.....	88
	(2) 豊岡市の取組.....	88
第3節	「豊岡の宝もの」の防災・防犯の方針と方策 .....	89
	(1) 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する現状と課題.....	89
	(2) 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する方針と事業.....	90
	(3) 「豊岡の宝もの」の防災・防犯体制と災害・被害等発生時の対応.....	91

## 第7章 推進体制と進行管理

第1節	計画の推進体制 .....	93
第2節	計画の進行管理 .....	97

## 参考資料

参考資料 1	豊岡市の指定等文化財一覧及び分布図.....	資料-1
参考資料 2	アンケート調査の結果.....	資料-23
参考資料 3	「豊岡の宝もの」の調査・研究に関連する文献・報告書.....	資料-36

# 第1章 はじめに

## 第1節 背景と目的

豊岡市には、但馬国分寺跡<sup>たじまこくぶんじ</sup>や山名氏城跡<sup>やまなし</sup>、中嶋神社<sup>なかしま</sup>注1)、日出神社<sup>ひで</sup>、温泉寺<sup>おんせんじ</sup>などの歴史資源や、出石城下町<sup>いずし</sup>や城崎温泉街<sup>きのさき</sup>などの町並み、城崎麦わら細工などの伝統工芸・産業、四季折々の祭礼・行事といった人々の暮らしや営みを伝える文化資源がある。これらは、円山川<sup>まるやま</sup>や竹野海岸<sup>たけの</sup>、神鍋山<sup>かんなべ</sup>、玄武洞<sup>げんぶどう</sup>などの地形・地質、コウノトリに代表される動植物などの自然資源のもとに生み出され、育まれてきた。このような歴史・文化・自然の資源は、本市の特徴や魅力を形成するだけでなく、市民の誇りや愛着を醸成し、地域コミュニティを維持するものとして重要であり、市民共有の財産として次世代に継承していくことが強く求められる。

しかし、少子高齢化や生活様式の変化が急速に進む中で、法令による十分な保存措置が取られていない歴史・文化・自然の資源の多くは、保存・継承が困難な状況にあることや、十分に認知されずに地域の活性化に活かされていないことが課題となっていた。また、社会情勢の変化により地域の担い手に求められる役割も変化していた。このため、本市は平成29年(2017)3月に、市民及び団体、専門家、行政などの歴史・文化・自然を活かしたまちづくりに関わる担い手がそれぞれの役割を認識し、連携して歴史・文化・自然の資源の保存・活用の取組を推進することを目的として、その基本的な指針となる『豊岡市歴史文化基本構想』(期間：平成29年(2017)4月～令和9年(2027)3月)(以下、「歴文構想」という。)を策定した。

歴文構想に基づき、本市は、市立歴史博物館の企画展「ふるさとの宝もの」の開催や「とよおか市民学芸員」の養成などの「ひとづくり」、民間活動団体や大学、近隣市町等との連携事業などの「仕組みづくり」、歴史的町並みの保存や史跡の整備などの「魅力づくり」を実施してきた。また、市民及び団体は、地域の宝もの探しやカルタづくり、フォトコンテストなどのさまざまな取組を各行政区や平成29年(2017)にスタートした地域コミュニティ組織などを単位に実施してきた。

この間に本市の歴史・文化・自然を取り巻く環境も大きく変化してきた。令和2年(2020)に豊岡演劇祭が始まり、令和3年(2021)に芸術文化観光専門職大学が開学、令和6年(2024)9月に北近畿豊岡自動車道が豊岡出石 IC まで開通した。この間、本市は令和2年(2020)に文化財室を教育委員会から市長部局へ移管し、まちづくりに係る部局との連携体制を強化した。

歴文構想は令和9年(2027)3月に期間満了を迎えるが、その後もこれまでの取組の継続と、取り巻く環境の変化を活かしたさらなる展開が求められる。したがって、これまでの保存・活用の基盤を活かした実効性の高い計画を定め、市民及び団体、専門家、行政の連携の強化と着実な保存・活用を実施することで、本市の豊かな歴史・文化・自然をより一層魅力的なものへと磨き上げることを目的として、『豊岡市文化財保存活用地域計画』(以下、「本計画」という。)を作成した。

注1) 本書では、指定文化財の名称として用いる場合は、指定名称のとおり「中嶋神社」と記載するが、それ以外は一般的な表記である「中嶋神社」を用いる。

## 第2節 計画の対象 ～「豊岡の宝もの」と歴史文化～

本計画は、文化財保護法（以下、「法」という。）に基づく指定等の有無、有形・無形にかかわらず、豊岡市の歴史や自然のもとに生まれ、育まれ、受け継がれている歴史・文化・自然の資源を「豊岡の宝もの」、それらが周辺環境と一体となったものを「歴史文化」と定義し、計画の対象とする。「豊岡の宝もの」は、歴史文脈で使われ、多くの市民に浸透しつつあるため、本計画においても、この用語を使用する。「豊岡の宝もの」は、次に示すように「歴史資源」、「文化資源」、「自然資源」の3つの資源に区分して扱う。なお、文化財保護法、兵庫県文化財保護条例又は豊岡市文化財の保護に関する条例に基づいて、指定、登録、選定、選択を受けている「豊岡の宝もの」は、「指定等文化財」と表記する。

### 歴史資源

地域の歴史の中で、時代や地域の特色を反映しながら、人々の手によって作り出された遺構や遺物等を「歴史資源」とする。

歴史資源は、次の4種類に区分する。

- ①建造物 …建築物、土木構造物・工作物
- ②美術工芸品 …絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料
- ③遺跡・旧跡 …古墳、貝塚、集落跡、城跡、寺社跡、街道・古道など
- ④公園・庭園 …公園、民家・寺社等の庭園

### 文化資源

人々の暮らしの中で生み出され、現代に受け継がれてきた文化的活動や技・知恵・知識と、それらに関係する物や環境等を「文化資源」とする。

文化資源は、次の6種類に区分する。

- ①祭り・行事、民俗芸能、慣習 …年中行事、舞・踊り、音頭・囃子・唄、信仰の場など
- ②伝統の技 …演劇・音楽・工芸技術、生活・生産に関する用具等の製作技術など
- ③食文化 …郷土料理、行事食など
- ④生活・祭礼道具 …民具・生活用具類、祭り・行事に使う道具類
- ⑤説話・伝承 …民間伝承・俗信、地名由来説話など
- ⑥町並み、暮らしの風景 …歴史的な町並み、生活・生業を反映した風景

### 自然資源

海・河川・火山などの地形・地質と、そこに生息する動植物等を「自然資源」とする。

自然資源は、次の3種類に区分する。

- ①動物 …貴重な動物種やその生息地
- ②植物 …巨樹・名木、樹林・社叢、貴重な植物群落・植物種
- ③地形・地質、自然風景 …山岳・河川・湖沼・海浜等とその風景、地質資源、鉱物・岩石など

「豊岡の宝もの」は、文化庁が「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」（令和7年(2025)3月変更、以下「文化庁指針」という。）で「指針の対象とする文化財」に相当する。つまり、「豊岡の宝もの」は、法第2条に規定される6つの類型の文化財(この中には指定等文化財だけでなく、行政による保護措置が図られていない、いわゆる未指定文化財も含まれる)、対象とすることが有効とされる埋蔵文化財や文化財の保存技術、文化財と同等に取り扱う視点が有効とされる国民娯楽などの文化的所産を包含するものである。3つの資源区分と文化庁指針に示す文化財の対応は表1-1のとおり整理できる。

表1-1 「豊岡の宝もの」の3区分と文化庁指針に示す文化財の対応

文化庁指針に示す文化財 (地域計画の対象)			「豊岡の宝もの」		
			区分に含まれるもの		区分
文化財保護法が保護対象としている文化財	有形文化財	建造物	建築物、土木構造物・工作物	歴① 建造物	歴史資源
		美術工芸品	絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料	歴② 美術工芸品	
	無形文化財		演劇・音楽・工芸技術等	文② 伝統の技	文化資源
	民俗文化財	有形の民俗文化財	民具・生活用具類、祭り・行事に使う道具類	文④ 生活・祭礼道具	
		無形の民俗文化財	風俗慣習(年中行事等)、民俗芸能(舞・踊り、音頭・囃子・唄等)	文① 祭り・行事 民俗芸能 慣習	
			民俗技術	文② 伝統の技	
	記念物	遺跡	信仰の場	文① 祭り・行事 民俗芸能 慣習	
			散布地・集落跡・貝塚、官衙跡、城館跡、寺社跡、古墳・その他の墓、生産遺跡、経塚・祭祀遺跡、条里遺跡等、街道・古道、近代以降の施設跡	歴③ 遺跡・旧跡	
		名勝地	公園、民家・寺社等の庭園	歴④ 公園・庭園	
	山岳、河川、滝、湖沼、海浜、島嶼、自然がつくる風景		自③ 地形・地質、自然風景		
	動物・植物・地質鉱物		動物種(鳥類、魚類、昆虫類、クモ類など)、動物の生息地	自① 動物	
		巨樹・名木、樹林・社叢、植物群落・植物種	自② 植物		
		地質資源、鉱物・岩石	自③ 地形・地質、自然風景		
	文化的景観		地域における人々の生活・生業・風土により形成された景勝地	文⑥ 町並み、暮らしの風景	文化資源
伝統的建造物群		周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群	文⑥ 町並み、暮らしの風景		
埋蔵文化財		土地に埋蔵されている遺構・遺物	歴③ 遺跡・旧跡	歴史資源	
文化財の保存技術		「豊岡の宝もの」の保存に必要な材料や用具の生産・制作、修理・修復の技術等	文② 伝統の技	文化資源	
その他文化財	伝承・地名・遊び等	民間伝承・俗信、地名由来説話等	文⑤ 説話・伝承		
		地域の伝統的な娯楽等	文① 祭り・行事 民俗芸能 慣習		

### 第3節 位置づけ

#### (1) 法における位置づけ

本計画は、法第183条の3に基づいて作成する豊岡市の区域における「文化財の保存及び活用に関する総合的な計画」である。したがって、「豊岡の宝もの」の保存・活用の基本となる中・長期的な目標・方針を定めるマスタープランと、短期的に実施する具体的な事業計画を記載するアクションプランの両方の役割を担う。

#### (2) 上位・関連計画との関係

本市は、平成24年(2012)6月に豊岡市いのちへの共感に満ちたまちづくり条例を制定して、まちづくりの長期目標を「いのちへの共感に満ちたまち」と定め、その実現に向けて、「①いのちを守るまちづくり」、「②一人一人を尊重するまちづくり」、「③ふるさとを愛するまちづくり」、「④挑戦する心を育むまちづくり」、「⑤人と生きものが共生するまちづくり」の5つのまちづくりを進めることを掲げた。

そのもとに策定した『豊岡市基本構想』(期間：平成30年度(2018年度)～令和11年度(2029年度))は、めざすまちの将来像を「小さな世界都市－Local & Global City」とし、その実現のための重点的な取組の方向の1つに「地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり引き継がれている」を掲げた。そして、文化芸術基本法に基づく『第2期豊岡市文化芸術振興計画』(計画期間：令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度))は、本計画の前身である歴史文化に基づいて歴史文化の保存・活用を進めるとした。また、(1)に前述したように、本計画は「豊岡の宝もの」の保存・活用の基本となる中・長期的な目標・方針を定めるマスタープランであり、個別の文化財保存活用計画の上位計画にあたる。さらに「豊岡の宝もの」は、観光や産業、環境、教育などの各分野の施策に関連することから、本計画は関連分野の各種計画とも調整・相互補完を図りながら推進する。

なお、兵庫県は、令和2年(2020)3月に『兵庫県文化財保存活用大綱』を策定しており、本計画は、この大綱を勘案した上で作成した。

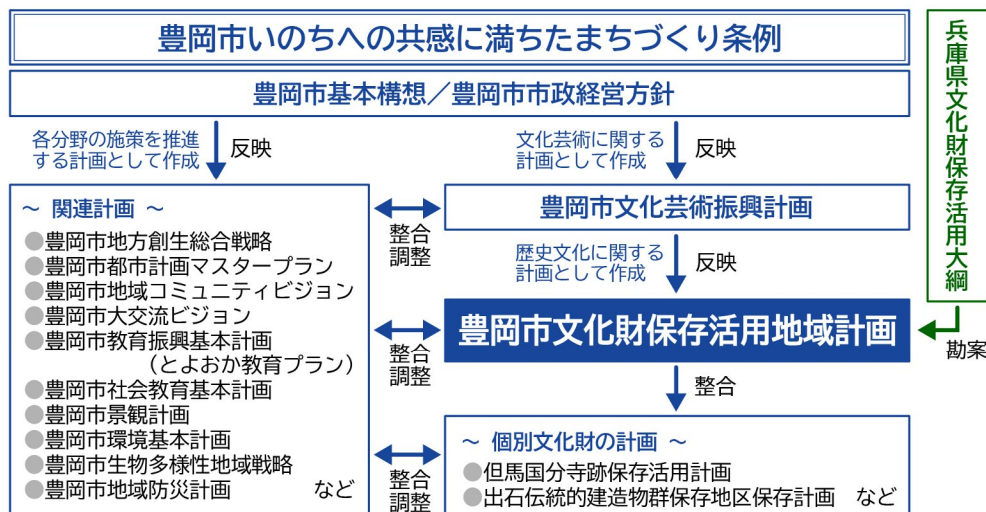


図1-1 豊岡市文化財保存活用地域計画の位置づけ

## 第4節 計画の期間

本計画の計画期間は、令和9年度(2027年度)から令和19年度(2037年度)までの11年間とする。なお、始期は歴文構想の終期に合わせ、終期は次期『豊岡市基本構想』の中期市政経営方針及び『豊岡市文化芸術振興計画』の終期に合わせて設定した。

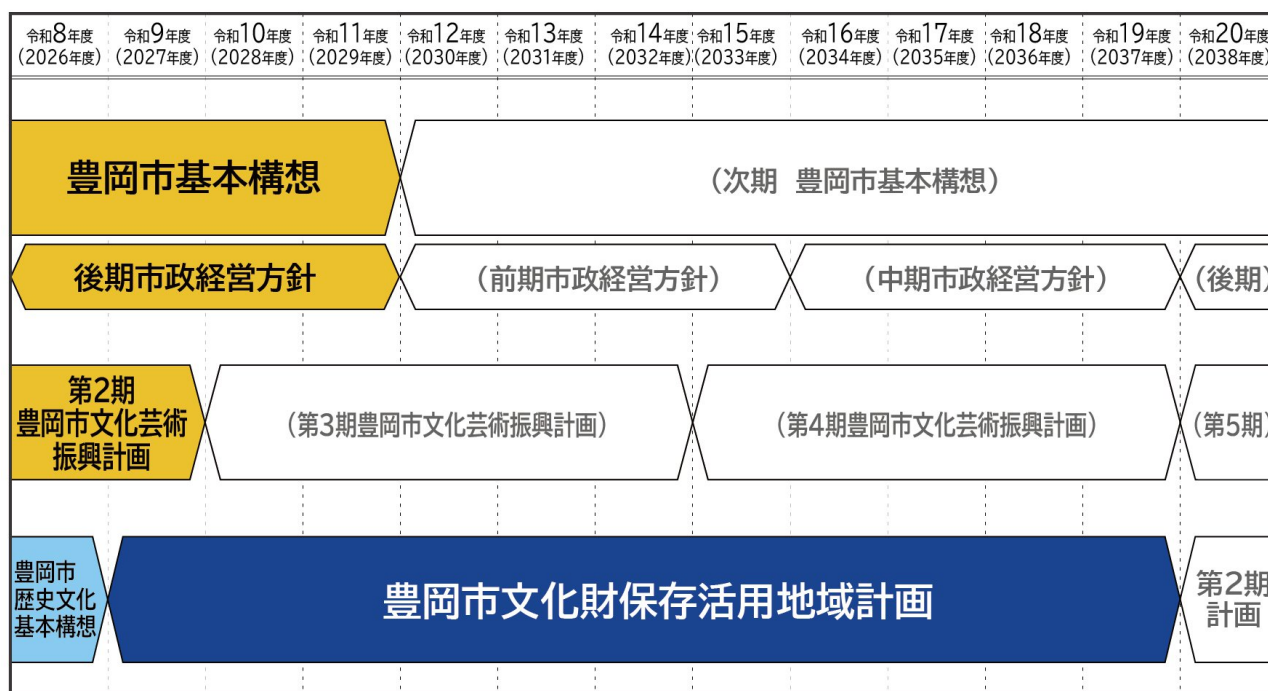
上位計画である『豊岡市基本構想』及び『豊岡市文化芸術振興計画』は、本計画の計画期間中に満了を迎え、新たな計画へと移行する予定である。したがって、これらの各上位計画の内容に即して、必要に応じて本計画の見直しを行う。

計画期間の最終年度にあたる令和19年度(2037年度)には、本計画の検証を行い、計画内容を見直して次期計画を作成する。

なお、次の3つに関する計画内容の変更を行う場合は、文化庁長官による変更認定を受ける。

- ・ 計画期間の変更
- ・ 豊岡市の区域内に存する「豊岡の宝もの」の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・ 計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

これらを除く軽微な変更の場合は、当該変更の内容について、兵庫県教育委員会及び文化庁へ情報提供する。



(※次期計画は想定)

図 1-2 計画の期間

## 第5節 計画作成の経緯・体制

令和7年(2025)4月に法第183条の9に基づく豊岡市文化財保存活用地域計画協議会(以下、「協議会」という。)を組織して計画作成を進めた。協議会は、観光文化部(令和8年(2026)4月から産業経済部)文化・スポーツ振興課文化財室を事務局として、学識経験者、関係団体、文化財所有者、兵庫県で構成した(表1-2)。なお、本市関係部局には必要に応じて協議会への出席を依頼するとともに、別途意見照会等を行いながら調整を行った。

令和7年(2025)8月の第1回協議会を皮切りに、計4回の協議会を開催し、適宜協議会及び豊岡市文化財保護審議会(以下、「審議会」という。構成は表1-3のとおり。)の意見を聴取しながら計画作成を進めた。

表1-2 豊岡市文化財保存活用地域計画協議会の構成

No.	氏名	所属・役職等	委員区分	備考
1	古賀 弥生	芸術文化観光専門職大学 教授	学識経験者(文化政策)	
2	鳥谷 武史	株式会社つたや旅館 代表取締役	学識経験者(美術工芸)	
3	中井 淳史	兵庫県立大学 教授	学識経験者(考古学)	会長
4	林 勤	兵庫県ヘリテージマネージャー	学識経験者(建造物)	
5	松原 典孝	兵庫県立大学 講師	学識経験者(ジオパーク)	
6	森 隆男	関西大学 元教授	学識経験者(民俗学)	副会長
7	小原 游堂	宗鏡寺 住職	文化財所有者	
8	谷 允伸	山名氏城跡保存会 理事	関係団体	
9	服部 寛	兵庫県教育委員会文化財課 課長	行政	

(委員区分ごとに五十音順)

表 1-3 豊岡市文化財保護審議会の構成

No.	氏名	所属・分野等	備考
1	浅田 哲也	兵庫県みどりのヘリテージマネージャー／樹木医	令和8年4月から
2	上田 尚志	NPO 法人コウノトリ市民研究所／昆虫	令和8年3月まで
3	衣川 津弥子	一般／元情報通信会社 代表取締役	
4	久畑 久美子	一般（竹野地域）	
5	菅村 定昌	兵庫県生物学会但馬支部／植物	
6	鳥谷 武史	株式会社つたや旅館 代表取締役／美術工芸	
7	中井 淳史	兵庫県立大学大学院／考古	
8	長尾 家典	出石神社宮司	
9	長砂 あゆみ	一般（日高地域）	令和8年3月まで
10	橋本 真紀	奈佐節伝承会	令和8年4月から
11	林 勤	兵庫県ヘリテージマネージャー／建築	
12	森 隆男	元関西大学教授／民俗	

(五十音順)

※会長は、令和8年3月までが上田氏、令和8年4月から●●氏。  
 ※副会長は、令和8年3月までが長尾氏、令和8年4月から●●氏。

表 1-4 豊岡市文化財保存活用地域計画の作成の経緯

年月日		内容
令和7年 (2025)	4月 16日	豊岡市文化財保存活用地域計画協議会の設置
	8月 7日	第1回豊岡市文化財保存活用地域計画協議会の開催
	9月～10月	行政区アンケート調査、教員アンケート調査の実施
	11月 13日	第2回豊岡市文化財保存活用地域計画協議会の開催
令和8年 (2026)	2月 6日	豊岡市文化財保護審議会の開催
	2月 19日	第3回豊岡市文化財保存活用地域計画協議会の開催
	6月 日	パブリックコメント
	7月 日	第4回豊岡市文化財保存活用地域計画協議会の開催
	8月 日	豊岡市文化財保護審議会の開催 ▶ 豊岡市文化財保存活用地域計画案の確定（予定）
	月 日	文化庁への計画の認定申請（予定）
	12月 日	計画の認定（予定）



## 第2章 豊岡市の概要

### 第1節 自然的・地理的環境

#### (1) 位置・面積

豊岡市は、兵庫県の但馬地域に属している。北は日本海、西は香美町、南は養父市・朝来市、東は京都府福知山市・与謝野町・京丹後市に接している。

市域の面積は697.55 km<sup>2</sup>(県全体の8.3%)であり、県下の市町で最も広い。

#### (2) 気候

日本海に面する本市の気候は、全国的にみても雨や雪が多い。内陸部は、霧の発生が顕著で、平成19年(2007)～令和2年(2020)の年間発生日の平均は68.7日/年に及ぶ。一方、春から夏を中心に南寄りの風によるフェーン現象が加わり、顕著な高温となることがある。

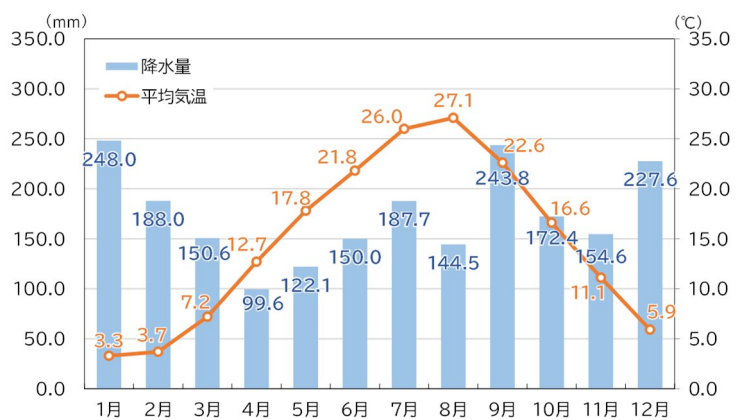
#### (3) 地形

市域は、最高峰である蘇武岳(1,074m)をはじめとする山地に取り囲まれ、平野は円山川とその支流(奈佐川、稲葉川、出石川、太田川)及び竹野川沿いに発達している。

豊岡盆地や出石盆地は、円山川水系の恵みを受けた低湿地に田園が広がり、北は来日岳、西は大岡山や矢次山、南は東・西床尾山や須留岐山、東は三開山(但馬富士)や法沢山などの山々に囲まれる。山裾は、河川の侵食などの影響を受けて急峻である。そのため集落は、山裾と平野の境や河川に沿った谷底などに位置する。高竜寺ヶ岳や蘇武岳などの山々から流れる支流は、いくつもの谷筋を形作りながら市域中



資料：基盤地図情報 25,000(国土地理院)をもとに作成  
図 2-1 豊岡市の位置



資料：気象庁(豊岡特別地域気象観測所：平成2年～令和2年)  
図 2-2 月別降水量・平均気温の平年値



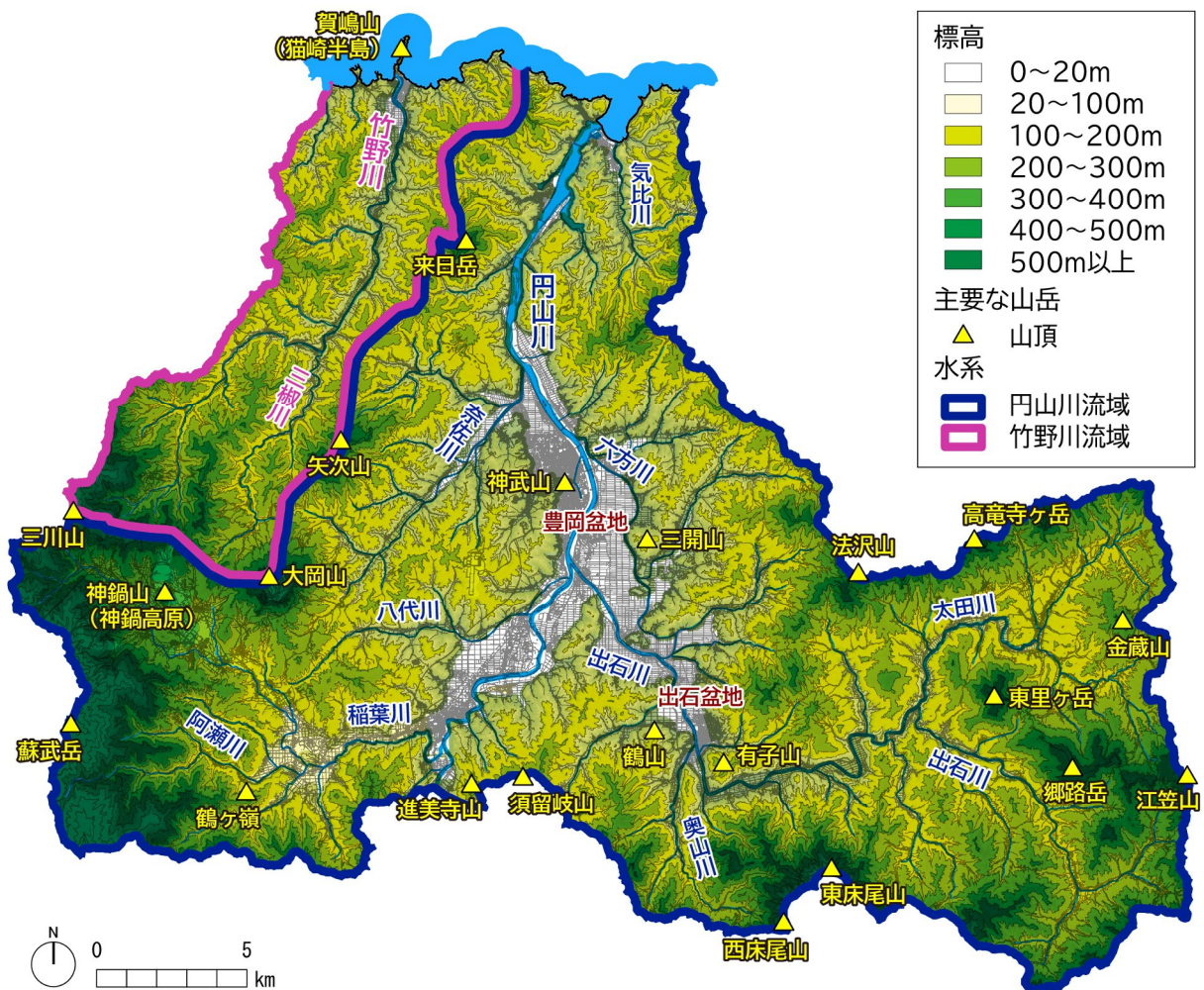
豊岡盆地を覆う雲海(来日岳から望む)

央部の盆地へと流れ込み、円山川などに合流する。

稲葉川上流には、神鍋山の火口を中心に平地が広がる神鍋高原がある。この一帯は2万5千年前まで火山活動が続き、その溶岩は、稲葉川沿いに滝や淵などの名勝・奇勝を作りあげ、円山川まで達した。この高原の穏やかな傾斜地は、田園や果樹園として利用されたり、グラウンドやテニスコートなどの施設が整備されたりしている。また、傾斜を利用したスキーやパラグライダーが行われ、四季を通じてスポーツやレクリエーションの場として活用されている。

竹野川や出石川の上流にも、小規模な高原状の地形が見られ、集落と棚田が形成されている。

山陰海岸国立公園に指定されている日本海沿岸部は、岬や入江が複雑に入り組んだ沈水海岸であり、竹野川の河口に小規模な沖積平野をもつ以外は、磯場が続いている。また、冬季の波浪による侵食を受けた結果、海食崖<sup>かいしよくがい</sup>が発達し、崖面に露出した岩石が、不規則な硬軟・節理・岩脈などの性質によって波浪・雨水・氷雪の侵食を受け、白砂青松の砂浜や奇岩、洞窟、洞門などを形成している。



#### (4) 地質

市域の地質は、山陰花崗岩・矢田川流紋岩、北但層群、第四紀玄武岩、完新統の大きく4種類に分けることができる。

山陰花崗岩・矢田川流紋岩は、中生代<sup>注1)</sup>末から新生代<sup>注2)</sup>にかけて形成された基盤岩<sup>注3)</sup>であり、円山川東側(出石地域・但東地域)の山地や竹野地域北部などに分布する。

北但層群は、新生代中新世<sup>注4)</sup>の2,000万年前から1,500万年前、アジア大陸東端の火山活動によって日本海が形成された頃の岩石・地層のグループである。安山岩や流紋岩など

の火山岩のほか、河川や海の堆積岩<sup>注5)</sup>からなり、神鍋高原周辺では当時の海底に溜まった魚や貝の化石が、竹野浜からはゾウの足跡化石などが見つかっている。

第四紀玄武岩は、250万年前からの火山活動によって形成され、玄武洞付近と神鍋山周辺に分布している。

完新統は、1万年前から現代の完新世の堆積層であり、豊岡市街地を中心とした円山川周辺にみられる。低平な豊岡盆地の地下には、円山川が運んだ軟弱な粘質土・砂質土が50m前後堆積しており、軟弱地盤となっている。この低湿地は、コウノトリをはじめとする多様な生き物が生息する自然環境を生み出している。

なお、特徴的な地質として、玄武洞付近の玄武岩や神鍋山周辺のヒン岩(安山岩)、但東地域の蛇紋岩、竹野地域の青井浜付近で採れる青井石がある。特に玄武洞の玄武岩や青井石は建材として用いられていた。

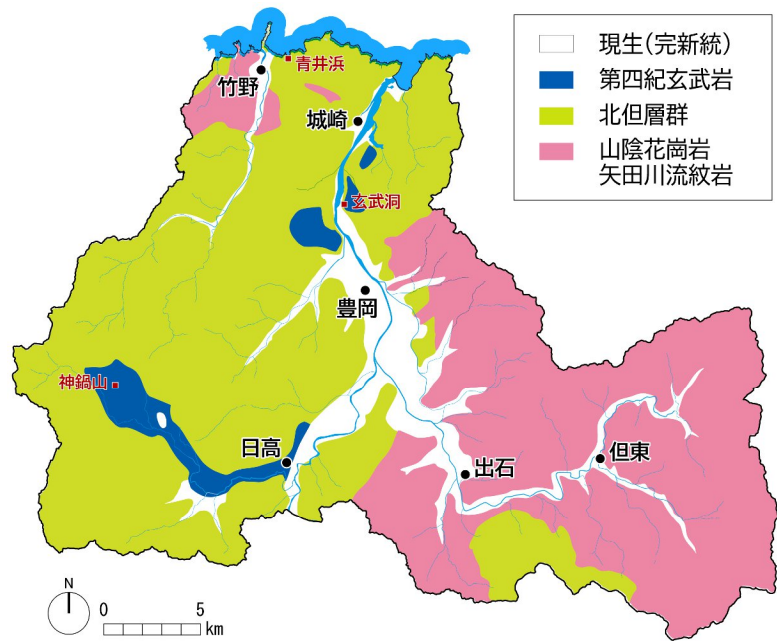


図 2-4 地質分布図

#### (5) 水系

水系は、市の中心部を南北に縦断する円山川水系と、竹野地域を流れる竹野川水系の2つからなる。竹野地域すべてが竹野川水系に属し、それ以外は円山川水系に属す。

円山川は、朝来市生野町円山(標高 640m)に源を発する流域面積 1,300 km<sup>2</sup>、本流の流路延長 68km の一級河川である。出石地域・但東地域に水源がある出石川水系と、日高地域に水源のある稲葉川

注1) 中生代は、2億5,000万年前から6,500万年前の時代。恐竜が生息していた時期にほぼ対応する。

注2) 新生代は、6,500万年前から現代に相当する時代。哺乳類や鳥類が繁栄していることで特徴づけられる。

注3) その地域における最も古い岩石。

注4) 中新世は、2,300万年前から500万年前に相当する時代。哺乳類や鳥類が繁栄していることで特徴づけられる。

注5) 土砂などが堆積して固まった岩石。砂岩・石灰岩・チャートなどがある。

水系の2つの大きな支流がある。

円山川は、陸上交通が発達するまで舟運が盛んで、多くの恵みをもたらしてきた。円山川の下流部は低平地で勾配が1万分の1程度しかないため、洪水時は内水被害が生じやすく、満潮時は海水が進入する。両岸は平坦で地盤高が低い田園が広がり、コウノトリなどの生息に適した湿地状の環境が形成されている。玄武洞付近から河口までの約8kmの区間は、両岸に山が迫り沖積地が極端に狭い。この周辺は、山裾の少し上部に道や集落が位置している。

竹野川は、円山川水系と比較すると河床勾配が大きく、下流にいくほど沖積低地の幅が大きくなる三角州性低地が広がる。平坦地は竹野川沿いに分布し、特に河口付近に集中している。竹野川は全長21kmで三川山<sup>みかわ</sup>付近を源流に、三椒川<sup>さんしよ</sup>などの支流と合流しながら日本海へと注いでいる。狭い谷筋の限られた平坦地が農地として利用され、その周辺に集落が形成されている。

## (6) 動植物

市域の約8割が山林である。本来の植生は、山地はブナやミズナラなどの落葉広葉樹林、日本海沿岸はシイなどの照葉樹林、内陸の山裾や平野等はカシなどの照葉樹林である。しかし、現在の植生は、コナラやアカマツを中心とした二次林と、植林されたスギやヒノキが大半を占める。

広大な農耕地帯がある豊岡盆地や出石盆地は、コウノトリの生息地として最適な環境であり、かつては鶴山<sup>つるやま</sup>(出石町細見)などの山の松に、たくさんのコウノトリが巣をつくっていた。田園には、環境省の準絶滅危惧とされる水田雑草であるミズアオイも自生している。

円山川や竹野川には大小の帯状の河畔林が広がる。日高町上郷<sup>かみのごう</sup>付近に、長さ約1km、最も広いところで100mにおよぶムクノキ、エノキなどの河畔林があり、多くの生物が棲息している。絹巻神社<sup>きぬまき</sup>(気比<sup>けひ</sup>)や井田神社<sup>いだ</sup>(日高町鶴岡<sup>つるおか</sup>)にスタジイやアラカシなどの照葉樹林がわずかに残る。また、円山川下流部に良好な原野環境が残り、渡り鳥の休息地となるヨシ原が広がる中州や河川敷がある。猫崎半島<sup>ねこざき</sup>の賀嶋山<sup>かしまやま</sup>は、常緑樹の原生林で覆われ竹野地域のシンボルになっている。

近畿地方で最も新しい火山である神鍋山は、山焼きや草刈で半自然草原が維持され、多くの草原性の植物と昆虫が遺存している。

一方、動物は、ツキノワグマ、コウノトリ、河川上流域のオオサンショウウオ、汽水域<sup>注6)</sup>のヒヌマイトトンボやクボハゼなど、天然記念物や絶滅危惧種に指定されている希少生物などの多種多様な動物が生息している。また、海域は、冷たい日本海固有水で満たされる水深200m以深にズワイガニ、ベニズワイガニ、クロザコエビ、アカガレイ、ハタハタ、ホタルイカ、ノロゲンゲなどの寒海性の生物が、表層を流れる対馬暖流にクロマグロやブリ、スルメイカ、トビウオなどの暖海性の生物がみられる。

---

注6) 河口などでみられる、海水と淡水が混じり合っているところ。

## 第2節 社会的環境

### (1) 行政単位の変遷

明治4年(1871)の廃藩置県、府県改置を経て、但馬、丹後及び丹波の一部を管轄する豊岡県が設置されたが、明治9年(1876)に豊岡県は廃止され、兵庫県に併合された。

明治22年(1889)の町村制施行を受けて誕生した町村は、昭和20年代から昭和30年代前半にかけて相次いで合併した。平成17年(2005)4月、豊岡市(以下、「豊岡地域」という。)と、城崎町・竹野町・日高町・出石町・但東町(以下、それぞれ「城崎地域」・「竹野地域」・「日高地域」・「出石地域」・「但東地域」という。)の1市5町が合併して、現在の豊岡市が誕生した。

本市には現在359区の行政区がある。多くは近世の村落を引き継ぐが、新たに開発された住宅地等に設置された行政区もある。

人口減少や少子高齢化により、行政区単独では解決できない課題が増えたことから、本市は平成29年(2017)4月から旧地区公民館の区域を単位とした地域コミュニティづくりを実施している。市内に29の地域コミュニティ組織があり、その大半は、昭和の大合併(昭和30年(1955)頃)以前の旧町村の範囲を引き継ぎ、かつての小学校区と概ね対応する。

なお、現在の本市には、小学校20校(豊岡、八条、三江、田鶴野、五莊、新田、中筋、港、神美、城崎、府中、八代、日高、三方、清滝、弘道、福住、小坂、合橋、資母)、中学校8校(豊岡南、豊岡北、港、城崎、日高東、日高西、出石、但東)、小中一貫校1校(竹野学園)がある。

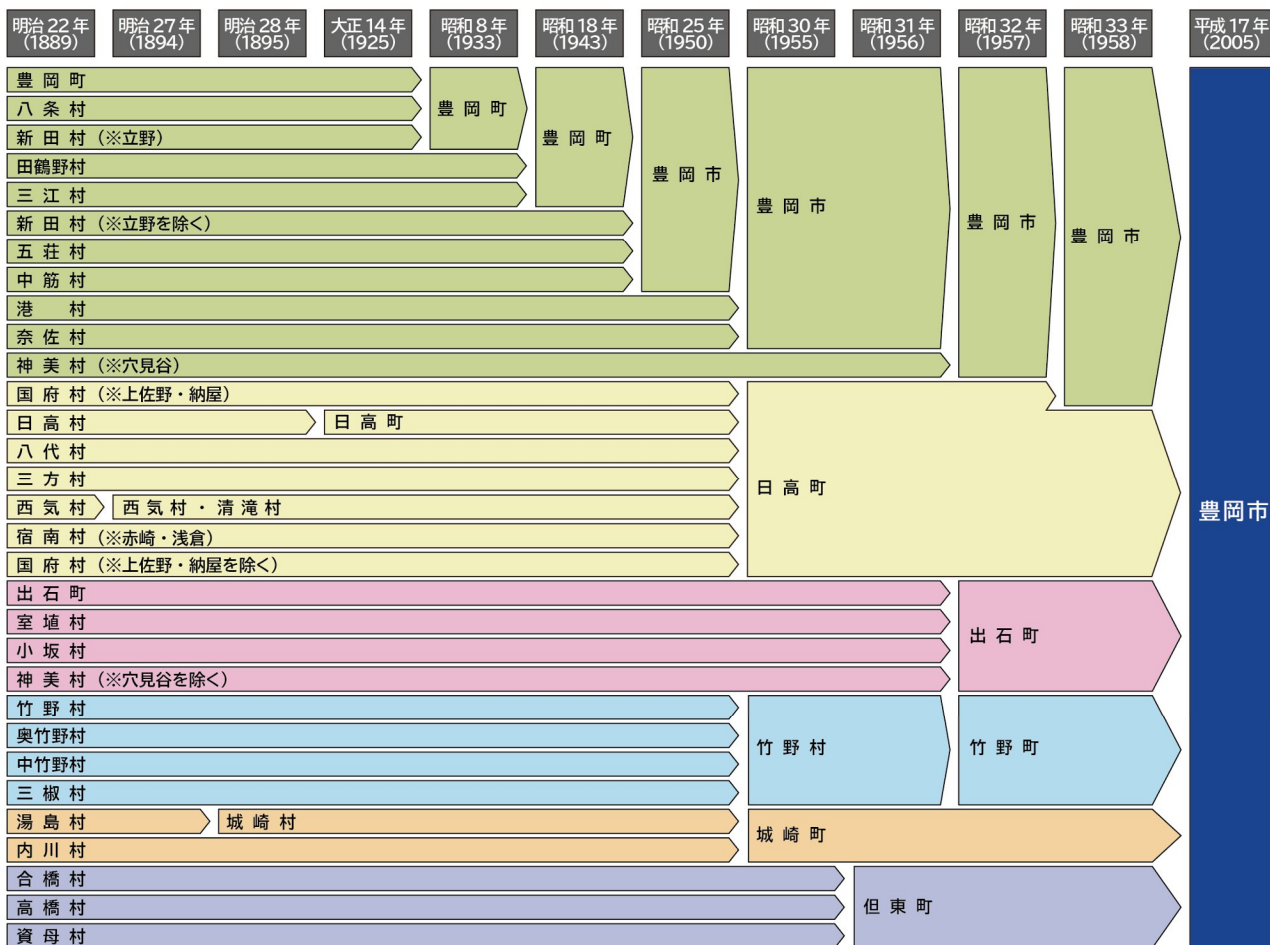


図 2-6 行政単位の変遷

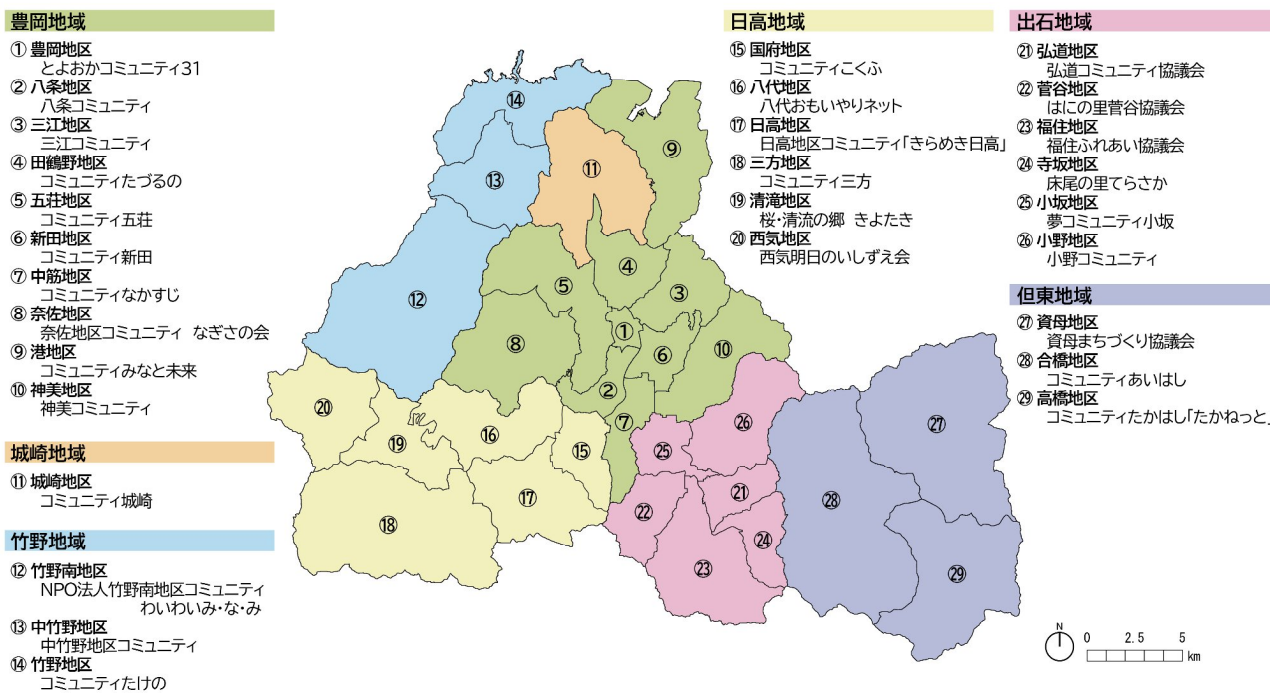


図 2-7 旧市町を単位とする 6 地域と 29 の地域コミュニティ組織



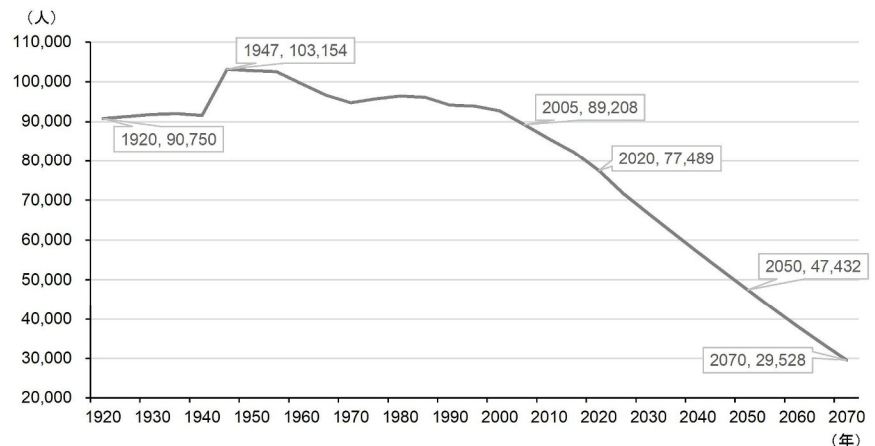
## (2) 人口

令和 8 年（2026）8 月の人口（住民基本台帳）は●●●人である。

本市の人口（合併前は旧市町の人口の合計）は、戦前は約 9 万人で推移し、戦後の昭和 22 年（1947）に 10.3 万人で最多となり、減少に転じた。地域別では、竹野地域と但東地域は大正 9 年（1920）の国勢調査開始以来、減少の一途を辿る。日高地域と出石地域は昭和 22 年（1947）、城崎地域は昭和 40 年（1965）、豊岡地域は平成 7 年（1995）にそれぞれピークを迎え、その後減少期に入った。令和 2 年（2020）の地域別人口割合は、豊岡地域 54.0%、城崎地域 4.0%、竹野地域 5.3%、日高地域 20.0%、出石地域 11.8%、但東地域 4.8%である。

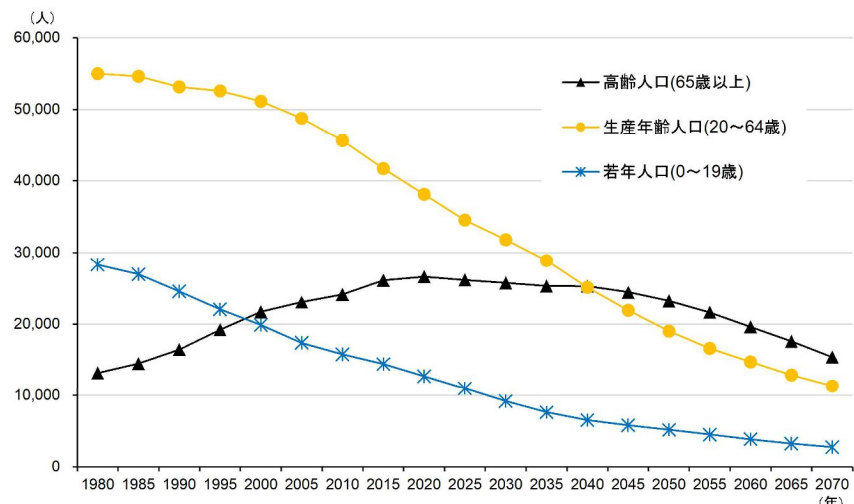
令和 7 年（2025）3 月改定の『豊岡市人口ビジョン』では、今後、人口減少は加速し、令和 32 年（2050）に 47,000 人、令和 52 年（2070）に 30,000 人を下回ると推計している。年齢別人口<sup>注7)</sup>は、平成 7 年（1995）～平成 12 年（2000）に若年人口を上回った高齢人口が、令和 17 年（2035）～令和 22 年（2040）には生産年齢人口を上回ると推計している。

このように、本市の歴史文化の担い手となる人口の減少や高齢化が大きな課題であり、今後、この課題は一層深刻さを増すことが予想される。



資料：『豊岡市人口ビジョン』（1920～2020 年は総務省統計局「国勢調査」、2020 年以降は内閣官房・内閣府提供人口推計ワークシートにより作成した本市の「2025 年基準推計」）

図 2-7 総人口の推移と将来推計



資料：『豊岡市人口ビジョン』（1920～2020 年は総務省統計局「国勢調査」、2020 年以降は内閣官房・内閣府提供人口推計ワークシートにより作成した本市の「2025 年基準推計」）

図 2-8 年齢別総人口の推移と将来推計

表 2-1 地域別人口の推移（2005 年以前は合併前の旧市町の総人口）（単位：人）

	大正 9 年(1920)	昭和 22 年(1947)	昭和 35 年(1960)	昭和 55 年(1980)	平成 12 年(2000)	令和 2 年(2020)
豊岡地域	32,455	40,996	42,569	47,458	47,308	41,827
城崎地域	5,136	5,547	6,042	5,303	4,345	3,125
竹野地域	9,425	8,692	7,915	6,409	5,751	4,115
日高地域	20,572	23,923	21,685	19,415	18,410	15,517
出石地域	12,590	14,174	12,557	11,129	11,207	9,160
但東地域	10,572	9,822	8,804	6,734	5,731	3,745
合計	90,750	103,154	99,572	96,448	92,752	77,489

（出典）総務省統計局「国勢調査」

注7)『豊岡市人口ビジョン』では、若年人口を 0～19 歳、生産年齢人口を 20～64 歳、高齢人口を 65 歳以上としている。

### (3) 産業

地場産業は、かつては柳<sup>やなぎごうり</sup> 行李生産や養蚕が盛んであったが、現在は、国内1位の出荷額を誇るかばん製造業、城崎麦わら細工、出石焼、但馬ちりめんなどがあげられる。

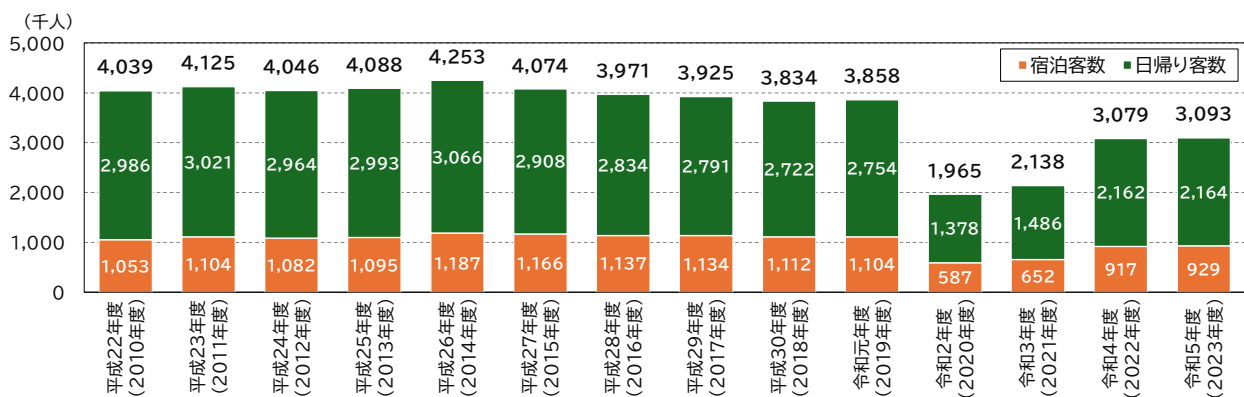
地域によっては、農林水産業や観光業も盛んである。農業は「コウノトリ育む農法<sup>注8)</sup>」を中心とした稲作や、神鍋高原でのキャベツ、スイカなどの高原野菜栽培やワサビ栽培、畜産業は但馬牛や但馬鶏が飼育されている。漁業は、津居山<sup>ついやま</sup>港と竹野港を軸に、ズワイガニやハタハタ、ホタルイカなどが水揚げされる。また、神鍋高原から伏流水が湧き出る日高町<sup>じゅうご</sup>十戸では、ニジマスが養殖されている。

令和2年(2020)国勢調査の産業別就業者の構成比は、第3次産業が66.6%と最も高く、第2次産業が26.6%、第1次産業が5.6%である。

観光入込客数は、平成22年度(2010年度)以降は400万人前後で推移していた。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度(2020年度)に宿泊客数・日帰り客数ともに半減して200万人を下回ったが、徐々に回復しつつある。



豊岡鞆



(資料：兵庫県観光客動態調査)

図 2-9 観光入込客数の推移

注8)「コウノトリと共生する水田づくり」を目指し、無農薬や減農薬でコウノトリの餌となる生き物も同時に育む稲作技術。

#### (4) 交通

道路網は、市域中央を縦断する国道312号・県道豊岡瀬戸線と、北部を横断する国道178号、南部を横断する国道482号・国道426号を軸として形成されている。高速道路は、南北軸の北近畿豊岡自動車道と東西軸の山陰近畿自動車道が事業化・計画されている。令和6年(2024)9月に北近畿豊岡自動車道の豊岡出石ICまでが開通したが、山陰近畿自動車道の本市域区間は未開通である。

鉄道は、JR山陰本線と京都丹後鉄道宮豊線の2路線がある。JR山陰本線は、和田山駅から円山川沿いに北上して豊岡市中心部を通過した後、城崎を経て鳥取方面に至る。京都丹後鉄道宮豊線は、豊岡から京丹後市を経て宮津市に至る。

バス交通は、全但バス株式会社が路線バスを運行している。本市は、コミュニティバス「イナカー」、豊岡市街地の市街地循環バス「コバス」、竹野地域の予約型乗合交通「たけの〜る」を運行している。また、公共交通空白地域の移動手段を確保するために、地元協議会が地域主体公共交通「チクタク」を運行している。

空の交通は、平成6年(1994)に兵庫県管理の民間機専用空港「コウノトリ但馬空港」が開港し、大阪国際(伊丹)空港へ1日2便運行されている。

港湾は、円山川河口に津居山港、竹野川河口に竹野港があり、地方港湾として県が管理している。

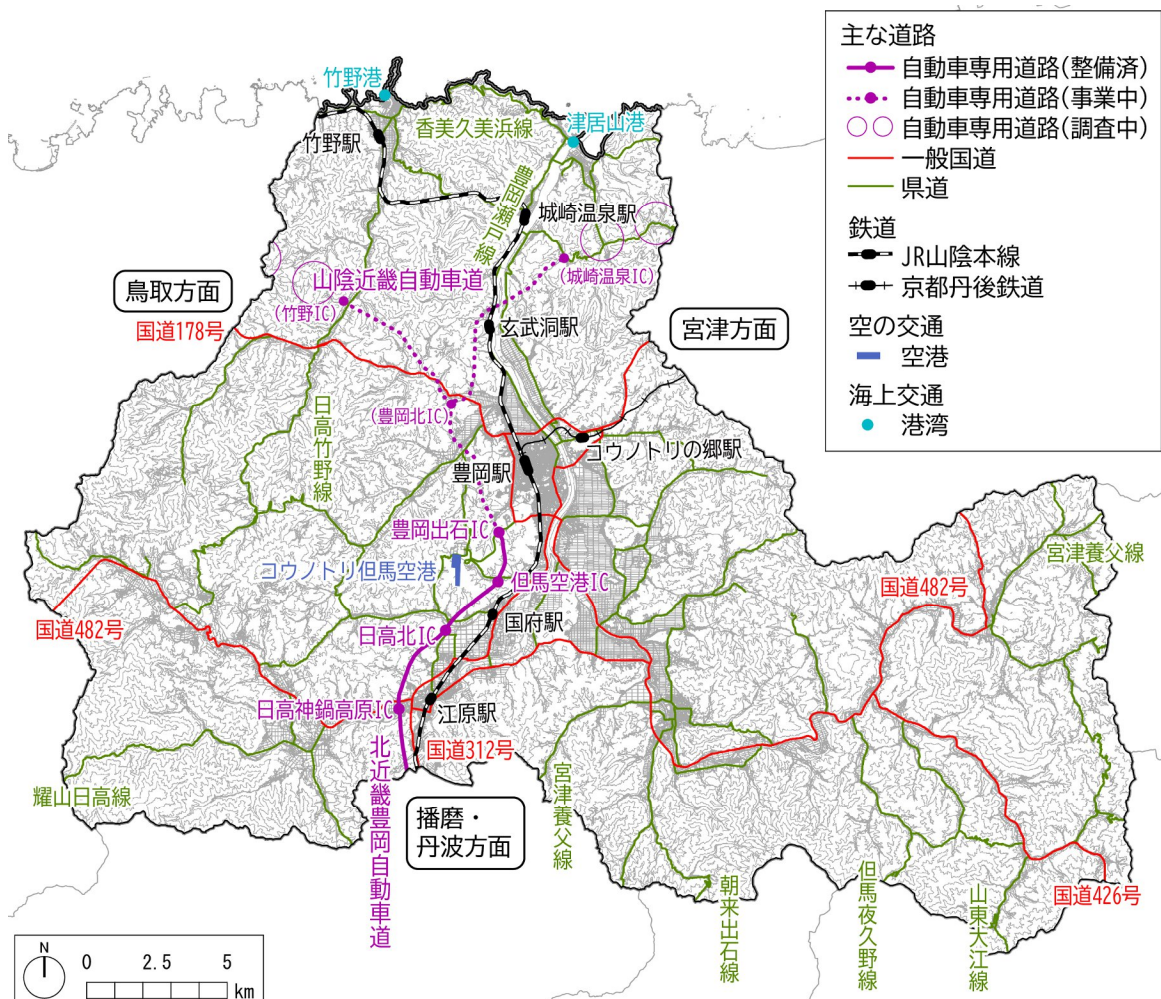


図2-10 交通網

## (5) 「豊岡の宝もの」の保存・活用施設

「豊岡の宝もの」の保存・活用を担う公共施設は市内各所にある。このうち、但馬文教府とコウノトリの郷公園は県立の施設である。市立の施設として、豊岡地域にコウノトリ文化館等、日高地域に歴史博物館「但馬国府・国分寺館」と植村直己冒険館、城崎地域に城崎麦わら細工伝承館等、出石地域に出石旧福富家住宅や出石家老屋敷、出石明治館等、竹野地域に竹野川湊館、但東地域に日本・モンゴル民族博物館があり、地域やテーマに応じた展示・公開等を行っている。このうち、歴史博物館「但馬国府・国分寺館」に本市の文化財担当部局である産業経済部文化・スポーツ振興課文化財室を置いている。



歴史博物館「但馬国府・国分寺館」

民間施設は、温泉寺宝物館(城崎美術館)や玄武洞ミュージアム、出石城下町史料館等がある。また、大学・研究機関は、兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス、芸術文化観光専門職大学がある。

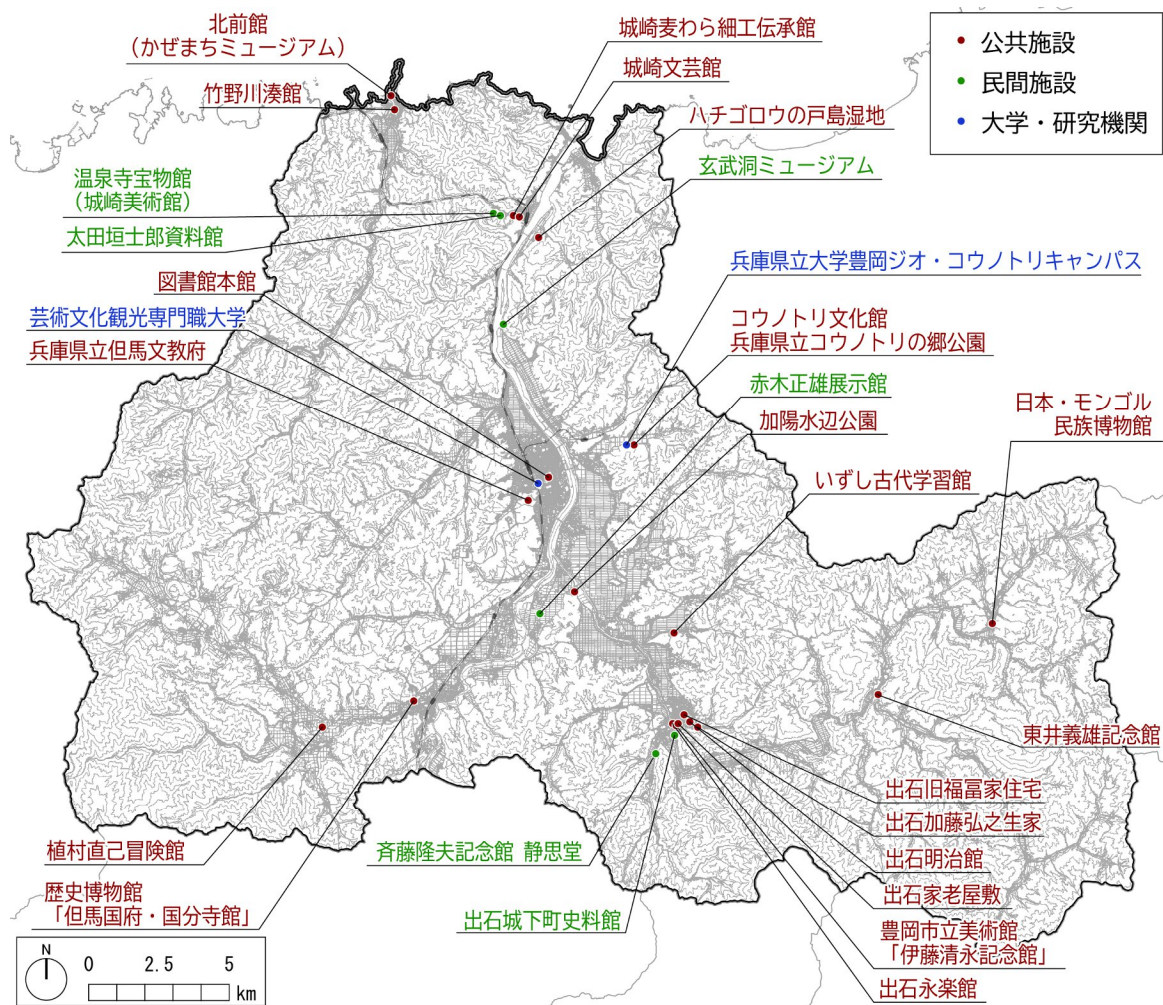


図2-11 保存活用施設

## (6) 「豊岡の宝もの」の保存・活用に関する主な法規制等

### ① 自然公園法、

#### 兵庫県立自然公園条例

自然公園法に基づき、日本海沿岸及び海域が山陰海岸国立公園に指定されている。また、市域南西部の神鍋高原の一部が氷ノ山後山那岐山国立公園に指定されている。

兵庫県立自然公園条例に基づき、市域南西部に但馬山岳県立自然公園、市域南部に出石系井県立自然公園が指定されている。

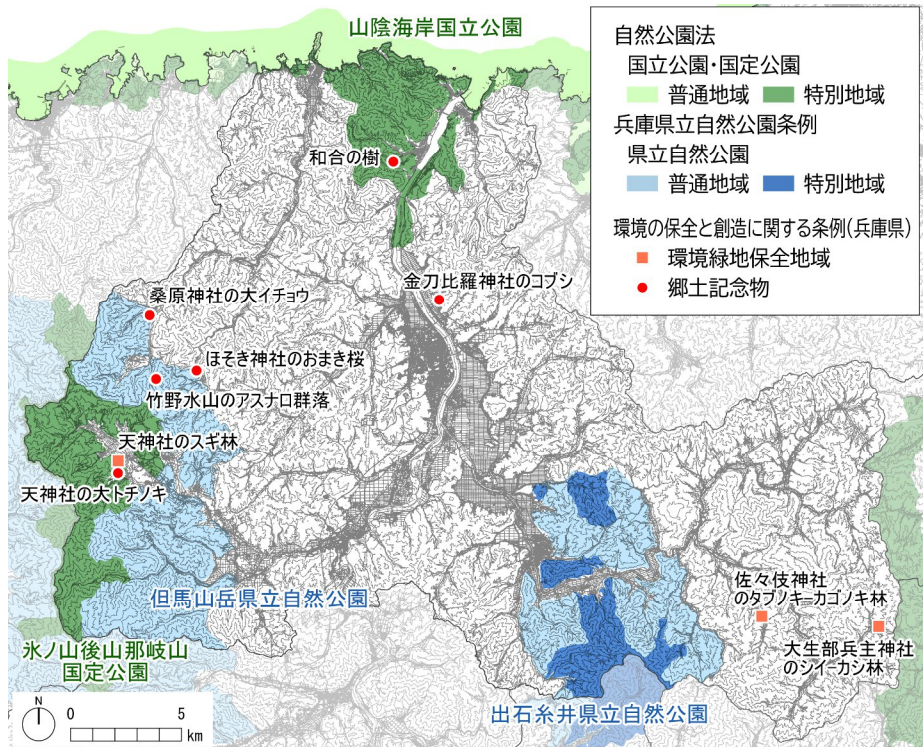


図 2-12 自然公園法、兵庫県立自然公園条例及び環境の保全と創造に関する条例(兵庫県)による指定等

### ② 環境の保全と創造に

#### 関する条例(兵庫県)

兵庫県の環境の保全と創造に関する条例に基づき、天神社のスギ林(日高町万場)、大生部兵主神社のシーカシ林(但東町薬王寺)、佐々伎神社のタブノキカゴノキ林(但東町佐々木)が環境緑地保全地域、金刀比羅神社のコブシ(野上)、和合の樹(城崎町湯島)、竹野水山のアスナロ群落(竹野町三原)、桑原神社の大イチョウ(竹野町桑野本)、ほそき神社のおまき桜(竹野町椒)、天神社の大トチノキ(日高町万場)が郷土記念物に指定されている。

### ③ 景観法、豊岡市景観条例

本市は、平成 24 年(2012) 8 月 31 日に景観法に基づく「豊岡市景観計画」を策定し、同年 11 月 1 日から豊岡市景観条例を施行している。景観計画区域は市全域とし、都市計画法に基づく用途地域を指定している区域と出石城下町地区を「まちの区域」、その他の区域を「やま・うみ・さとの区域」に区分して、区域に応じた届出対象規模・景観形成基準を設定し、大規模建築物の建築等や開発行為等に対する助言・指導を通して豊岡らしい景観への誘導を図っている。また、それまでの兵庫県や旧町の条例等による地区指定を引き継ぎ、出石城下町、城崎温泉、江原駅東の 3 地区を景観形成重点地区に指定し、きめ細かな景観の形成を図っている。なお、景観重要建造物及び景観重要樹木は指定していない。

### ④ 景観の形成等に関する条例(兵庫県)

兵庫県の景観の形成等に関する条例に基づき、城崎温泉橋梁群(城崎町湯島)、赤木家住宅(引野)、平尾家住宅(森尾)、大石家住宅(但東町矢根)、とゞ兵(中央町)、ソーシャルデザインリガレッセ(日高町荒川)、但馬安国禅寺とドウダンツツジ(但東町相田)、佐川家住宅(城南町)の 8 件が景観

形成重要建造物等に指定されている。また、「北但大震災からの復興を今に伝える「豊岡震災復興遺産）」として16件の復興建築群が景観遺産に登録されている。

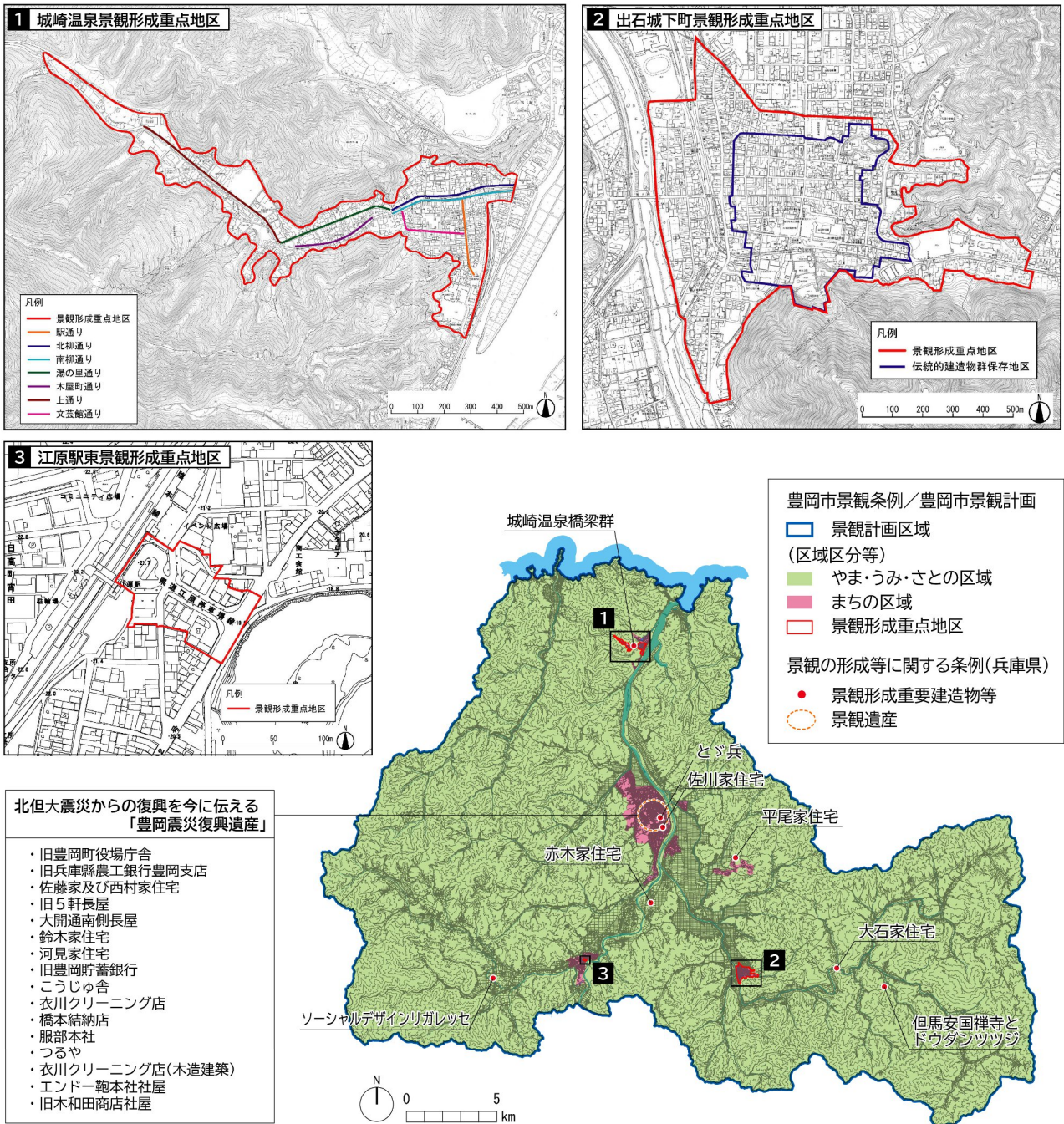


図 2-13 豊岡市景観条例及び景観の形成等に関する条例(兵庫県)による指定等

### 第3節 歴史的環境

#### 旧石器時代

人々の生活の痕跡は、大内谷遺跡(森尾)で見つかった後期旧石器時代(約2万年前)<sup>注9)</sup>のナイフ形石器に遡ることができる。しかし、この時代の出土資料は学術的な発掘調査によらないものが多く、当時の様子を復元するには至らない。

#### 縄文時代

1万年前に地球規模で温暖化が進み、海面が上昇することで豊岡盆地をはじめ広範囲に海水が入り込んだ。これを「縄文海進」という。縄文時代前半の遺跡は、神鍋遺跡(日高町太田)や辻遺跡(辻)、堂の上遺跡(竹野町椒)などの山岳地帯で見ついていることから、この頃には人々が定住を始め、狩りや漁、果実の栽培や採集などによって食料を得ていたと考えられる。

縄文時代後半に再び気温が低下した。海面が下がると、現在の豊岡市街地から出石盆地の周辺に湿地が形成された。中谷貝塚(中谷)や荒原貝塚(香住)の発掘調査では、カキ等の貝類や魚・獣骨などが出土しており、当時の食生活の一端を示す。この頃には、見蔵岡遺跡(竹野町松本)などのように低地にも暮らしの痕跡が見られるようになる。

#### 弥生時代

弥生時代(紀元前10世紀～紀元後3世紀中頃)は、但馬地域でも稲作が行われた。川原遺跡(駄坂)で粃痕のある土器が見つかったほか、炭化米や稲粃が含まれた土も採取され、稲作を基盤とした定住集落が形成されていたことが知られる。また、気比や久田谷遺跡(日高町久田谷)からは銅鐸が出土し、新しい祭祀も行われていたと考えられる。

弥生時代後期になると、豊岡盆地を中心として、集落を見下ろす丘陵上に台状墓<sup>注10)</sup>とよばれる墳墓が造られ始めた。これらには、当時は入手困難だった金属製武器



大内谷遺跡出土のナイフ形石器



神鍋遺跡出土の縄文土器



駄坂川原遺跡出土のモミ痕の付いた弥生土器



破砕された久田谷銅鐸

注9) 本項で記した時代の年代観には、異説もある。

注10) 丘陵尾根を覆う階段状平坦面を持つ墳墓。

やガラス製品が副葬されており、農業生産や円山川流域の舟運などを統率するこの地域の有力者が出現していたことをうかがわせる。なお、台状墓は丹後(京都府北部)と共通した墓制であり、当時の但馬は丹後とのつながりが強かったことがわかっている。中国の歴史書『魏志倭人伝』に「今、交易が可能な国は三十国ある」と記されており、但馬・丹後はその1つだった可能性がある。

## 古墳時代

古墳時代(3世紀中頃～7世紀前半)には、東北地方から九州地方までの各地に大小の古墳が造られた。

市内では、豊岡盆地の周縁部や海岸部などに8,000基以上の古墳が造られた。森尾古墳(森尾)は但馬でも古い古墳の1つであり、中国・三国時代の魏の年号「正始元年」(240)が刻まれた青銅鏡が出土している。見手山1号墳(妙楽寺)は6世紀後半に築造された前方後円墳で、全長37mを測る。楯縫古墳(日高町鶴岡)は7世紀前半に築造された円墳で、但馬では最大級の横穴式石室をもち、大刀・金環・馬具・鉄鏃・土器などが出土している。

## 飛鳥時代・奈良時代・平安時代

大化改新や大宝律令の制定を経て、法によって統治される国家ができた。全国は畿内と七道に分けられ、その下に国・郡・郷(里)が設置された。本市は、但馬国に属し、城崎郡・気多郡・出石郡の全域と美含郡・養父郡の一部に当たる。

但馬国府は『日本後紀』から、延暦23年(804)に「気多郡高田郷」へ移転したことがわかっている。祢布ヶ森遺跡(日高町祢布)は大型の掘立柱建物跡や木簡が見つかり、移転後の但馬国府跡と考えられている。

奈良時代から平安時代初めは疫病や災害の記録が多く残り、『正倉院文書』の「但馬国正税帳」に、天平9年(737)に但馬で疫病が流行した際、病人に粥や酒粕を与えたという記載がある。こうした中、聖武天皇は仏教による国家鎮護のため、天平13年(741)、全国に国分寺・国分尼寺の建立を命じた。但馬にも但馬国分寺(日高町国分寺)と但馬国分尼寺(日高町山本)が建立された。

延長5年(927)に完成した『延喜式』によると、但馬国



台状墓(妙楽寺墳墓群)



楯縫古墳



祢布ヶ森遺跡出土の木簡



但馬国分寺跡塔跡の発掘調査風景  
(昭和48年(1973))

には多くの神社(式内社<sup>注11</sup>)があった。このうち、出石神社(出石町宮内)は朝鮮半島の新羅から渡来したアメノヒボコ<sup>注12</sup>を祀ることで知られる。絹巻神社(気比)や中嶋神社(三宅)も歴史は古く、温泉寺(城崎町湯島)、大岡寺(日高町山宮)、松禅寺(但東町栗尾)などの寺院もこの頃に創建されたと伝わる。

### 鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代

平安時代末期になると、平清盛が政治の実権を握ったが、やがてこれに不満を持つ源氏が立ち上がり、壇ノ浦の戦いで平氏を倒し、源頼朝が鎌倉幕府を開いた。本市の伊賀谷・竹野町田久日・竹野町宇日には平家の落人が住み着いたという伝説が残る。

鎌倉時代の土地台帳『但馬国太田文』<sup>おたふみ</sup>から、この頃の但馬では荘園制が発達し、進美寺(日高町赤崎)<sup>しんめいじ</sup>や出石神社などの寺社が広い領地を持っていたことが知られる。

足利尊氏が京都で幕府を開き、吉野(奈良県)を拠点とした後醍醐天皇と対立して南北朝時代が始まった。この頃は、但馬各地でも合戦が行われ、山名氏が勢力を強めた。山名氏は九日市と此隅山(出石町袴狭)<sup>このすみやま</sup>に拠点を置き、室町幕府の要職を務めた。最盛期には、全国66国のうちの11国を支配し、「六分一殿」<sup>はくぶんいちどの</sup>ともよばれた。

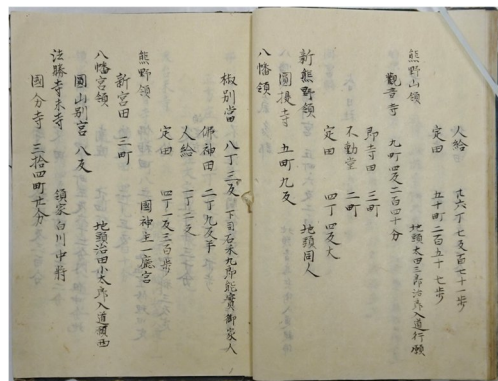
しかし、応仁の乱によって幕府の権威は失われ、山名氏は衰退した。永禄3年(1560)、織田信長は桶狭間の戦いで今川義元を討ち取ると、天下統一へ動き出した。織田軍は生野鉾山をはじめ、此隅山城などを圧倒的な軍事力で攻め落とし、山名祐豊は堺(大阪府)に亡命した。その後、祐豊は天正2年(1574)に有子山城<sup>ありこやま</sup>を築いて新たな居城としたが、有子山城も羽柴秀長の侵攻により天正8年(1580)に陥落した。

### 江戸時代

関ヶ原の戦いで徳川家康が石田三成に勝利して江戸幕府を開いた。江戸時代の市域には、豊岡藩領・出石藩領・幕府直轄領などが混在した。



出石神社



『但馬国太田文(写)』(弘安8年(1285))



此隅山城跡



有子山城本丸の石垣

注11) 平安時代に記された『延喜式』の神名帳に記載されている神社。

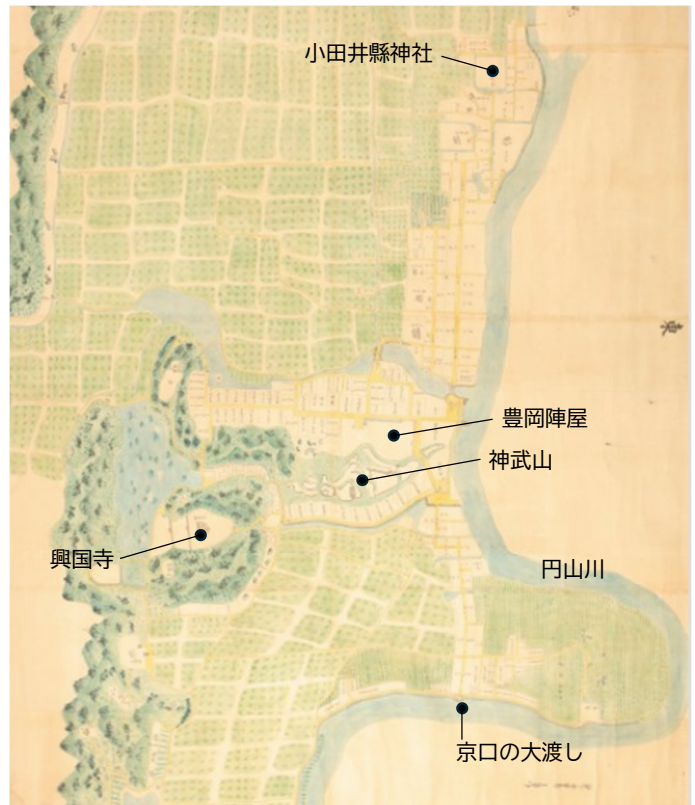
注12) アメノヒボコは、『古事記』では天之日矛、『日本書紀』では天日槍と表記が異なる。このため、本書ではカタカナで表記する。

豊岡藩主は杉原<sup>すぎはら</sup>氏が就いたが、同氏は承応2年(1653)に断絶して豊岡城も廃された。豊岡は一時幕府直轄領となったが、寛文8年(1668)に京極<sup>きょうごく</sup>氏が入封した。陣屋<sup>じんむ</sup>注13)は神武山北側に置かれ、元禄13年(1700)頃に、南西に但馬最大規模を誇る興国寺<sup>こうこくじ</sup>が建立された。当時の円山川は大きく蛇行して流れ、南の玄関口である京口(城南町)から舟で出入りした。京口から小田井<sup>おだい</sup>縣神社(小田井町)にかけての円山川沿いには、商工業者や寺院などからなる町が形成された。また、天保4年(1833)に藩校「稽古堂<sup>けいこどう</sup>」が創設された。

出石藩は一国一城令のもとで維持された出石城を本拠に5万8千石を誇った。藩主は小出<sup>こいで</sup>氏の後、松平<sup>まつだいら</sup>氏、仙石<sup>せんごく</sup>氏が就いた。しかし、天保6年(1835)に「仙石騒動」とよばれるお家騒動が起きたため、仙石氏の所領は3万石に減らされた。この間、江戸時代初めに山名氏ゆかりの宗鏡寺(出石町東條)が沢庵和尚により再興された。仙石政辰(1723～1779)の時代には藩校「弘道館<sup>こうどうかん</sup>」の前身に当たる学問所が設けられた。城を中心とした碁盤目状の整然とした区割りの町並みが整備され、庶民の営みも活況を呈した。出石川沿いに船着き場が設けられ、水運を利用した物資の往来も盛んに行われた。

日本海や円山川の舟運は、両藩の繁栄に不可欠なものだった。竹野地域の海岸部は風待ち港<sup>注14)</sup>として知られ、小規模ながら多くの船主が生まれ、北前船の交易で財を得て栄えた。円山川は、北前船と豊岡・出石を結ぶ中継路となって多くの川舟が行き来し、川沿いの小田井町や城南町、江原(日高町江原)などに船着き場が設けられて賑わった。

陸上交通も発達して多くの文物が行き交った。京都と出石・豊岡を結ぶ京街道<sup>注15)</sup>が整備され、大名の参勤交



「豊岡城下図」(部分)(元禄15年(1702)) ※加筆作成



有子山城跡と出石城跡



竹野

注13) 江戸時代、城をもたない小さな藩の大名・代官の居所。

注14) 帆船が船出に良い風を待っていた港。

注15) 一般には京都と大坂を結ぶ街道をさすが、本書では豊岡・出石・但東を経て、京都へ向かう街道をいう。

代にも利用された。但東地域には丹波へ抜ける山越えの道(登尾峠)が開かれ、宿場町や関所が設けられた。また、街道沿いに道標や石仏がいくつも造られ、旅人の往来を助けた。

城崎温泉は、江戸時代の医師香川修庵が、師(後藤良山)の遺志を継いで著した『一本堂薬選』で「天下一」と評したことをきっかけに、名声が全国に広まった。江戸時代は現在のような自由な旅は許されていなかったが、城崎温泉へは湯治を目的に、京都や大坂などから多くの訪問者があった。客の増加により、現在の旅行ガイドブックにあたる『但州湯島道中 独案内』や旅行記『但馬湯嶋道之記』なども刊行された。

交通の発達は物流を盛んにし、各地で藩の奨励による産業も興った。豊岡地域の柳行李生産は、円山川沿いの湿地で原料のコリヤナギを栽培し、江戸でも市場を開拓して大きなシェアを占めた。出石地域では寛政年間(1789~1801)に良質な陶石が発見されて出石焼の生産が始まり、舟運を利用して山陰や北陸にも販路を広げた。但東地域では、19世紀初めに丹後から縮緬産業が伝えられ、副業として山村の発展を支えた。

黒船が来航した幕末は、倒幕運動が盛んとなり、但馬でも「生野の変<sup>注16)</sup>」が起こった。本市には多田弥太郎顕彰之碑(出石町暮坂)が建てられている。鳥羽・伏見の戦いで新政府軍が幕府軍に勝利すると、豊岡藩と出石藩はこれに協力して版籍奉還を行い、明治時代が始まった。

## 明治時代以降

明治4年(1871)の廃藩置県により、豊岡・出石の両藩は解体され、豊岡県が誕生した。豊岡県は、但馬・丹後・丹波を含み、人口約50万人の広範囲を管轄した。豊岡地域は、江戸時代の陣屋跡に県庁が置かれ、公共施設や金融機関などが相次いで建てられ、北近畿の中心地として栄えた。明治9年(1876)には行政機構の再編がなされ、豊岡県は兵庫県となったが、兵庫県豊岡支庁が引き続き豊岡地域に置かれた。



京街道の関所跡近くの記念碑



桜尾窯



多田弥太郎顕彰碑



旧豊岡県庁正門

注16) 文久3年(1863)、但馬の郷士・豪農らが生野で起こした武装蜂起。代官所を占拠したが鎮圧された。

江戸時代に但馬の中心地の1つであった出石地域は、明治9年(1876)に起こった大火で壊滅的な被害があった。しかし、出石焼や製糸産業などに支えられながら、江戸時代の町並みを継承した再建が進められた。明治20年(1887)に和洋折衷が特徴的な出石郡役所(現明治館)、明治34年(1901)に芝居小屋「永楽館」が建てられ、賑わいを見せた。

基盤施設の整備も進み、電話は明治41年(1908)に豊岡地域、翌年には出石地域で利用可能になった。電気は明治43年(1910)に城崎地域で供給が始まった後、豊岡・出石地域などへ普及した。上水道は大正11年(1922)に豊岡地域に設置され、周辺の農村部へ拡大していった。

鉄道も近代化に大きな役割を果たした。山陰本線は明治42年(1909)に城崎駅(現城崎温泉駅)まで、明治45年(1912)には出雲今市駅(現出雲市駅)までが開通すると、鉄道が輸送の主役となった。城崎では温泉街を訪れる観光客が急増し、多くの文人墨客も訪れた。志賀直哉もその1人で、大正2年(1913)に外傷の療養のため城崎温泉を訪れ、そこでの体験を小説『城の崎にて』に著した。

大正時代は、豊岡地域で円山川改修工事や上水道整備などを柱とした「大豊岡構想」が進展し、寿ロータリーを中心とした都市計画が進められた。

こうしたなか、大正14年(1925)5月23日、マグニチュード6.8の地震が発生した(北但大震災)。震源に近い豊岡地域や城崎地域は大規模な火災に見舞われた。復興にあたり、豊岡市街地では防火帯として鉄筋コンクリート造の建物が多く建てられた。また、城崎温泉街では、防火壁など火災に対する備えを施しながら、木造建築を主体とする温泉街の雰囲気を持続した復興がなされた。

震災復興と時を同じくして、近代スポーツによるスキー観光の開発が始まった。大正12年(1923)に神鍋高原にスキー場が開業し、京阪神から多くのスキー客が訪れるようになった。また、太平洋戦争後の昭和32年(1957)に、神鍋高原が国民体育大会冬季大会のスキー会場となり、レクリエーション施設が地域経済の一翼を担うようになった。



明治時代の出石(『但馬商工便覧』より)



円山川改修測量計画図(大磯付近)



寿ロータリー



北但大震災に伴う火災

内陸部は、繊維産業や鉱山開発、養蚕も盛んだった。日高地域では、明治時代後半には製糸工場が稼働し、但東地域では、工場の機械化等によって縮緬生産が発展した。竹野鉱山(竹野町 <sup>ひがしおおたに</sup> 東大谷ほか)は、昭和14年(1939)に精錬所が設けられて活況を呈した。鉱山が閉じられると、離職した兼業農家によって但馬牛の飼育戸数が増加し、品質の高い子牛を生産した。

これに対し、海岸部は昭和に入ってから漁業の近代化が進んだ。動力船の導入により、漁場が広がり、水揚げ量・漁獲高とも増加した。

それぞれの地域の特徴を活かして発展してきた豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町は、平成17年(2005)4月1日に合併し、新しい豊岡市が発足した。



竹野鉱山



津居山港

# 第3章 「豊岡の宝もの」

## 第1節 「豊岡の宝もの」の概要

### (1) 指定等文化財

令和8年(2026)8月現在、本市の指定等文化財は442件であり、その内訳は表3-1のとおりである。国指定26件、国選定1件、県指定57件、市指定251件、国登録106件、県登録1件であり、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財及び無形の民俗文化財の選択並びに文化財の保存技術の選定はない。指定等文化財の一覧及び分布は巻末資料に示す。

なお、「豊岡の宝もの」の区分で指定等文化財の件数を整理すると473件<sup>注1)</sup>であり、その内訳は「歴史資源」が411件、「文化資源」が16件、「自然資源」が46件である。

表3-1 指定等文化財の件数 (令和8年(2026)8月現在)

文化財保護法に基づく類型		国				県		市	総数	[豊岡の宝もの]の区分
		指定	選定	選択	登録	指定	登録	指定		
有形文化財	建造物	6	/	/	106	6	1	43	162	歴史資源
	美術工芸品	6	/	/	0	28	/	132	166	
	絵画	1	/	/	0	6	/	23	30	
	彫刻	4	/	/	0	13	/	32	49	
	工芸品	1	/	/	0	1	/	18	20	
	書跡・典籍	0	/	/	0	1	/	33	34	
	古文書	0	/	/	0	0	/	8	8	
	考古資料	0	/	/	0	6	/	15	21	
歴史資料	0	/	/	0	1	/	3	4		
無形文化財		0	/	0	0	0	/	1	1	文化資源
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	/	/	0	1	/	8	9	
	無形の民俗文化財	0	/	0	0	2	0	9	11	
記念物	遺跡(史跡)	2	/	/	0	6	/	30	38 <sup>※1</sup>	歴史資源
	名勝地(名勝)	1	/	/	0	3	/	8	12 <sup>※2</sup>	自然資源
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	11 <sup>※3</sup>	/	/	0	11	/	20	42	
文化的景観		/	0	/	/	/	/	/	0	文化資源
伝統的建造物群		/	1 <sup>※4</sup>	/	/	/	/	/	1	
総数		26	1	0	106	57	1	251	442	

※1：38件はいずれも「歴史資源」に該当する。

※2：12件のうち、県指定1件、市指定2件が「自然資源」、その他9件は「歴史資源」に該当する。

※3：11件のうち、2件は「特別天然記念物(地域を定めず)」、7件は「天然記念物(地域を定めず)」である。

※4：国選定の重要伝統的建造物群保存地区「豊岡市出石伝統的建造物群保存地区」の特定物件は299件(うち、指定等文化財は2件)

注1) 複数の「豊岡の宝もの」を合わせて1件として指定等しているものがあるため、指定等文化財の件数442件と異なる。

## (2) 指定等を受けていない「豊岡の宝もの」

これまでの国・県・市の調査等を通じて把握した指定等を受けていない「豊岡の宝もの」は、合計 14,070 件である。歴史資源は 11,459 件、文化資源は 2,425 件、自然資源は 186 件であり、それらの内訳は表 3-2 のとおりである。

表 3-2 把握した指定等を受けていない「豊岡の宝もの」の件数（令和 8 年(2026) 8 月現在）

区分		件数		
歴史資源	①建造物	建築物	611	742
		土木構造物・工作物	131	
	②美術工芸品	絵画	166	3,675
		彫刻	1,359	
		工芸品	673	
		書跡・典籍	96	
		古文書	97	
		考古資料	29	
		歴史資料	1,255	
	③遺跡・旧跡※1	散布地・集落跡・貝塚	235	7,035
		官衙跡	7	
		城館跡	197	
		寺社跡	64	
		古墳・その他の墓	6,433	
生産遺跡		55		
経塚・祭祀遺跡、条里遺跡等		44		
街道・古道		5		
近代以降の施設跡		7		
④公園・庭園	公園	1	7	
	民家・寺社等の庭園	6		
文化資源	①祭り・行事、民俗芸能、慣習	風俗慣習（年中行事等）	1,252	2,178
		民俗芸能（舞・踊り、音頭・囃子・唄等）	52	
		信仰の場	865	
		地域の伝統的な娯楽等	9	
	②伝統の技	演劇・音楽・工芸技術、民俗技術等	4	4
	③食文化	郷土料理・行事食等	40	40
	④生活・祭礼道具	民具・生活用具類	4	45
	祭り・行事に使う道具類	41		
⑤説話・伝承	民間伝承・俗信、地名由来説話等	147	147	
⑥町並み、暮らしの風景	歴史的な町並み、生活・生業を反映した風景	11	11	
自然資源	①動物	動物種	26	30
		動物の生息地	4	
	②植物	巨樹・名木	56	85
		樹林・社叢、貴重な植物群落・植物種	29	
	③地形・地質、自然風景	山岳・河川・湖沼・海浜等とその風景	53	71
地質資源、鉱物・岩石		18		
合計			14,070	

※1：遺跡・旧跡は、古墳群を利用した山城などのように、区分に重複があるため、区分別件数の合計と「遺跡・旧跡」の合計件数は異なる。

### (3) 関連する制度による指定等

#### ① ユネスコ世界ジオパーク

ユネスコ世界ジオパークは、「国際的な地質学的重要性を有するサイトや景観が、保護・教育・研究・持続可能な開発が一体となった概念によって管理された、単一の、統合された地理的領域」<sup>注2)</sup>である。国際的に価値のある地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生及び持続可能な開発を実現することを目的とした事業であり、ユネスコ世界ジオパーク・カOUNシルによる審査の上で、ユネスコ執行委員会により認定が行われている。

「山陰海岸ジオパーク」(区域：鳥取市北部・岩美町(鳥取県)、新温泉町・香美町・豊岡市(兵庫県)、京丹後市(京都府))は、日本列島がユーラシア大陸の一部だった頃から、日本海が形成されて現在に至るまでの多様な地質や地形が存在しており、それらがもたらす多様な自然を背景にした人々の文化や歴史がみられることが評価され、平成22年(2010)10月に世界ジオパーク(平成27年(2015)11月よりユネスコ世界ジオパーク)に認定された。本市には、表3-3に示す12地区の地質サイト<sup>注3)</sup>が設定されている。



竹野ジオカヌー

表3-3 豊岡市内の地質サイト

地質サイト	地域	ストーリー(主なテーマ)	主な見所
竹野海岸	竹野	北前船の風待ち港として発達した物流の町と、はさかり岩や淀洞門などの自然の造形物や日本海拡大を記録した地層を楽しめるサイト	はさかり岩、竹野浜、ポットホール、鋳物師戻峠の巨石、鷹野神社、竹野の町並み、御用地館、宇日流紋岩、宇日の舟屋と町並みほか
竹野川	竹野	竹野川沿いの谷の集落群と金山周辺に発達した山の集落群の、昔ながらの風景を楽しむことができるサイト	轟大神楽、狗留尊仏、床瀬の渓谷ほか
神鍋火山	日高	70万～2万年前に活動した火山群と、それによりできた美しい景観や土壌などを活用した人々の暮らしを楽しめるサイト	神鍋山、風穴、クロボク土の畑地、俵滝、八反滝、二段滝、豊滝、十戸滝、栃本溶岩瘤、万場化石産地、但馬国分寺跡ほか
阿瀬溪谷	日高	阿瀬四十八滝といわれる多くの滝がある溪谷のサイト	源太夫滝(阿瀬五瀑)、龍王滝ほか
日和山海岸	城崎	円山川の河口、リアス海岸の急深な入り江に面した大型の港のあるサイト	マリンワールドと周辺の磯浜、津居山港ほか
気比	城崎	絹巻神社や田結の震災記念碑など、歴史と震災復興を学ぶことができるサイト	気比の浜、田結断層と震災記念碑、絹巻山と絹巻神社ほか
城崎温泉	城崎	水郷に発達した歴史と文学の温泉町のサイト	城崎温泉、楽々浦、戸島湿地ほか
玄武洞公園・赤石	豊岡	地磁気の逆転で知られる160万年前の噴火による玄武岩が作る不思議な景観を楽しめるサイト	玄武洞・青龍洞・白虎洞・南朱雀洞・北朱雀洞、赤石町並み、兵主神社ほか
豊岡盆地	豊岡	円山川下流域に広がる盆地に発達した、自然と人々の暮らしが共生するサイト	六方たんぼ、コリヤナギ、玄武岩を使った豊岡市街の町並み、中谷貝塚ほか
円山川下流及び周辺水田のラムサール条約湿地	豊岡 城崎	ラムサール条約湿地	戸島湿地、田結湿地ほか
出石	出石	縄文時代の海岸線に位置し、古くから人が住む歴史のサイト	出石町並み、出石神社、此隅山、袴狭遺跡、谷山陶石鉱山、宗鏡寺ほか
但東	但東	大陸の時代及びそれ以前の岩石が広く分布する山間部農村の風情あるサイト	大師山巨石群、清竜の滝、安國寺、大生部兵主神社、日本・モンゴル民族博物館ほか

資料：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料「山陰海岸ジオパークジオサイト一覧」

注2) ユネスコ世界ジオパークの基準 i

注3) 地球の活動がわかる地質や地形があり、ジオパークの見どころとなる場所

## ② ラムサール条約湿地

ラムサール条約(正式名称：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)は、昭和46年(1971)2月2日にイランのラムサールで開催された国際会議で採択された、湿地に関する条約である。日本は、昭和55年(1980)に条約に加入した。

条約第1条1で、「湿地とは、天然のものであるか人工のものであるか、永続的なものであるか一時的なものであるかを問わず、更には水が滞っているか流れているか、淡水であるか汽水であるか鹹水(海水)であるかを問わず、沼沢地、湿原、泥炭地又は水域をいい、低潮時における水深が6メートルを超えない海域を含む。」と定義している。この定義のもと、国際的な基準に従って自国の湿地を指定し、条約事務局が管理する「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に掲載された湿地が「ラムサール条約湿地」である。

本市では、平成24年(2012)7月に「円山川下流域・周辺水田」が登録されている。その概要は表3-4のとおりである。



市立ハチゴロウの戸島湿地

表 3-4 豊岡市内のラムサール条約湿地

湿地名	円山川下流域・周辺水田
登録年月日	平成24年(2012)7月3日
面積	1,094ha
湿地の特徴	河川及び周辺水田、コウノトリの生息地
保護の形態	国指定円山川下流域鳥獣保護区円山川下流域特別保護地区、山陰海岸国立公園特別地域、河川区域
湿地の概要	兵庫県の北東部に位置し、汽水域が河口から16km以上上流にまで広がる非常に緩やかな流れの円山川、その周辺水田や絶滅危惧種のコウノトリが繁殖する人工湿地「市立ハチゴロウの戸島湿地」など様々なタイプの湿地で形成されている。水田では環境創造型農業の「コウノトリ育む農法」に取り組む農家もある。2018年10月18日付で登録区域を現在の面積に拡大した。

資料：環境省HP「ラムサール条約と条約湿地」各条約湿地の概要, [URL][https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/RamsarSites\\_in\\_Japan.html](https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/RamsarSites_in_Japan.html)

## ③ 100年フード

100年フードは、我が国の多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を、100年続く食文化「100年フード」として文化庁が認定し、継承を推進するものである。

本市では、令和4年度(2022年度)に出石皿そばが「伝統の100年フード部門～江戸時代から続く郷土の料理～」で認定された。その概要は表3-5のとおりである。



出石皿そば

表 3-5 豊岡市内の100年フード

100年フード名	出石皿そば
食文化ストーリー	1706年(宝永3年)信州上田の仙石家がお国替えにより出石に移封された際、そば打ち職人を同行したことから出石に定着し、以来300年間そば打ちの技法は改良されながら発展し受け継がれてきました。自然豊かなこの町の恵まれた水や観光をもっと盛り上げようと努力した先人のお陰で現在40軒ほどのお店があり、町の方々にも他地域の方からも愛されています。

資料：文化庁HP「食文化あふれる国・日本」全国各地の100年フード, [URL]<https://www.bunka.go.jp/seisaku/shokubunka/foodculture/hyakunenfood/jirei/>

#### ④ 伝統的工芸品

一定の地域で主として伝統的な技術又は技法等を用いて製造される伝統的工芸品について、その産業の振興を図り、国民の生活に豊かさと潤いを与えるとともに地域経済の発展に寄与し、国民経済の健全な発展に資することを目的として、昭和49年(1974)に伝統的工芸品産業の振興に関する法律(伝産法)が施行された。同法に基づき、本市では「出石焼」と「豊岡<sup>きりゅう</sup>杞柳細工」が国の伝統的工芸品に指定されており、経済産業省の支援のもと、出石焼陶友会や兵庫県杞柳製品協同組合を中心に振興が図られている。

また、兵庫県は平成4年(1992)に兵庫県伝統的工芸品指定要綱を定めて、兵庫県伝統的工芸品指定制度を設けた。本市では「城崎麦わら細工」が指定され、城崎麦わら細工振興協議会を中心に振興が図られている。

表3-6 豊岡市内の伝統的工芸品及び兵庫県伝統的工芸品

指 定 名 称	伝統的工芸品		兵庫県伝統的工芸品
	出石焼	豊岡杞柳細工	城崎麦わら細工
指定年月日	昭和55年(1980)3月3日	平成4年(1992)10月8日	平成5年(1993)3月19日
概要・特徴	<p>江戸時代中期に地元で大量の白磁の原石が発見されたことから、藩主の援助を受け今の佐賀県有田町の陶工を招いて、出石の城下町で磁器作りをしたのが始まりとされています。</p> <p>その後窯元の数が増えていき、産地を形成するようになりました。</p> <p>磁器産地の中で、唯一「純白」を誇る白磁の産地です。また、その美しさを引き立てる彫刻の技術は、とても高度なものです。絹の肌を思わせる出石焼は清楚な風情を持ち、優雅で気品にあふれています。</p>	<p>杞柳細工の始まりは1世紀の初めまで遡り、奈良正倉院御物の中には、今も「但馬国産柳箱」が残されています。</p> <p>円山川の荒地に生えるコリヤナギで籠を編むことから始まった杞柳細工は、豊岡が城下町となった時期に産業としての形が整いました。</p> <p>江戸時代には、藩主が杞柳細工を保護奨励して専売制度を確立したことから、豊岡の製品が世に知られるようになりました。</p> <p>自然木の味わい、強くしなやかな風合い、柔らかさと粘りを生かしながら、職人の手によって一つ一つ編み上げていくカゴの技法には、縄編み6種類、側編み(そくあみ)33種類、縁組(ふちぐみ)18種類があり、製作する人の意図によって様々な作品が出来上がります。</p>	<p>細かい手作業により美しい模様を作り出す城崎麦わら細工は、江戸時代享保年間(1716~1735)に因州(現在の鳥取県)の住人「半七」という者が城崎に湯治に来ている間、宿賃の足しにと麦わらを色とりどりに染めて、こま、竹笛などの玩具にはり付け、浴客の土産としたのが始まりで、売れ行きも良かったため糸巻き、指輪等新しいものが考案されたといわれています。</p> <p>今日では、その模様は精巧豊麗な小筋模様のほか花鳥、山水図等もあり、他に類を見ない伝統的工芸品としてその独特の持ち味は高く評価されています。</p>
産地組合 ・製造者	出石焼陶友会	兵庫県杞柳製品協同組合	城崎麦わら細工振興協議会

資料：経済産業省 HP「伝統工芸 青山スクエア」工芸品を知る, [URL] <https://kougeihin.jp/learn/>  
 兵庫県 HP, 兵庫県の伝統的工芸品の紹介, [URL] [https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr09/ie07\\_00000016.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/sr09/ie07_00000016.html)

## 第2節 「豊岡の宝もの」の特徴

### (1) 歴史資源

#### ① 建造物

**建築物** 寺院建築のうち、温泉寺本堂(城崎町湯島、国指定)は、至徳4年(1387)頃に建立された但馬地方最古の木造建造物である。また、<sup>かんのんじ</sup>観音寺仁王門(日高町観音寺、県指定)は、15世紀前半の建立と推測される和様と禅宗様が融和する特徴的な山門である。

神社建築では、中島神社本殿(三宅、国指定)は、正長元年(1428)の建立で、二間社<sup>ながれづくり</sup>流造という珍しい様式をもつ。<sup>さかたる</sup>酒垂神社本殿(<sup>ほっけいじ</sup>法花寺、国指定)は、文安元年(1444)に建立された一間社流造の小規模な社殿であるが、室町時代前期～中期の特色を色濃く残す。<sup>くくひ</sup>久久比神社本殿(<sup>しものみや</sup>下宮、国指定)は、永正4年(1507)に建立された三間社流造の社殿で、大胆かつ細密な技術が集められている。室町時代末の建立である日出神社本殿(但東町<sup>はたやま</sup>畑山、国指定)は、正面庇部分に江戸時代中期の改造が見られるが、細部の部材に当初のものを残す。<sup>いかずち</sup>雷神社本殿(<sup>さの</sup>佐野、県指定)は、明暦2年(1656)に建立された五間社の大規模な社殿である。



温泉寺本堂 (国指定)

民家建築では、都市部に比べ農村部の割合が多い本市域は、農家建築が多く見られる。江戸時代に庄屋を務めた大石家住宅(但東町矢根)や赤木家住宅(引野)、平尾家住宅(森尾)は、主屋を中心に多数の土蔵や付属屋を配して塀をめぐる伝統的な農家住宅の屋敷構えを残し、構成する建築物群は国登録有形文化財に登録されている。また、日高地域には、養蚕の効率化を図った木造3階建の農家建築が残り、明治時代から大正時代にかけての養蚕業の隆盛を知ることができる。さらに、竹野町竹野などの日本海沿岸地域の港町・漁村集落には、焼杉板張の民家や舟屋が見られる。



久久比神社本殿 (国指定)

石塔は、室町時代前期の造立である温泉寺宝篋<sup>ほうきょういん</sup>印塔(城崎町湯島、国指定)や鎌倉時代中期の造立とみられる石造九重塔(津居山、県指定)、南北朝時代後期の造立とみられる金剛寺宝篋<sup>こんごうじ</sup>印塔(金剛寺、県指定)など、鎌倉～室町時代造立の石塔が多く残る。中でも<sup>みょう</sup>妙経寺の中世石造供養塔群(九日市<sup>このかいち</sup>下町、市指定)は、寺に残る由緒などから、室町時代前半の山名氏の在り



永楽館 (県指定)

の有力被官(家臣)らの供養塔と考えられている。

その他の建築は、<sup>たつとく</sup>達徳会館(京町、県指定)や旧出石郡役所(出石町<sup>うおや</sup>魚屋、市指定)、旧城崎郵便局(城崎町湯島、国登録)などの明治時代以降の近代化を象徴する擬洋風建築が残る。また、城崎温泉街の旅館、旧豊岡町役場庁舎(中央町、国登録)や旧兵庫縣農工銀行豊岡支店(中央町、国登録)などの豊岡震災復興建築、出石城下町の永楽館(出石町<sup>やなぎ</sup>柳、県指定)のように、各地域の歴史や文化を反映した建築が残る。

**土木構造物・工作物** 土木構造物は、<sup>おおたに</sup>大谿川に架かる城崎温泉街の弓形橋梁群(愛宕橋、<sup>べんてん</sup>辨天橋、<sup>ももしま</sup>桃島橋、<sup>やなぎゆ</sup>柳湯橋)及び<sup>おう</sup>王橋(いずれも城崎町湯島、国登録)や日本に3つしかないラチス桁橋梁の一つである竹野川橋梁(竹野町須谷)、「大豊岡構想」のもとに大正時代に造られた寿ロータリーなどがある。

工作物は、総延長 58mの平尾家住宅外塀(森尾、国登録)や総延長 48mの大石家住宅南築地塀(但東町矢根、国登録)などの大規模な民家の塀がある。また、昭和 40 年(1965)に建てられたコウノトリ保護増殖センター第一フライングケージ(野上、国登録)は、コウノトリの保護・増殖の先駆的試みを示す本市ならではの特徴的な建造物である。

## ② 美術工芸品

**絵画** 温泉寺の絹本着色十六善神像(城崎町湯島、国指定)は、釈迦如来を中心に四天王と十二神将、右下に玄奘三蔵が葛籠を背負った馬と旅をする姿が描かれた繊細かつ華麗な優品である。<sup>とうらくじ</sup>東楽寺の絹本着色西界曼荼羅図(清冷寺、県指定)は端正な仏画が鮮やかに表現された室町時代の作である。<sup>りゅうこくじ</sup>隆国寺障壁画(日高町荒川、県指定)は、弘化 3 年(1846)に岸<sup>がん</sup>岱・岸徳が制作した力強い虎や繊細な花鳥などの 36 面の襖絵で、日本画の<sup>きしは</sup>岸派の代表的な作品として知られる。<sup>きょうおうじ</sup>経王寺の三十六歌仙屏風(出石町<sup>しも</sup>下谷、市指定)は、江戸時代初めに活躍し



大石家住宅主屋 (国登録)



桃島橋 (国登録)



コウノトリ保護増殖センター  
第一フライングケージ (国登録)



隆国寺障壁画 (県指定)

た土佐光起の作と伝えられ、各歌仙の克明かつ精密な描写と品のある顔立ちから、作者の優れた技能を垣間見ることができる。このほか、城崎出身で山水画を得意とした明治時代の南画<sup>注4)</sup>家である斎藤崎庵の作品など、市内各地の寺院に仏画や山水画が数多く残る。

また、市内各地の神社に多くの絵馬が奉納されており、絵画としての芸術性に加え、地域の歴史や信仰等の地域性を表している。日本海沿岸の地区には、興長寺熊野堂海上信仰資料(竹野町竹野、市指定)をはじめ、江戸時代末から明治時代初期に海上安全を祈願して奉納された船絵馬などが残る。

**彫刻** 市内各地の寺院に数多くの仏像彫刻が安置されており、平安時代制作の古い仏像も多く残る。東楽寺の木造四天王立像(清冷寺、国指定)は平安時代中期の作風を反映した重厚かつ尊厳ある堂々とした像である。温泉寺の木造十一面観音立像(城崎町湯島、国指定)は平安時代中期の作で、荒々しいノミ跡を残し、素朴さと力強さを併せ持つ。その左右に立つ木造四天王立像(県指定)及び庫裡に安置されている木造千手観音立像(国指定)は、平安時代後期～末期の穏やかな作風を持つ。長楽寺の木造毘沙門天立像(日高町上石、市指定)は両脇を締めた静かな立ち姿を示し、左袖などに制作当初のものとみられる彩色が残るほか、細部にいたるまで神経の行き届いた表現が見られ、制作年代は11世紀に遡ると推定される。また、日高町羽尻や日高町観音寺には、自然の岩壁に仏像を彫った磨崖仏(いずれも市指定)が残されている。

**工芸品** 脇指銘但州住国光(出石町宮内、国指定)は、弘道館で学んだ出石出身の明治政府官僚である桜井勉<sup>つとむ</sup>が出石神社に寄進した南北朝時代制作の小刀である。

このほか、観音寺墓地から出土した鎌倉時代の青銅密教法具(竹野町羽入、市指定)や、明德2年(1391)の銘がある進美寺の鰐口(日高町赤崎、県指定)がある。



海上安全を祈願した船絵馬



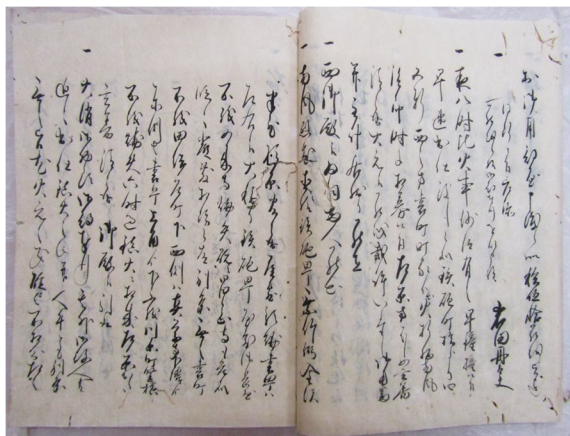
長楽寺 木造毘沙門天立像(市指定)



羽尻の磨崖仏(市指定)

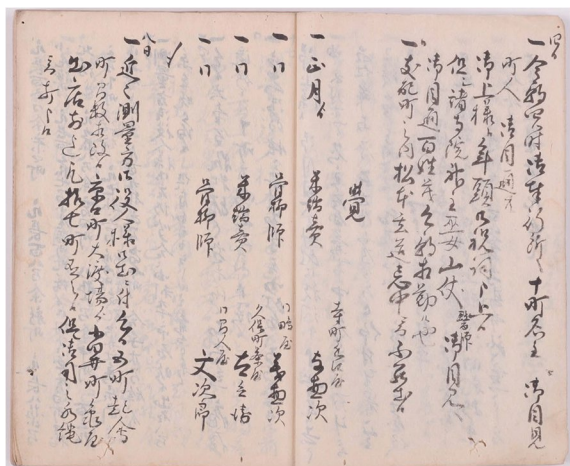
注4) 清(中国)の絵画の影響を受け、江戸時代中期以降に興った画派。水墨で山水を多く描く。

**書跡・典籍** 進美寺文書(日高町赤崎、県指定)は、源頼朝が但馬国守護に出した命令書などであり、鎌倉時代に公家・武家の祈祷所として但馬随一の寺勢を誇った進美寺と中央の関係を示す。後村上天皇<sup>りんじ</sup>繪旨<sup>注5)</sup>(出石町宮内、市指定)は、但馬地方も南北朝動乱と無関係ではなかったことを伝える。温泉寺縁起帳(城崎町湯島、市指定)のうち現存最古のものは大永8年(1528)に書き写されたときれ、往時の温泉寺の様子を伝える。御用部屋日記(市指定)は、出石藩の公式記録であり、文化12年(1815)から明治5年(1872)までの計693冊が現存し、城下町の様子や出来事を記録した貴重な資料である。



御用部屋日記(市指定)

**古文書** 但馬国太田文(写)<sup>おたぶみ</sup>(但東町中山、市指定)<sup>なかやま</sup>は、但馬国守護が鎌倉幕府に対して作成した土地台帳であり、当時の土地の支配関係や在地の勢力関係を知ることができる。天正八年「検地帳」(写)(市指定)は、天正8年(1580)に山名氏が羽柴秀吉によって滅ぼされた直後に作成された但馬最古の検地帳である。鳥井家文書(市指定)は、豊岡の名主である鳥井家が江戸時代後半～明治時代初めにかけて書き継いだ日記を主とし、当時の町方の暮らしを伝える。



鳥井家文書(市指定)

このほか、特徴的な古文書は、出石神社や<sup>そうじし</sup>総持寺(いずれも出石町宮内)の戦国時代の戦火による被害からの再興に関する文書、豊岡藩の動向や武士の生活を知ることができる舟木家文書、天明4年(1784)の疫病流行の様子を伝える有力農民の記録である懐中錦袋(津居山)、北但大震災の様子を伝える伊智地家文書などがある。

**考古資料** 各時代を代表する考古資料は、縄文時代中期の見蔵岡遺跡(竹野町松本)の石棒生産に関わる出土品(県指定)、弥生時代後期の弥生式土器(器台)(市指定)、古墳時代の三角縁神獸鏡<sup>注6)</sup>などを含む森尾古墳出土品(森尾、県指定)、奈良時代の但馬国分寺跡から出土した木簡や風鐸(市指定)、平安時代後期の<sup>ただち</sup>田多<sup>ち</sup>地出土遺物(出石町、県指定)などがある。また、袴狭遺跡(出石町袴狭)からは16隻の船団が描かれた弥生時代の木製品が出土しており、円山川や日本海を通じた交流の様子が伺える。



但馬国分寺跡出土 風鐸(市指定)

注5) 勅命を受けて記された文書。

注6) 神や獣が表現された鏡。縁の断面が三角形で、直径20cmを超える大型品が多い。

なお、気比で出土した4口の銅鐸は「流水文銅鐸」として重要文化財に指定され、東京国立博物館に所蔵されている。なお、うち1口は東奈良遺跡(大阪府茨木市)出土の鋳型で作られたことが判明している。

**歴史資料** 金剛寺文書(足利尊氏寄進状<sup>注7)</sup> (金剛寺、県指定)は、足利尊氏が南北朝の戦いで亡くなった人たちの供養のために金剛寺に利生塔を造った時に、池内村と押坂社を寄進したことを示す文書である。明治時代の円山川改修測量図(市指定)は、但馬における近代的技術による測量図の中で最も古いとされる。江戸時代以降は多くの絵図が作成されており、但馬出石御城下図は地域の歴史を伝える重要な資料である。各郡・村でも郡絵図や村絵図が作成され、その多くが今も各集落で保存されている。

このほか、供養塔や石碑、道標等を多数把握している。

### ③ 遺跡・旧跡

各時代の主な遺跡・旧跡は次のとおり整理できる。

縄文時代は、竪穴住居が検出された神鍋遺跡(日高町太田)、石錘など漁撈道具が見つかった中谷貝塚(中谷、県指定)、呪術・祭祀に使われたとみられる石棒やその製作道具が出土した見蔵岡遺跡(竹野町松本)がある。

弥生時代は、籾痕のある土器が出土した川原遺跡(駄坂)、銅鐸が出土した気比遺跡(気比、銅鐸出土地(跡)として市指定)がある。

古墳時代は、三角縁神獣鏡が出土した森尾古墳(森尾、市指定)、中国製の鏡が出土した入佐山3号墳(出石町袴狭)、6世紀末に造られた但馬で最も新しい前方後円墳で、竪穴系横口式石室という特異な横穴式石室をもつ見手山1号墳(妙楽寺)がある。また、川や海を経済基盤とした有力者の存在を伺わせる円山川に面した二見谷古墳群(城崎町上山、県指定)、日本海に面した風谷古墳(田結、市指定)やヨゴレババ古墳群(竹野町田久日、市指定)などもある。

奈良～平安時代は、但馬国府跡とされる祢布ヶ森遺跡(日高町祢布)や一辺160mの壮大な規模をもつ伽藍の様子が分かりつつある但馬国分寺跡(日高町国分



但馬出石御城下図



ヨゴレババ1号墳(市指定)



但馬国分寺跡(国指定)

注7) 寄進(寺社などに金銭・物品を寄付すること)する際の趣旨などを記した文書。

寺、国指定)がある。また、袴狭遺跡群(出石町袴狭)は礎石建物のほかに墨書土器や木簡などの文字資料、木製祭祀具が見つかり、出石郡家(郡役所)との関連が考えられている。

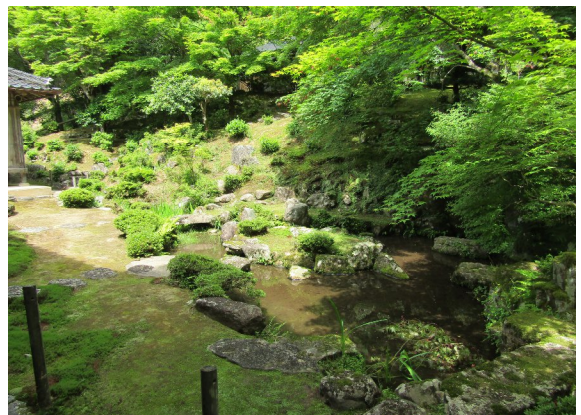
南北朝～戦国時代は、本市域に150以上の城が築かれた。主な城跡は、室町時代に絶大な権力を誇った山名氏の拠点が置かれた此隅山城跡(出石町袴狭、国指定)や、此隅山城の落城後に織田信長や羽柴秀吉の侵攻に備えて急峻な山の上に築かれた有子山城跡(出石町内町、国指定)、三開山城跡(木内ほか、市指定)、水生城跡(上佐野・日高町上石)、菅田城跡(日高町岩中・日高町久斗)などがある。

江戸時代は、有子山城麓の居館部分を改修して築かれた出石藩の拠点である出石城跡(出石町内町、市指定)、豊岡藩の拠点である豊岡陣屋跡(京町)のほか、出石藩が振興した出石焼の窯跡(出石町福住、市指定)がある。なお、昭和14年(1939)に構築された出石焼の窯は、西欧起源の窯構造を持つ現存する数少ない徳利窯であり、近代化の中で新しい技術を取り入れた様子が伺える。

#### ④ 公園・庭園

室町時代末期に造られた旧大岡寺庭園(日高町大岡、国指定)は、池の周りに巨石と立石が配置され、背後の大岡山の斜面を取り込んで力強く風格ある景色を作っている。宗鏡寺本堂庭園(出石町東條、県指定)は、入佐山から流れ出る水を利用し、池の形を鶴形に、中島を亀形になぞらえた池泉観賞式庭園である。観正寺庭園(気比、県指定)は池をもたない石組のみで造られた築山式枯山水庭園で、江戸在住の岩崎清光が文化4年(1807)に作ったという記録が残され、庭園史を語る上で貴重なものである。

このほか、江戸時代に庄屋の庭園として造られた中和邸庭園(出石町三木、市指定)などがある。



宗鏡寺本堂庭園(県指定)

## (2) 文化資源

### ① 祭り・行事、民俗芸能、慣習

年間の祭り・行事、民俗芸能、慣習のうち、特徴的なものは次のとおりである。

**年末・正月** 年末は注連縄作りや飾りものの準備、餅つきなど、新年を迎える準備が行われる。大晦日の夕方に迎えどんどを行う地区もある(日高町日置など)。

正月には新しい年の始まりを祝い、一年間の無事を祈るさまざまな行事が各地区で行われる。

万歳は、各家の屋敷や門前で祝いを述べる祝福芸である。法花寺万歳(法花寺、県指定)は、江戸時代後期に京都へ奉公に出ていた村民が習い覚えたとき、太夫と才若が三味線に合わせておもしろおかしく掛け合いを演じる。



法花寺万歳(県指定)

塞の神は、道を遮り、疫病や悪霊の侵入を防ぐ「道

切り」の神で、田ノ口の塞の神祭(日高町<sup>たのくち</sup>田ノ口、市指定)は、1月15日の小正月(現在は成人の日に変更)に大わらじと大ぞうりを神木に奉納する行事である。

また1月には、市内各地区でどんどが行われる。

春 春は田植えの季節であり、予祝の祭り<sup>注8)</sup>が多い。

雷<sup>いかずち</sup>神社の御田植祭(佐野、市指定)は、稲苗に見立てたイズミザクラの枝を授かった氏子が円陣を作り、その中で牛使い役が土をならすしぐさをして豊作を祈願する。お田植え祭は箱根神社(出石町福居)でも行われる。

松岡<sup>まつおか</sup>の御柱<sup>おはしら/おとう</sup>祭(日高町松岡、市指定)は、承久の乱(承久3年(1221))の際に円山川に身を投げた幸姫<sup>ゆきひめ</sup><sup>注9)</sup>の霊を慰めるために始まったと伝えられ、毎年4月に行われる。

出石神社の幟<sup>のぼり</sup>まわし(出石町宮内、市指定)は、アメノヒボコが瀬戸の岩戸を切り開いた後、意気揚々と帰るさまを表した祭りで、中学生が初節句を迎える男の子の家を回り、輪になって竹法螺<sup>たけぼら</sup>の音に合わせて囃子唄を歌い、子どもの成長を祈る行事である。

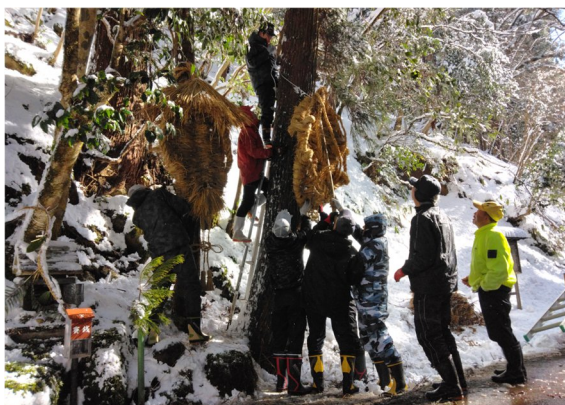
夏<sup>せきりょう</sup>石龍<sup>いせりゅう</sup>神社(日高町<sup>く</sup>久斗)の祭神は、白蛇で雨乞いの利益<sup>りやく</sup>があるとされ、7月に子ども相撲が奉納される。

水無月神社<sup>みづなづき</sup>の川濯<sup>かわすす</sup>祭り(日高町<sup>あさくら</sup>浅倉)は、円山川・稲葉川の氾濫を防ぐために神輿が川に入ってお祓いしたのが起源とされ、現在も水難除けを願って円山川での神輿<sup>とぎよ</sup>渡御が行われる。

但東町<sup>くぼた</sup>久畑では練り込み太鼓の行列が集落を回る。

盆は先祖を供養する行事が行われる。市内各所で盆踊りが踊られ、江戸時代に祝宴の席で供されたことに始まる日高地域の西気・清滝特有の民謡であるそうだろ節(市指定)、九日市が発祥とされるヤチャ踊(市指定)が伝わる。

轟<sup>とどろき</sup>の太鼓踊(竹野町轟、県指定)は、施餓鬼供養のりに先祖の追善供養として蓮華寺の本堂横で踊ら



田ノ口の賽の神祭(市指定)



雷神社の御田植祭(市指定)



松岡の御柱祭(市指定)



久畑の練り込み太鼓

注8) 農作物などの豊穰を祈って、あらかじめ模擬実演する行事。  
注9) 流刑になった雅成親王の妃。

れる。万灯や仏送りも市内各所で行われ、両者が一体化している地域もある。

夏も終わりに近づくと、各所で地蔵盆が行われる。また、但東地域の各地区では農作物の風害防除を祈念する風祭り<sup>注10)</sup>が行われる。

**秋** 秋は豊作を祝う祭りが多く、豊岡、城崎、出石の各地域の市街地では、それぞれ盛大なだんじり祭りが行われる。豊岡市街地では、女代神社、小田井縣神社、日吉神社の3神社の氏子によるだんじりパレードが行われる。城崎だんじり祭りは、四所神社の例大祭としてだんじりが城崎温泉街を回る。四所神社の神輿が七つの外湯を巡って祈祷し、四所神社に戻れるよう「台」が寄り添って守るのを「大だんじり」が邪魔をするというストーリーに沿って進む。出石だんじりまつりは、「喧嘩だんじり」とも呼ばれ、だんじり同士が激しくぶつかり合う。

太刀振りは、丹後から但東地域の奥藤地区へ伝わった。太刀振りが現存する赤野地区(但東町中山)では、赤野神社境内で刀を振り回しつつ飛び越える「宮振り」が奉納される。

出石地域では、江戸時代末期の大名行列槍振りの所作が伝承されており、出石お城まつりで披露される。

さき囃子(但東町虫生、市指定)は、もとは虫除け・雨乞い祈願のために奉納されていたものであり、現在も小・中学生により安牟加神社の農村歌舞伎舞台で行われる。

祭礼に伴う民俗芸能で本市に多く分布しているのは、伊勢の太神楽系獅子舞の流れを汲む獅子舞であり、日吉神社秋祭りの日吉太神楽(山王町)、森神社秋祭りの轟大神楽(竹野町轟、市指定)、気多神社秋祭りの太神楽(日高町上郷)などが挙げられる。

## ② 伝統の技

国の伝統的工芸品である出石焼、豊岡杞柳細工、兵庫県伝統的工芸品である城崎麦わら細工の制作技術



轟の太鼓踊 (県指定)



城崎だんじり祭り



大名行列槍振り (市指定)



轟大神楽 (市指定)

注10) 呼称は場所によって異なる。

がある。中でも城崎麦わら細工は市の無形文化財に指定されている。また、豊岡鞆は杞柳細工の柳行李を起源とし、その伝統技術と流通経路を基盤に、新素材や縫製技術の導入により国内トップクラスのブランドに成長した。

### ③ 食文化

郷土料理では、宝永3年(1706)に仙石家が信州上田から出石に移封された際にもたらわれたと伝わり、後に出石焼の皿に盛る様式が確立したとされる出石皿そばがある。また、宝永5年(1708)創業の出石酒造(有)の純米酒「きさつる楽々鶴」のほか、山間部に但馬牛やとち餅等、海岸部に松葉ガニやイカなどの海産物がある。

行事食の代表的なものとしては、但馬国分寺(日高町国分寺)の本尊開帳の際に供えられるすり焼きがある。すり焼きはそら豆の餡が入った団子をミョウガの葉で包んで蒸し、両面を軽く焼いたものである。

### ④ 生活・祭礼道具

祭り・行事に使う道具類では、出石大名行列で用いる大名行列諸道具一式(出石町内町、市指定)、日吉太神楽の獅子頭(山王町)、愛宕さんまつりの獅子頭(出石町上野うえの ゆり(百合))、数珠繰りで使用する長さ12mの大数珠(日高町伊府)などがある。

民具・生活用具類では、柳ごおり生産用具一式および製品(市指定)などの生活・生業に関する用具類がある。このほか、永楽館歌舞伎衣裳及び関連資料(出石町、市指定)や久斗文楽人形の頭(市指定)などの民俗芸能に使われた道具類、かざりせんごくぶね飾千石船(竹野町竹野、市指定)、たかの鷹野神社海上信仰資料(竹野町竹野、市指定)などの漁業や海運業に関連する資料などがある。

### ⑤ 説話・伝承

『古事記』・『日本書紀』にみられるアメノヒボコやその子孫であるタジマモリに関する神話・伝承は、本市の歴史文化に大きな影響を与えてきた。また、鼻かけ地蔵(城崎町きさくら楽々浦)や松岡の御柱祭り(日高町松岡)、説法杉(但東町中山)などのように、市内各地区



城崎麦わら細工 (市指定)



出石皿そば



すり焼き



鼻かけ地蔵

の寺社や祭り・行事、仏像、巨木などにさまざまな説話・伝承が伝わり魅力を向上させている。

## ⑥ 町並み、暮らしの風景

出石伝統的建造物群保存地区（国選定）は、出石城跡の周辺に形成された江戸時代初期からの街路構成がそのまま残り、旧福富家住宅などの狭い間口、格子窓などの特徴をもつ町家、出石家老屋敷などの武家屋敷、寺社、酒蔵などが歴史的景観を形成している。また、城下町の遷り変わりを物語る出石城 櫓 台跡<sup>やぐらだい</sup>に建つ辰鼓楼<sup>しんこうろう</sup>や近畿地方最古の芝居小屋である永楽館などの明治時代に建てられた建物も残されている。

城崎温泉街は、大正 14 年(1925)の北但大震災後、風情ある町並みを取り戻すために木造 3 階建の建物等で町並みが形成された。一方、外湯や旧城崎郵便局などの建物を鉄筋コンクリート造とし、防火壁として分散配置するなどの火災に対する備えも施された。大谿川<sup>おおたにかわ</sup>の護岸には地震によって崩落した玄武洞の玄武岩が使用された。

豊岡市街地は、北但大震災からの復興に際し、但馬の中心都市としての役割を担うべく、駅通り<sup>だいかい</sup>（大開通り）や宵田通り<sup>よいだ</sup>などの主要な街路沿いに、旧豊岡町役場（現豊岡稽古堂）や旧兵庫県農工銀行豊岡支店（現 TOYOOKA1925）などの官公庁施設や銀行等が建てられた。また、民間住宅による防火帯形成のために、補助制度を設けて鉄筋コンクリート造による防火建築の建設を促進した。このような中で、ロマネスクやバロックなどの多様なスタイルが見られる個性的な町並みが創り出された。

竹野地域の中心である竹野は、日本海に面する港町として古い歴史を有している。猫崎半島により風が遮られる風待の良港であり、特に北前船が往来した江戸時代から明治時代にかけて、その寄港地としてにぎわった。今も狭い路地の両側に、強い海風から家屋を守るため焼杉板を壁に張った建物が建ち並んでいる。



出石伝統的建造物群保存地区（国選定）



城崎温泉街の町並み

## （3）自然資源

### ① 動物

国指定の天然記念物 9 件はいずれも「地域を定めず」としての指定であり、中でもコウノトリとオオサンショウウオは特別天然記念物である。

コウノトリは環境の変化や農薬の使用などで数少なくなったため、豊岡盆地に最後まで生息していた個



コウノトリ（国指定）

体を捕獲して増殖を試みたが、実らなかった。捕獲した際に交わした「必ず大空へ戻す」という約束を果たすべく、長い年月をかけて野生復帰に向けた努力を重ねた結果、平成 17 年(2005)から放鳥を開始し 2 年後には野生のヒナが誕生した。今では 500 羽以上が全国各地の空を飛び、海を越えて韓国や中国などまで渡っている。オオサンショウウオは、但東町坂野<sup>さかの</sup>の棲息地を市指定している。平成 16 年(2004)の台風 23 号の後、500 匹以上が出石川流域で発見され、多数生息していることが分かり、オオサンショウウオも棲めるような環境配慮型の護岸に改修された。

このほか、小型のサンショウウオで、絶滅危惧種 I A 類<sup>注11)</sup>とされるアベサンショウウオが生息しており、日高地域の棲息地は環境省によって生息地保護区・同管理地区に指定されている。汽水域のヨシ原には、絶滅危惧種 I B 類<sup>注12)</sup>に指定されているヒヌマイトトンボが生息している。城崎地域の四所神社及び温泉寺の裏山、絹巻神社の裏山は、ヒメハルゼミの発生の地(市指定)として知られる。

## ② 植物

日本海の漁師が目印にしたと言われる畑上の大トチノキ(畑上、国指定)など、地元の人々によって大切に守り今に伝えられている巨木が多く残されている。天神社のトチノキ(日高町万場、県指定)や桑野本の大イチョウ(竹野町桑野本、県指定)、一宮神社<sup>いちのみや</sup>のケヤキの森(但東町久畑、県指定)、絹巻神社及び周辺の暖地性原生林(気比、県指定・市指定)や温泉寺参道沿いのシイの古木群(城崎町湯島、市指定)などの寺社の御神木や樹林も風雨に堪えて今もその姿を誇っている。また、金刀比羅神社のコブシ(野上、市指定)、おまき桜(竹野町椒、市指定)、ハナミョウガの群落(気比、市指定)などは、毎年変わらず季節を知らせる。さらに中国山地では唯一のアスナロ林である<sup>とちやなる</sup>栃が谷平のアスナロ群生(日高町<sup>まんごう</sup>万劫、県指定)も見られる。

このように本市の各地区には、何百年も大切にされてきた巨木や社寺の社叢が数多く見られる。



オオサンショウウオ (国指定)



畑上の大トチノキ (国指定)



おまき桜 (市指定)

注11) 深刻な絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なものであって、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

注12) 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なものであって、I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

### ③ 地形・地質、自然風景

日本海沿岸部は沈水海岸からなる。はさかり岩(竹野町<sup>きりはま</sup>切濱、県指定)は、険しく切り立った岩石海岸の一部が、風化・侵食の過程で崩壊し、巨大な岩が柱のような岩にはさまったものと考えられ、山陰海岸の奇勝のひとつとなっている。宇日流紋岩の流理(竹野町田久日、県指定)は、粘性が高く不均質な流紋岩質マグマが、不均質さを保ったまま流動して固まったもので、美しい縞模様がみられる。また、猫崎半島西側の波蝕<sup>はしよくおうけつ</sup>穴群(竹野町竹野(賀嶋)、県指定)は、荒波と礫が削り出した造形である。

玄武岩の名前の由来となった玄武洞<sup>あかいし</sup>(赤石、国指定)は、美しい柱<sup>ちゅう</sup>状<sup>じょう</sup>節理<sup>せつり</sup>が見られるだけでなく、地磁気の逆転現象発見のきっかけになる研究がなされた国際的にも重要な場所であり、玄武洞公園として整備されている。

内陸にも日本海の形成を物語るさまざまな地質資源が見られる。今から2万5千年前に噴火してできた火山である神鍋山及び神鍋溶岩流(日高町栗栖野ほか、市指定)、その溶岩流の内部でガスが膨張し、その表面が盛り上がった<sup>とちもと</sup>栃本の溶岩瘤<sup>こぶ</sup>(日高町栃本、県指定)は、周辺の奇岩・滝を含めて独特の景観を形成している。

このほか、花崗岩の巨石が山中に散在する大<sup>だい</sup>師<sup>し</sup>山<sup>やま</sup>巨石群(但東町赤花、市指定)や、江戸時代から風光明媚な景勝地として知られ、歌にも詠まれた白糸の滝(出石町袴狭、市指定)、滝口から続く一枚岩の河床をもつ段の白滝(竹野町<sup>だん</sup>段、市指定)などがある。



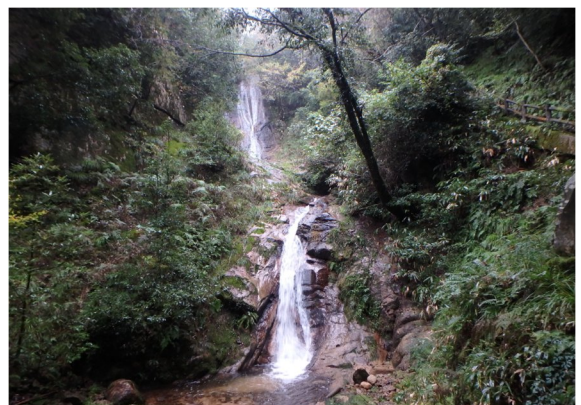
宇日流紋岩の流理 (県指定)



玄武洞 (国指定)



神鍋溶岩流 (市指定)



白糸の滝 (市指定)



# 第4章 豊岡市の歴史文化

## 第1節 豊岡市の歴史文化の特性

豊岡市は、海から山までがコンパクトにまとまる中に多様な環境が形成されている。この環境を作り出しているのは、日本海の形成や火山活動に伴う地形・地質などの自然の恵みである。雪雲のもととなる海、円山川下流の汽水域や湿地に生息する動植物、入り組んだ岩礁の海岸線が生み出す優れた藻場などが代表例である。さらに、黒ボク層やスコリア層が育む神鍋の高原野菜や、日本海固有水と対馬暖流による寒海性・暖海性の魚介類に恵まれた漁業、鉱石資源を利用した鉱業や窯業、温泉や雪山を生かした観光産業が、人々の営みや産業の展開を支えてきた。

豊かな自然の恵みは歴史にも大きな影響を与えてきた。日本海をめぐる各地との交流は、アメノヒボコ神話の起源となった。見晴らしの良い山頂には多くの城が築かれ、地域を結ぶ情報ネットワークの役割も果たした。自然を畏敬した人々は、それを信仰の対象とし、多くの祭礼や民俗行事を受け継いできた。

このように、火山帯にある但馬山地と日本海・円山川による豊かな自然の恵みと、そこから生まれた居住者・来訪者双方の営みを基盤にして育まれたものが「豊岡の宝もの」である。本市の歴史文化の特性は、自然資源・歴史資源・文化資源にかかわる多様な「豊岡の宝もの」を、自然を介したつながりや歴史的・地域的関連性をもとに整理し7つの物語として捉えることができる（図4-1・図4-2）。

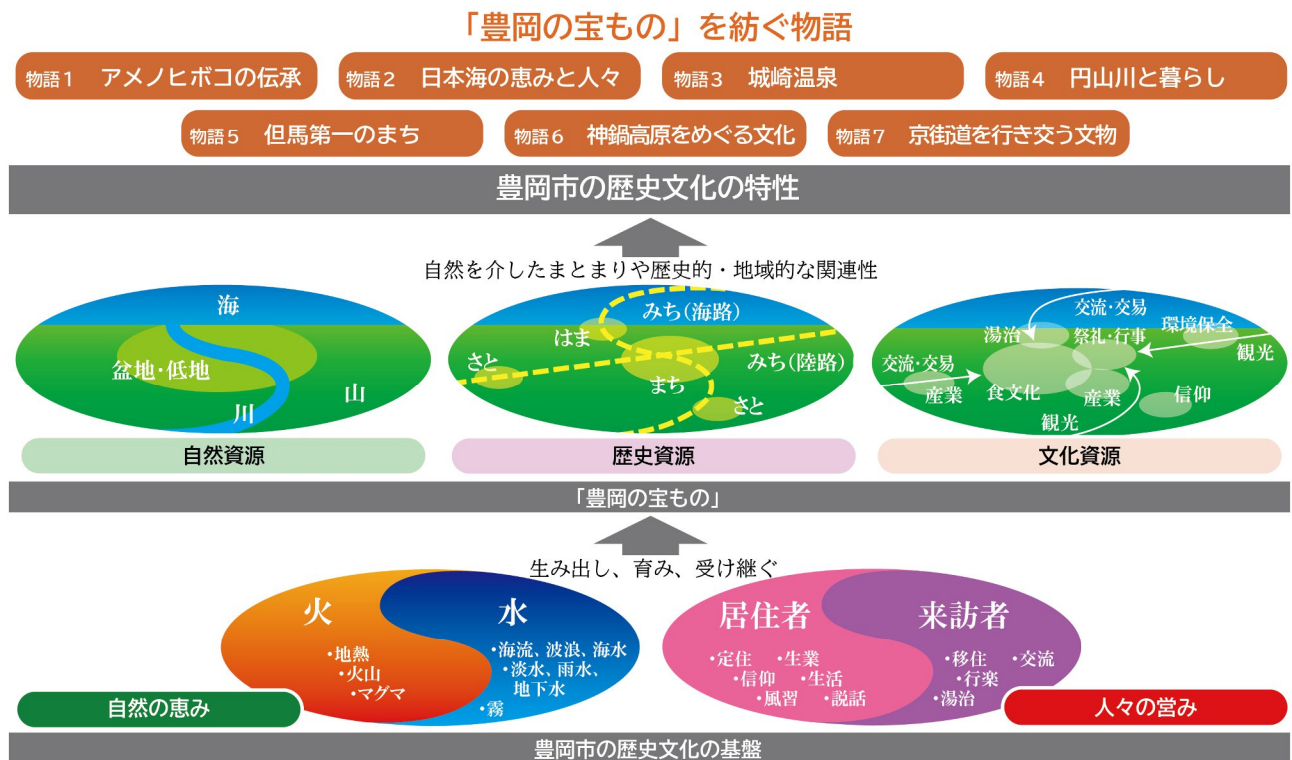


図4-1 豊岡市の歴史文化の特性～「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語～

## 「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語

「豊岡の宝もの」の自然を介したまとめりや歴史的・地域的な関係性

物語 1

### アメノヒボコの伝承

『古事記』や『日本書紀』などに神話を伝えるアメノヒボコは但馬開拓の祖神とされる。市内には、アメノヒボコやその子孫を祀る神社も多く、幟まわしや菓子祭りなどのゆかりの祭りも受け継がれる。

物語 2

### 日本海の恵みと人々

日本海は、沿岸の独特な景観や豊富な魚介類などのさまざまな恵みをもたらした。かつて北前船の寄港地として栄えた竹野には、強い風雪に耐えうる焼杉板を利用した町並みが受け継がれる。

物語 3

### 城崎温泉

近代以降、多くの文人墨客が訪れた城崎には、外湯を中心に山々と大瀬川、木造旅館などが調和した温泉街の佇まいがある。そして、祭りや伝統工芸などは、温泉街をより一層魅力的にしている。

物語 4

### 円山川と暮らし

円山川は、コウノトリなどの豊かな自然を育み、人々の暮らしや文化、経済を支えた。一方、度々大水害を引き起こしたため、沿川には玄武岩の石積みや川の平穏を祈る祭りなどが受け継がれる。

物語 5

### 但馬第一のまち

古代は但馬国府、中世は山名氏の居城、近世は出石藩・豊岡藩の城下が位置し、各時代を通じて但馬の政治・文化の中心地だった。出石・豊岡の城下町は、災害を経て、それぞれに特色ある町並みを伝える。

物語 6

### 神鍋高原をめぐる文化

神鍋山の周りには、7つの火山があり、滝などの美しい地形や高原野菜を育む肥沃な土壌をつくり出した。高原にはスキー場やキャンプ場が整備され、四季を通じて多くの来訪者がある。

物語 7

### 京街道を行き交う文物

豊岡・出石から但東を経て京都を結ぶ京街道は、江戸時代以降、参勤交代の行列や庶民が行き交い賑わった。人々の往来は、沿道地域を中心に本市の文化に大きな影響を及ぼした。

図 4-2 「豊岡の宝もの」を紡ぐ7つの物語と関係する「豊岡の宝もの」の例

# 「豊岡の宝もの」

## 歴史資源

- ・出石神社社殿
- ・御出石神社本殿
- ・日出神社本殿
- ・中嶋神社本殿
- ・森尾古墳出土品
- ・袴狭遺跡
- ・入佐山3号墳



出石神社社殿

- ・ヨゴレババ古墳群
- ・飾千石船
- ・鷹野神社海上信仰資料
- ・竹野川湊館
- ・竹野駅駅舎



飾千石船

- ・温泉寺本堂
- ・十一面観音立像
- ・四所神社本殿 拜殿
- ・王橋、愛宕橋、柳湯橋、桃島橋、辨天橋



温泉寺本堂

- ・久久比神社本殿
- ・小田井神社
- ・二見谷古墳群
- ・羽柴秀長鮎漁免状



久久比神社本殿

- ・但馬国府跡(祢布ヶ森遺跡)
- ・但馬国分寺跡
- ・山名氏城跡 此隅山城跡、有子山城跡
- ・楽々前城跡
- ・亀ヶ城跡
- ・出石城跡
- ・豊岡陣屋跡



但馬国分寺跡

- ・岩倉古墳群
- ・隆国寺の石垣
- ・旧大岡寺庭園



旧大岡寺庭園

- ・栗尾古墳
- ・木造薬師如来坐像
- ・久畑関所跡
- ・京街道



久畑関所跡

## 文化資源

- ・幟まわし
- ・御出石神社・桐野神社の秋祭り
- ・中嶋神社菓子祭り(橘菓祭)



幟まわし

- ・竹野集落
- ・宇日の舟屋景観
- ・製塩
- ・津居山かに(かに料理)



竹野集落

- ・温泉街の町並み
- ・温泉起源伝承
- ・城崎だんじり祭り
- ・麦わら細工



城崎だんじり祭り

- ・豊岡杞柳細工
- ・柳まつり
- ・水無月神社の川濯祭り



水無月神社の川濯祭り

- ・妙経寺
- ・円通寺
- ・出石城下町
- ・豊岡市街地(豊岡震災復興建築群)
- ・出石皿そば
- ・大名行列槍振り



出石皿そば

- ・そうだろ節とヤチャ踊
- ・神鍋のスキ
- ・但馬牛
- ・ニジマス養殖
- ・ワサビ栽培
- ・神鍋山の山焼き



そうだろ節とヤチャ踊

- ・日吉太神楽
- ・さき囃子(太古踊)
- ・太刀振り
- ・大生部兵主神社春の大祭
- ・但馬ちりめん
- ・農村歌舞伎舞台



但馬ちりめん

## 自然資源

- ・瀬戸の岩戸



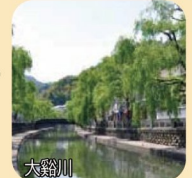
瀬戸の岩戸

- ・宇日流紋岩の流理(流紋)
- ・はさかり岩
- ・波食罅穴群
- ・竹野浜
- ・畑上の大トチノキ



はさかり岩

- ・温泉(泉源)
- ・温泉寺参道沿いの古木群
- ・大谿川



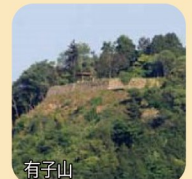
大谿川

- ・円山川
- ・コウノトリ
- ・玄武洞
- ・円山川河畔林



玄武洞

- ・有子山
- ・三開山



有子山

- ・神鍋山・神鍋高原
- ・神鍋溶岩流
- ・アベサンショウウオ
- ・おまき桜



神鍋山・神鍋高原

- ・安国寺のドウダンツツジ
- ・一宮神社のケヤキの森
- ・郷路岳
- ・東里ヶ岳



一宮神社のケヤキの森

## 第2節 「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語

### 物語1 アメノヒボコの伝承

アメノヒボコにまつわる神話は『古事記』や『日本書紀』などに見られる。その要旨は次のとおりである。

昔、朝鮮半島・新羅国にアメノヒボコという王子がいた。訳あって日本に渡来したアメノヒボコは、天皇に「自分で諸国をめぐり、好きなどころに住みたい」と願い出た。そして、彼が最終的に住み着いた場所が出石だった。

アメノヒボコは、湿地帯が広がり未開だったこの地を「瀬戸の岩戸」を切り開くことで干拓した。彼の子孫であるタジマモリは、垂仁天皇に命じられて常世の国に渡り、「非時香菓」(橘)を持ち帰った。  
(『古事記』などに書かれた神話より)

但馬国一宮である出石神社には、但馬開拓の祖神としてアメノヒボコが祀られている。また、中嶋神社には、菓子の神としてタジマモリが祀られている。さらに、アメノヒボコやその子孫を祭神とする神社が多くみられ、幟まわしや菓子祭りなどゆかりの祭りも受け継がれている。

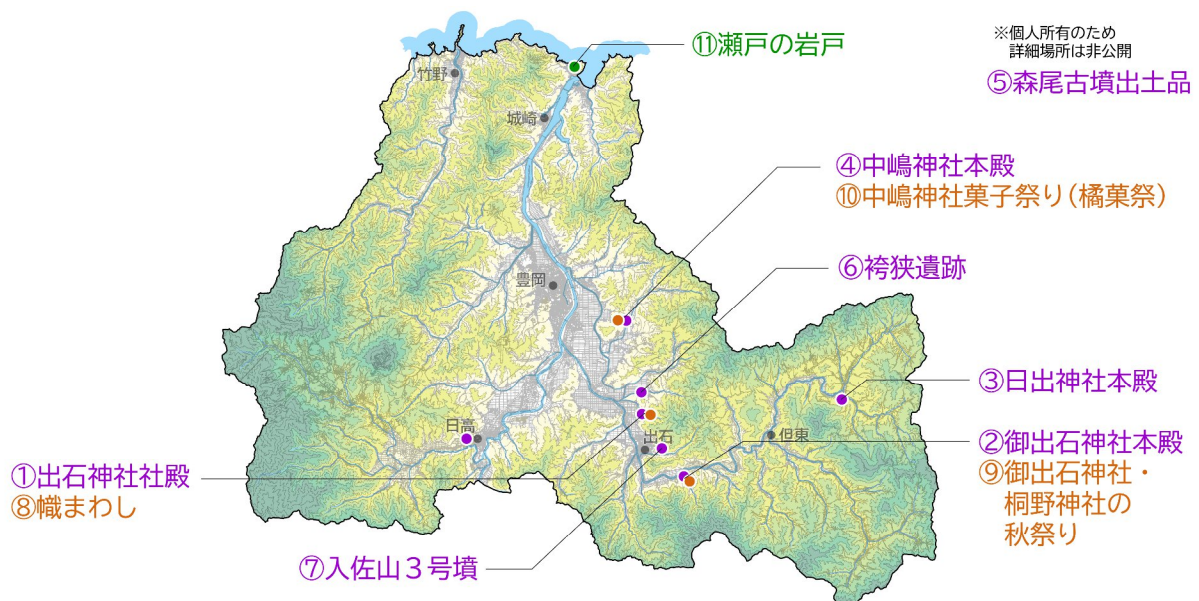
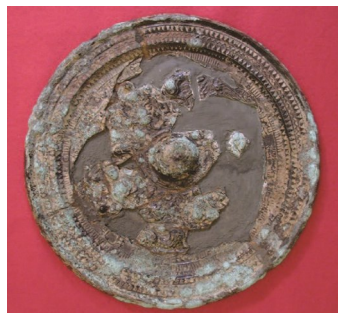


図4-3 物語「アメノヒボコの伝承」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



①出石神社社殿  
：写真は左が拝殿、右が本殿



⑤森尾古墳出土品



⑥袴狭遺跡  
：写真は出土した線刻画木製品

表 4-1 物語「アメノヒボコの伝承」に関する主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	出石神社社殿	歴史資源 (建造物)	出石	出石神社は但馬国の一宮として但馬開発の祖神アメノヒボコを祀り、『古事記』や『日本書紀』にも名が見られる。社殿は大正2年(1913)の再建であり、本殿前面に幣殿、祝詞殿、拝殿がある。	市指定 (有形文化財(建造物))
②	御出石神社本殿	歴史資源 (建造物)	出石	御出石神社はアメノヒボコとその娘のイヅシオトメを祀る。本殿は安永6年(1777)に改築されている。	市指定 (有形文化財(建造物))
③	日出神社本殿	歴史資源 (建造物)	但東	日出神社はアメノヒボコの子孫で5代目のタジマヒタカ(タジマモリの弟)を祭神とする。本殿は室町時代末期の建築である。	国指定 (有形文化財(建造物))
④	中嶋神社本殿	歴史資源 (建造物)	豊岡	アメノヒボコの子孫で5代目、菓子の神様とされるタジマモリノミコトを祀る。本殿は室町時代中期の正長元年(1428)に再建されたものである。	国指定 (有形文化財(建造物))
⑤	森尾古墳出土品	歴史資源 (美術工芸品)	豊岡	森尾古墳は古墳時代前期(3世紀)の豪族の墓と考えられる。中国の年号(正始元年/240年)が刻まれた鏡などを出土している。	県指定 (有形文化財(美術工芸品・考古資料))
⑥	袴狭遺跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	出石	16隻の船や魚などが描かれた板2点が出土(「袴狭遺跡群線刻画木製品」として県指定)。古墳時代前期(4世紀)のものか。大陸と行き来していた船を描いた可能性がある。	-
⑦	入佐山3号墳	歴史資源 (遺跡・旧跡)	出石	古墳時代前期(4世紀後半)の方墳。日本海の海岸で採取された砂鉄を副葬。鉄製品も多く出土しており、アメノヒボコに象徴される渡来人集団との関係が注目される。	市指定 (記念物(史跡))
⑧	幟まわし	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	出石	出石神社で5月5日に行われる行事。アメノヒボコが瀬戸を切り開いた帰りに歌ったとされる歌を歌い、5本の幟をまわす。	市指定 (民俗文化財(無形の民俗文化財))
⑨	御出石神社・桐野神社の秋祭り	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	出石	宵宮には男神であるアメノヒボコを祀る御出石神社を神輿が出発し、女神であるウカノミタマを祀る貴船神社(桐野神社)へ渡御する神事がある。	-
⑩	中嶋神社菓子祭り(橘菓祭り)	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	豊岡	中嶋神社で4月第3日曜日に行われる行事。菓子の神様とされるタジマモリノミコトを祀る。	-
⑪	瀬戸の岩戸	自然資源 (地形・地質、自然風景)	豊岡	アメノヒボコが入江湖だった但馬地方を「瀬戸の岩戸」を切り開いて干拓し、耕地にしたという伝承がある。	-



⑧幟まわし



⑩中嶋神社菓子祭り(橘菓祭り)



⑪瀬戸の岩戸

## 物語2 日本海の恵みと人々

日本海沿岸は山陰海岸国立公園や山陰海岸ジオパークとして地形・地質等が保全・活用され、はさかり岩や淀の洞門といった独特の景観がみられる。

日本海は、多量の雨や雪を本市にもたらす一方で、人々に恵みを与えてきた。この代表が、ハタハタやズワイガニなどの豊富な魚介類である。日本海を望む高台の上には、ヨゴレババ古墳群など海上交易あるいは漁業に関連した有力者の墓と考えられる古墳が築かれている。江戸時代になると日本海は北前船による交易の舞台となり、明治時代にかけて竹野は季節風を防ぐ「風待ち港」としてヒトやモノ、情報が集まり、大いに栄えた。

北前船は大正時代には衰退したが、鉄道の延伸と竹野駅の開業に合わせて海水浴場が整備され、100年以上を経過した現在も7～8月は多くの海水浴客で賑わっている。一方、鷹野神社を中心とした竹野の市街地には、強い風雪に耐える伝統的な焼杉板を住宅の外壁に利用した家屋が多く残り、風情ある景観が来訪者を楽しませている。



図 4-4 物語「日本海の恵みと人々」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



①ヨゴレババ古墳群



②飾千石船



⑥竹野集落

表 4-2 物語「日本海の恵みと人々」に関する主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	ヨゴレババ古墳群	歴史資源 (遺跡・旧跡)	竹野	切り立った崖の上に位置しており、海を生業とした豪族の墓と考えられる。	市指定 (記念物(史跡))
②	飾千石船	歴史資源 (美術工芸品)	竹野	船主が新しい船を造る時に造られた模型で、正月の「舟祝い」の際に飾られた。	市指定 (民俗文化財(有形の民俗文化財))
③	鷹野神社海上信仰資料	歴史資源 (美術工芸品)	竹野	北前船の船頭たちが奉納した船絵馬など、海上交通および交易に関する信仰の一樣相を示す資料が残る。	市指定 (民俗文化財(有形の民俗文化財))
④	竹野川湊館	歴史資源 (建造物)	竹野	代々庄屋として栄え、明治期には北前船「栄寿丸」の船主として大きな財を成した住吉屋の建物。川湊に関する資料を展示する。	—
⑤	竹野駅駅舎	歴史資源 (建造物)	竹野	明治 44 年(1911)に建てられた木造駅舎。なお、跨線橋は明治 44 年(1911)建造で、神崎駅(現尼崎駅)、浜坂駅で使用後、昭和 43 年(1968)に移設されたものである。	—
⑥	竹野集落	文化資源 (町並み、暮らしの風景)	竹野	竹野は北前船の寄港地として栄え、物流の拠点となり、多くの文化がもたらされた。強い海風や風雪にも耐えるように、狭小な路地と、外壁を焼杉板で覆った町並みが残る。	—
⑦	宇日の舟屋景観	文化資源 (町並み、暮らしの風景)	竹野	小石の浜には、海側に入り口のある舟屋が数棟並ぶ。	—
⑧	製塩	文化資源 (食文化)	竹野	竹野の製塩は室町時代から始まったとされ、江戸時代には年貢として出石藩へ納められた。一度は廃れたが、「誕生の塩」として復活している。	—
⑨	津居山かに(かに料理)	文化資源 (食文化)	豊岡	津居山港に水揚げされた松葉ガニを「津居山かに」と呼ぶ。	—
⑩	宇日流紋岩の流理(流紋)	自然資源 (地形・地質、自然風景)	竹野	200~300 万年前、粘性が高く不均質な流紋岩質マグマが、不均質さを保ったまま流動して固まったもの。美しい縞模様が見られる。	県指定 (記念物(天然記念物))
⑪	はさかり岩	自然資源 (地形・地質、自然風景)	竹野	険しく切り立った岩石海岸の一部が、風化・侵食の過程で崩壊し、巨大な岩が柱のような岩にはさまったものと考えられている。	県指定 (記念物(天然記念物))
⑫	波食甌穴群	自然資源 (地形・地質、自然風景)	竹野	猫崎半島の西海岸の岩盤にある、海水の侵食作用でできた無数の丸い穴(甌穴)。	県指定 (記念物(天然記念物))
⑬	竹野浜	自然資源 (地形・地質、自然風景)	竹野	「日本の渚百選」、「日本の快水浴場百選」に選ばれた山陰随一の海水浴場。日本海の季節風や沿岸流が運んだ大量の白砂が、約 1 km にわたる美しい砂浜をつくり出している。	—
⑭	畑上の大トチノキ	自然資源 (植物)	豊岡	樹齢 300 年以上ともいわれるトチノキで、かつては日本海を航行する船の目印だったとされる。	国指定 (記念物(天然記念物))



⑨津居山かに(かに料理)



⑪はさかり岩



⑬竹野浜

## 物語3 城崎温泉

奈良時代、道智上人<sup>どうち</sup>が四所神社の神託を受けて千日間修行をした末、湯が湧き出したことが城崎温泉のはじまりと伝わる。温泉寺は道智上人による創建と伝わり、南北朝時代に造営された本堂をはじめ、本尊の十一面観音立像などが大切に保存されている。

江戸時代になると湯治を目的とした多くの訪問客があり、温泉街は活況を呈するようになった。

明治42年(1909)に鉄道が開通すると、多くの文人墨客が城崎を訪れ、柳田國男や島崎藤村<sup>しまざきとうそん</sup>なども来遊した。とりわけ城崎を有名にしたのは志賀直哉で、『城の崎にて』のほか、『暗夜行路』でも城崎の町の様子が描かれている。現在の城崎の町を散策すると、いたるところに文人ゆかりの碑を見ることができる。

城崎が多くの人々を惹きつける魅力は、泉質だけでなく外湯を中心とした温泉街にもある。三方を囲む山々や温泉街の中心を流れる大谿川<sup>おおたにがわ</sup>、木造旅館などが調和し、落ち着いた佇まいが感じられる。大正14年(1925)の北但大震災による壊滅的な被害を受けても、その雰囲気を守りながら復興を遂げた。そして、約300年続く秋祭り<sup>あきまつり</sup>で巡行する神輿やだんじり、江戸時代から続く伝統工芸品である麦わら細工などは、温泉街をより一層魅力的にしている。

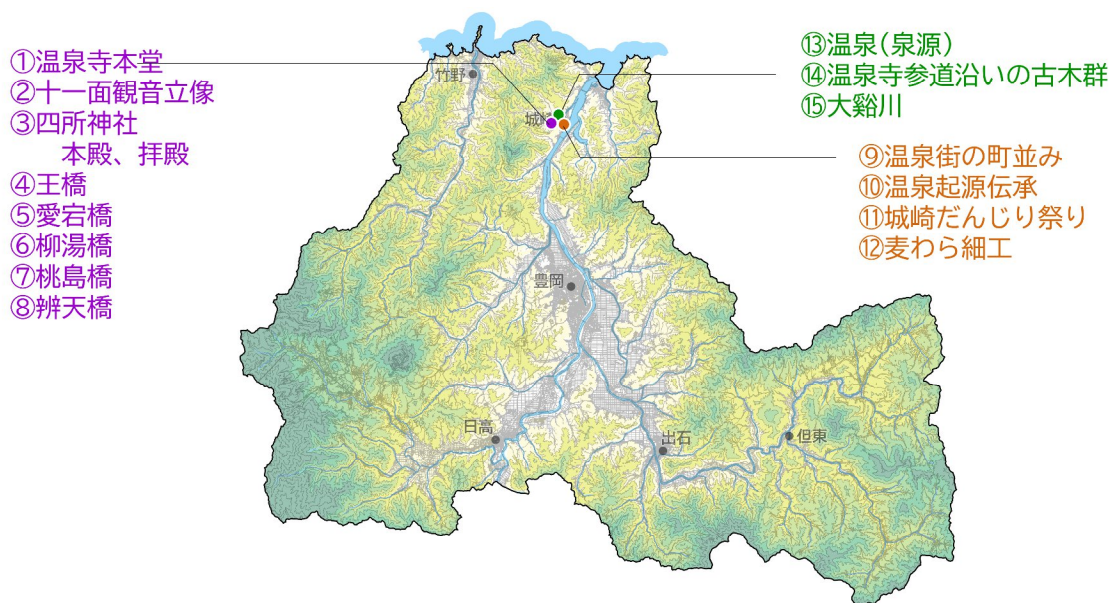


図4-5 物語「城崎温泉」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



①温泉寺本堂



③四所神社 本殿、拝殿  
：写真は拝殿



⑤愛宕橋

表 4-3 物語「城崎温泉」に関する主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	温泉寺本堂	歴史資源 (建造物)	城崎	温泉寺は城崎温泉を開いた道智上人の創建と伝わる。本堂は室町時代前期の建築で、堂内には至徳4年(1387)銘のある懸仏がある。屋根はかつて茅葺だったが、現在は銅板葺である。	国指定 (有形文化財(建造物))
②	十一面観音立像	歴史資源 (美術工芸品)	城崎	温泉寺に安置されるヒノキの一木造の観音像(秘仏)。平安時代中期の作とされる。温泉寺はこのほかにも木造千手観音立像、木造釈迦十六善神像など、多くの美術工芸品を所蔵する。	国指定 (有形文化財(美術工芸品：彫刻))
③	四所神社 本殿 拝殿	歴史資源 (建造物)	城崎	四所神社は湯山主大神を主祭神とし、古くから城崎温泉の氏神、温泉の守護神として信仰を集めてきた。本殿・拝殿はいずれも北但大震災後の昭和3年(1928)の建築である。	県登録 (有形文化財(建造物))
④	王橋	歴史資源 (建造物)	城崎	北但大震災後の昭和元～2年(1926～1927)に築造された5つの橋梁(王橋、愛宕橋、柳湯橋、桃島橋、辨天橋)。震災からの復興を象徴し、特徴的な形態・意匠は温泉街の風情を醸し出す。	国登録 (有形文化財(建造物))
⑤	愛宕橋				
⑥	柳湯橋				
⑦	桃島橋				
⑧	辨天橋				
⑨	温泉街の町並み	文化資源 (町並み、暮らしの風景)	城崎	文人墨客の来訪も多く、多数の文学作品に登場する。志賀直哉「城の崎にて」は有名。町並みは、木造3階建の旅館や大谿川の玄武岩を用いた石積みなどから構成される。	—
⑩	温泉起源伝承	文化資源 (説話・伝承)	城崎	舒明天皇の時代(629～641)、一羽のコウノトリが足の怪我を癒していたことで発見されたと伝わる。	—
⑪	城崎だんじり祭り	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	城崎	温泉神を御神体として祀る四所神社の秋季祭礼。絢爛豪華で勇壮なだんじりがぶつかり合う「セリ」が見どころ。	—
⑫	麦わら細工	文化資源 (伝統の技)	城崎	染めた麦わらを使って作られる伝統工芸。享保年間(1716～1736)に竹笛から始まり、江戸時代後期には温泉土産としても定着。明治時代には技術発展により売上高も向上した。	市指定 (無形文化財)
⑬	温泉(泉源)	自然資源 (地形・地質・自然風景)	城崎	古くより「但馬の湯」として親しまれ、京に近いため、多くの貴族や高僧・文化人が訪れた。	—
⑭	温泉寺参道沿いの古木群	自然資源 (植物)	城崎	温泉寺山門から本堂の参道沿い 300mには、シイの古木が立ち並び、石段両脇にはコケが生え、シダ類やジャガの群落なども点在する。	市指定 (記念物(天然記念物))
⑮	大谿川	自然資源 (地形・地質・自然風景)	城崎	かつて円山川から続く舟運により、城崎温泉への玄関口の役割を果たした。温泉街の景観に潤いを与える。	—



⑪城崎だんじり祭り



⑫麦わら細工



⑮大谿川

## 物語4 円山川と暮らし

円山川は、“母なる川”と“暴れ川”という、正反対の性格をもっている。

アメノヒボコの伝承が息づく円山川の下流には汽水域が広がり、多種多様な生き物が育まれている。私たちは川漁を通じてアユなどを食べ、コウノトリはドジョウやフナ、カエル、昆虫など多くの生き物を食べて生きている。また、湿地で育つコリヤナギを材料にして作られた柳行李は、行李鞆へと進化し、現在のかばん産業へと大きく発展していった。また、鉄道が整備される明治時代終わりまで、緩やかな流れを活かした舟運が盛んであり、円山川はモノや人の往来にも貢献した。このように円山川は、“母なる川”として、豊かな自然を育み、人々の暮らしや文化、経済の発展を支えた。

一方で、円山川は、大昔から氾濫を繰り返す“暴れ川”として大水害を引き起こしてきた。水害から家を守るため、人々は舟運を利用して玄武岩を運び、高い石積みを積み上げたほか、1920～1930年代には国による本川の付け替えに代表される大規模な河川改修も進められた。いくつかの地区では、現在も川の平穏を祈る祭礼が受け継がれている。



図4-6 物語「円山川と暮らし」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



①久久比神社本殿



③二見谷古墳群  
：写真は4号墳の玄室



⑤豊岡杞柳細工

表 4-4 物語「円山川と暮らし」に係る主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	久久比神社本殿	歴史資源 (建造物)	豊岡	『日本書紀』の記述から、久久比神社は「クグイ」(白鳥の古名、但馬ではコウノトリと考えられる)にちなむとされ、コウノトリゆかりの神社として知られる。本殿は室町時代後期の永正4年(1507)の建築である。	国指定 (有形文化財(建造物))
②	出町大いと場跡の石碑	歴史資源 (美術工芸品)	豊岡	小田井縣神社入口に建つ。かつて、ここから東100mに大きないと場(川への降り口、船着き場)があり、豊岡城下町の玄関口として千石船の荷揚げもされていたという。小田井縣神社境内の石灯籠の寄進者には船宿の名も見える。	—
③	二見谷古墳群	歴史資源 (遺跡・旧跡)	城崎	家形石棺を納めた横穴式石室をもつ、北但馬を代表する古墳群。円山川の舟運や漁業に関わる豪族の墓と考えられる。	県指定 (記念物(史跡))
④	羽柴秀長鮎漁免状	歴史資源 (美術工芸品)	日高	岩中村(日高町岩中)の漁師に鮎の漁業権を与えた書状。鮎漁が盛んに行われていたことを示す。	市指定 (有形文化財(美術工芸品：書跡・典籍))
⑤	豊岡杞柳細工	文化資源 (伝統の技)	豊岡 ほか	円山川に生えるコリヤナギを材料にした柳行李は、江戸時代には全国的に有名だった。現代のかばん産業のルーツ。市指定に「柳ごおり生産用具一式および製品」がある。	—
⑥	柳まつり	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	豊岡	毎年8月に開催される「杞柳・かばん産業」の守護神として祀られる柳の宮(小田井縣神社境内社)の例大祭。	—
⑦	水無月神社の川濯祭り	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	日高	水難除けの神様、水無月神社の祭りであり、円山川へと神輿を担ぎ込む。	—
⑧	円山川	自然資源 (地形・地質、自然風景)	豊岡 城崎 日高	傾斜が緩く汽水域が広いため、さまざまな動植物が育まれている。ラムサール条約湿地にも登録されている。	—
⑨	コウノトリ	自然資源 (地形・地質、自然風景)	市内 全域	両翼を広げると2mにもなる大型の鳥。水田や湿地、河川で採餌している。野生復帰事業も広がりを見せている。	国指定 (記念物(天然記念物))
⑩	玄武洞	自然資源 (地形・地質、自然風景)	豊岡	約160万年前に火山活動で形成され、江戸時代に採石場として利用された結果、現在の洞窟状となった。玄武洞の玄武岩は、円山川を使って船で各地へ運ばれた。玄武岩は現在も市内各所で石積や漬物石などに利用されている。地磁気逆転の発見地として地球科学的に重要な場所。	国指定 (記念物(天然記念物))
⑪	円山川河畔林	自然資源 (植物)	日高	円山川沿いに形成されたエノキやムクノキなどの群生林。自然の堤防となって、水防の役割も果たしている。	—



⑦水無月神社の川濯祭り



⑨コウノトリ



⑩玄武洞

## 物語5 但馬第一のまち

奈良時代の本市には但馬国の支配拠点となる但馬国府が置かれ、但馬国分寺・国分尼寺が建立された。室町時代には、全国でも強大な勢力を誇った山名氏は多くの城を築き、九日市や此隅山城麓に支配拠点(守護所)を置いた。山名氏の菩提寺や開基、祈禱所と伝わる寺院が各所に残っている。このように、古代から中世の本市は、人・モノ・情報が集まる但馬第一の政治・文化の中心地として栄えた。

江戸時代、市内には出石藩・豊岡藩の2つの藩が置かれ、出石と豊岡にそれぞれ城下町が形成された。そして、地域の中心地としての役割を担いながら明治時代を迎え、鉄道・産業・生活などの近代化が進んだ。

このような中で、各城下町を大きな災害が襲った。出石の城下町は明治9年(1876)の大火でその大半を焼失し、豊岡の城下町は大正14年(1925)の北但大震災で壊滅的な被害を受けた。

復興にあたっては、出石では近世以来の町割や伝統的な町家形式を継承し、豊岡では道路幅を拡大して鉄筋コンクリート造の耐火建築物群を促進した。このため、出石は町家等が連なる城下町を想起させる町並みが、豊岡は近代的な町並みが形成され、現在の各まちの特色として受け継がれている。

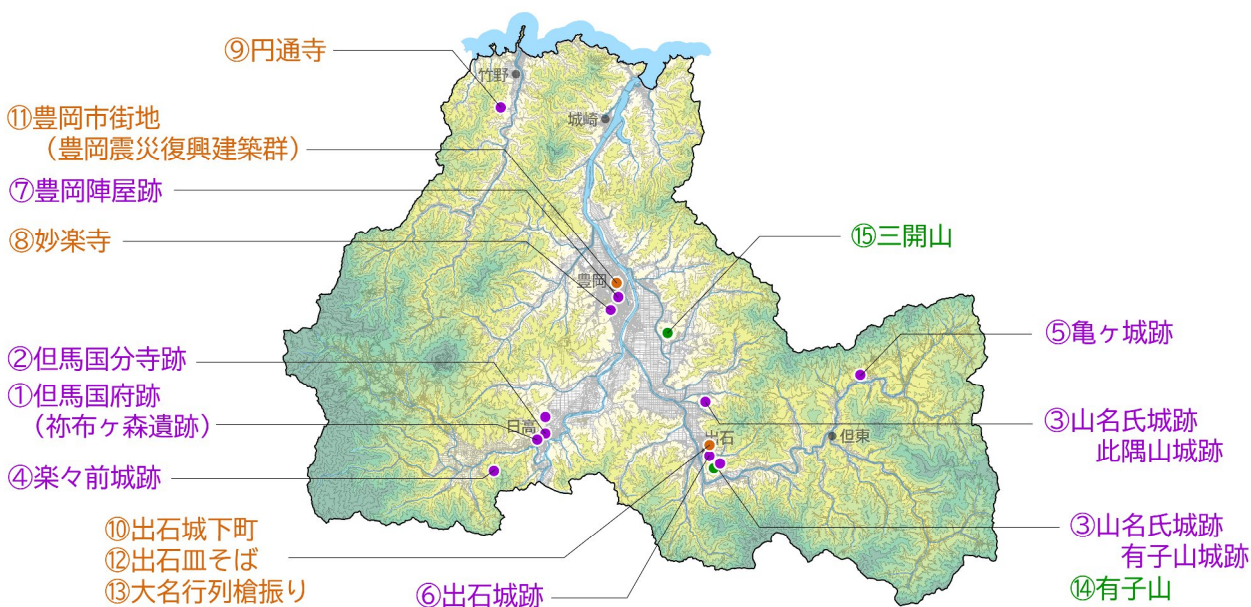
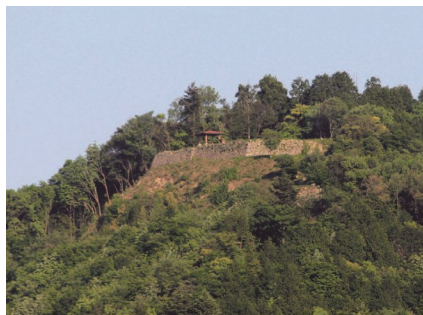


図 4-7 物語「但馬第一のまち」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



②但馬国分寺跡



③山名氏城跡、⑭有子山  
：写真は有子山山頂の有子山城跡



⑥出石城跡

表 4-5 物語「但馬第一のまち」に係る主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	但馬国府跡 (祢布ヶ森遺跡)	歴史資源 (遺跡・旧跡)	日高	但馬国府は数回移転しており、日高町国府地区も候補地の一つである。	—
②	但馬国分寺跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	日高	天平 13 年(741)、聖武天皇の命で全国に国分寺が造営された。但馬国分寺はその一つで、発掘調査により塔や金堂、中門などが見つかかり、木簡などの膨大な量の遺物が出土している。	国指定 (記念物(史跡))
③	山名氏城跡 此隅山城跡 有子山城跡	歴史資源 (美術工芸品)	出石	但馬守護山名氏の居城。此隅山城跡と有子山城跡があり、特に有子山城跡には石垣がよく残る。	国指定 (記念物(史跡))
④	ささのくま 楽々前城跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	日高	山名氏の四天王の一人、垣屋氏の本城。市内随一の規模を誇り、特に畝状堅堀は圧巻。	—
⑤	亀ヶ城跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	但東	但馬国守護職に任ぜられた太田昌明が築いたという伝承が残る大規模な山城。	市指定 (記念物(史跡))
⑥	出石城跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	出石	慶長 9 年(1604)、小出吉英が築城。一国一城令により、但馬唯一の近世城郭となった。	市指定 (記念物(史跡))
⑦	豊岡陣屋跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	豊岡	寛文 8 年(1668)、京極高盛が入封の際に、神武山麓に築造し居城とした。	—
⑧	妙経寺	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	豊岡	山名時義の弟の開山と伝わる。寺院南に「御屋敷」の地名があり、守護所が推定される。	—
⑨	円通寺	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	竹野	山名氏の菩提寺。開山の僧月庵は山名時義・時熙父子の信仰を受けた。	—
⑩	出石城下町	文化資源 (町並み、暮らしの風景)	出石	出石城跡や城下町の街路、町人地の敷地間口など、江戸時代の状況をよく維持し、但馬における城下町の歴史的風致をよく伝える。辰鼓楼は町のシンボルとなっている。	国選定 (伝統的建造物群保存地区)
⑪	豊岡市街地 (豊岡震災復興建築群)	文化資源 (町並み、暮らしの風景)	豊岡	北但大震災からの復興に伴って建てられた鉄筋コンクリート造のモダンな建物群。旧豊岡町役場や旧兵庫縣農工銀行豊岡支店などの国登録有形文化財がある。	—
⑫	出石皿そば	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	出石	信州上田から仙石氏とともにもたらされたと伝わり、後に出石焼の皿に盛る様式が確立した。	—
⑬	大名行列槍振り	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	出石	35 名の大人が様々な種類の毛槍を振りながら練り歩く。出石藩主の奥方のお国入りに随伴した奴の槍振りを見て、町衆が真似たとされる。	市指定 (民俗文化財(無形の民俗文化財))
⑭	有子山	自然資源 (地形・地質、自然風景)	出石	出石の町を一望できる。標高 321m の山頂には、山名祐豊によって有子山城が築かれた。	—
⑮	三開山	自然資源 (地形・地質、自然風景)	豊岡	「但馬富士」とも呼ばれ、眺望が開ける。豊岡盆地の戦略的位置を占め、山名氏により三開山城が築かれた。	—



⑨円通寺



⑩出石城下町、⑬大名行列槍振り



⑪豊岡市街地(豊岡震災復興建築群)

## 物語6 神鍋高原をめぐる文化

神鍋山は、今から2万5千年前に噴火した近畿地方で最も新しい火山であり、近畿地方で唯一、噴火口が残っている。この噴火口の周辺では毎年山焼きが行われ、希少植物の維持が図られている。

神鍋山の周りには、7つもの火山が知られている。約70万年前から繰り返された噴火によって流れた溶岩は、雪解け水によって侵食され、滝や風穴・溶岩瘤などの美しい地形をつくり出した。

火山は人々の暮らしにも活かされている。水はけのよい火山灰が降り積もった肥沃な土壌は高原野菜を育み、畜産・養蚕も盛んに行われた。地中で磨かれた雪解け水は、ワサビ栽培やニジマス養殖に使われている。

神鍋高原は市内でも積雪が特に深く、時に人々の生活に大きな支障を及ぼした一方、神鍋の人たちは雪を利用することで、地域の発展につなげた。大正時代からスキー場の開発が進み、現在も近畿地方屈指のスキー場として人気を博している。さらに、キャンプ場の整備など夏も楽しめる観光開発も進められ、現在は四季を通して多くの来訪者がある。

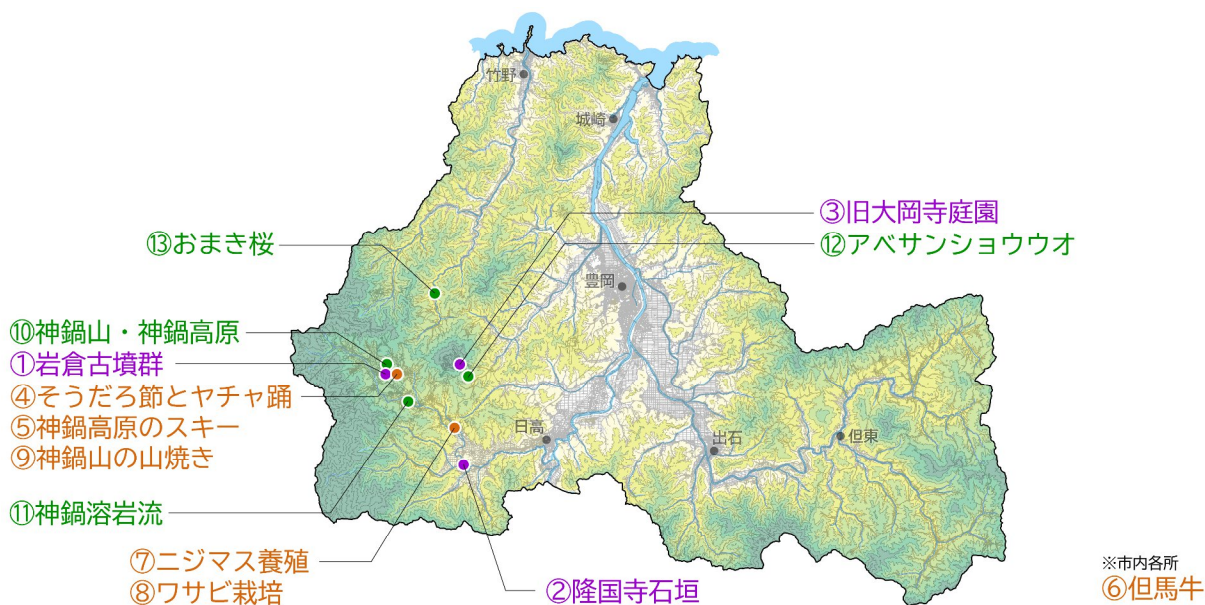


図4-8 物語「神鍋高原をめぐる文化」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



③旧大岡寺庭園



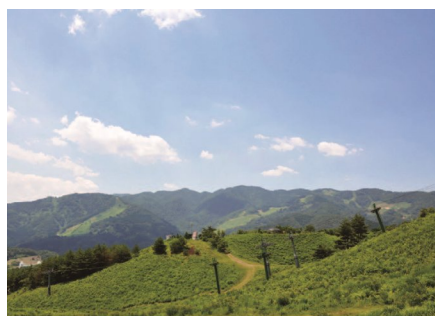
④そうだろ節とヤチャ踊  
：写真はヤチャ踊



⑤神鍋高原のスキー

表 4-6 物語「神鍋高原をめぐる文化」に関する主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	岩倉古墳群	歴史資源 (遺跡・旧跡)	日高	神鍋山の麓に築かれた、約 30 基からなる古墳群。横穴式石室をもつ円墳が大半を占める。	市指定 (記念物(史跡))
②	隆国寺石垣	歴史資源 (公園・庭園)	日高	隆国寺は但馬守護山名氏の四天王、垣屋隆国の菩提寺と伝わる。石垣は神鍋山溶岩を積み上げたもので、寛政 4 年(1792)の本堂再興と併行して築かれた。	市指定 (記念物(名勝))
③	旧大岡寺庭園	歴史資源 (公園・庭園)	日高	旧大岡寺に残る池泉庭園。滝部の石組みが室町時代末期の様式をよく保存している。	国指定 (記念物(名勝))
④	そうだろ節とヤチャ踊	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	日高	そうだろ節は西気・清滝地区の民謡で、山の境界争いが無事解決した祝宴で歌われたことが始まりと伝わる。ヤチャ踊は神鍋高原周辺で現在も踊られる盆踊り。	市指定 (民俗文化財(無形の民俗文化財))
⑤	神鍋高原のスキー	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	日高	大正 12 年(1923)に神鍋高原で初めてスキーが行われ、ウィンタースポーツの拠点として発展している。	—
⑥	但馬牛	文化資源 (食文化)	日高 ほか	戦後、鉱山業に替わって盛んになった。「但馬の蔓牛」は全国の和牛のもととなった。	—
⑦	ニジマス養殖	文化資源 (食文化)	日高	神鍋高原からの伏流水(湧き水)を利用したニジマスの養殖。「神鍋清流サーモン」と名付けて販路を拡大している。	—
⑧	ワサビ栽培	文化資源 (食文化)	日高	神鍋山麓で湧き出る清水を用いてワサビの栽培が行われている。享保年間(1716~1736)からの歴史があるともいわれる。	—
⑨	神鍋山の山焼き	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	日高	毎年春に山焼きが行われ、山焼きで育まれた広い草原には、多くの動植物が生息している。	—
⑩	神鍋山・神鍋高原	自然資源 (地形・地質、自然風景)	日高	標高 469m の神鍋山を中心にした高原。神鍋山は近畿で唯一噴火口が残る火山で、山頂からの景色は絶景である。	市指定 (記念物(天然記念物))
⑪	神鍋溶岩流	自然資源 (地形・地質、自然風景)	日高	神鍋山から稲葉川に流れ出た溶岩が、奇岩や滝など独特の素晴らしい景観をなす。栃本の溶岩瘤は県指定(天然記念物)である。	※「神鍋山及び神鍋溶岩流」として指定
⑫	アベサンショウウオ	自然資源 (動物)	日高	体長 10cm 前後の両生類で、国内希少野生動物種に指定されている。環境省により「大岡アベサンショウウオ生息地保護区」が指定されている。	—
⑬	おまき桜	自然資源 (植物)	竹野	樹齢 400 年ともいわれるエドヒガンザクラ。この桜の開花が麻(お)の種をまく目安となっていたので、この名が付いた。	市指定 (記念物(天然記念物))



⑩神鍋山・神鍋高原



⑪神鍋溶岩流



⑫アベサンショウウオ

## 物語7 京街道を行き交う文物

江戸時代、藩主は1年おきに江戸と自らの国を行き来しなければならなかった(参勤交代)。出石藩主は、約200人の行列を従え、豊岡・出石と京都を結ぶ京街道を通っていた。丹波との国境に近い久畑には、関所・宿・茶屋などがあり、出石藩の参勤交代の本陣も置かれた。京街道は伊勢参りに向かう庶民も利用していた。沿道に大切に残された多くの道標や石仏は当時の人々の往来を偲ばせる。

このような人々の往来は、沿道地域を中心に、本市の文化に大きな影響を及ぼした。

日吉神社(山王町)に伊勢を起源の一つに持つとみられる神楽が残り、秋祭りで奉納されている。また、出石の城下町や谷山川沿いなどには、京都府内でよくみられる化粧地蔵がいくつも残され、地蔵盆の際に塗り直されている。但東地域の高橋地区では、大名行列を思わせる練り込み太鼓が継承されている所もある。また、資母地区は、丹後方面と交流が深く、江戸時代にちりめん産業が伝わり、養蚕・畜産・製炭業などでも栄えた。丹後から伝わった太刀振りが赤野で継承されるなど、伝統芸能にもかつての人の往来が色濃く残されている。



図 4-9 物語「京街道を行き交う文物」に関する主な「豊岡の宝もの」の分布



①栗尾古墳



③久畑関所跡  
：写真は久畑関所跡の石碑



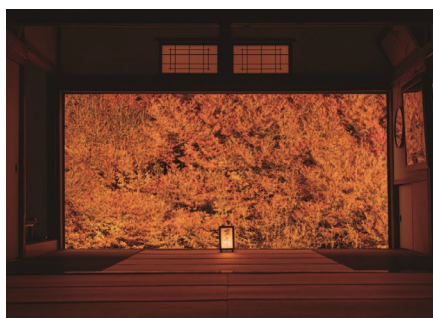
⑦太刀振り

表 4-7 物語「京街道を行き交う文物」に関する主な「豊岡の宝もの」

No.	名称	区分	地域	概要	指定等
①	栗尾古墳	歴史資源 (遺跡・旧跡)	但東	6世紀の横穴式石室をもつ円墳。石室は「持ち送り」という特異な形態である。	市指定 (記念物(史跡))
②	木造薬師如来坐像	歴史資源 (美術工芸品)	但東	松禪寺薬師堂に安置される。平安時代後期の作で、ヒノキの一木造。切れ長の目や小さく結ぶ口、あごから肩にかけての曲線や肉付きに重厚感がみられ、安らぎを感じさせる像。	県指定 (有形文化財(美術工芸品：彫刻))
③	<sup>くばた</sup> 久畑関所跡	歴史資源 (遺跡・旧跡)	但東	京街道の関所跡。江戸時代の久畑は宿場町として栄え、参勤交代の本陣も置かれた。幕末、禁門の変で追われる身となった桂小五郎(後の木戸孝允)が出石の商人広戸甚助の機転で通ることができた関所としても知られる。	市指定 (記念物(史跡))
④	京街道	歴史資源 (遺跡・旧跡)	豊岡 出石 但東	豊岡・出石・但東を経て京都へ向かう街道。	—
⑤	日吉太神楽	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	豊岡	毎年10月に日吉神社で奉納される。伊勢神楽の流れをくむといわれている。	—
⑥	ささ囃子	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	但東	毎年10月に安牟加神社で奉納される。豊作祈願・虫よけ・雨乞いが主な目的。踊りの主役は小・中学生である。	市指定 (民俗文化財(無形の民俗文化財))
⑦	太刀振り	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	但東	赤野区で10月に行われる。地区に住み着く悪霊を追い払い、五穀豊穡と無病息災を願う。	—
⑧	大生部兵主神社 春の大祭	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	但東	牛馬の神様を祀る神社。「天王さん」と呼ばれて人々に親しまれてきた。毎年5月上旬に春の大祭が行われ、練り込み太鼓が奉納される。	—
⑨	但馬ちりめん	文化資源 (伝統の技)	但東	文化年間(1804~1818)、丹後地方から移入され、近代には技術改良により柄物の製織に成功した。	—
⑩	農村歌舞伎舞台	文化資源 (祭り・行事、民俗芸能、慣習)	但東	安牟加神社にある農村歌舞伎舞台。舞台壁面に文久元年(1861)の墨書があり、それ以前の創建とされる。10月に太古踊が奉納される。	県指定 (民俗文化財(有形の民俗文化財))
⑪	安国寺のドウダンツツジ	自然資源 (植物)	但東	安国寺の裏山にある、樹齢100年を超えるドウダンツツジ。秋季は周囲が真っ赤に染まる。	—
⑫	一宮神社のケヤキの森	自然資源 (植物)	但東	一宮神社の社叢。ケヤキ9本が指定。最大のケヤキは胸高周囲7.1m、樹高35m。ほかにもエノキ、ムクノキ、イチチョウ、スギなどがある。	県指定 (記念物(天然記念物))
⑬	郷路岳	自然資源 (地形・地質、自然風景)	但東	ひょうご森林浴50選に選ばれた森林公園が整備されている。	—
⑭	東里ヶ岳	自然資源 (地形・地質、自然風景)	但東	標高663m。日本海を航行する船の目印ともなった。日向(ひなだ)との峰境は「鉤掛さん」と呼ばれる神域となっている。	—



⑨但馬ちりめん



⑪安国寺のドウダンツツジ



⑫一宮神社のケヤキの森



## 第5章 「豊岡の宝もの」を守り、活かす

### 第1節 将来像と方向性

本市は、『豊岡市基本構想』（期間：平成30年度(2018年度)～令和11年度(2029年度)）でまちの将来像を「小さな世界都市－Local&Global City－」とし、「ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまち」をめざし、市民の暮らしを支える諸施策と併せ、市政を推進している。

一方で「豊岡の宝もの」は、人口減少・少子高齢化等の社会状況の変化を背景に、滅失・散逸の防止や継承の担い手確保が困難となっている。

このような中で、本市の歴史文化の特性である「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語を手掛かりに、ふるさとの誇りとなる「豊岡の宝もの」を学び、地域総がかりで未来へと守り・活かす取組を進めることが大切である。こうした取組は、市民文化の向上と心豊かな活力のあるまちづくりへとつながり得る。

以上のことから、本計画を通じて目指す将来像を「ふるさとを学び、「豊岡の宝もの」を未来へつなぐまち」とする。そして、この将来像の実現に向けて、「ほりおこす」、「知り・学ぶ」、「守る」、「伝え・活かす」の4つの方向性に基づく取組を相互に連動させながら展開する。

なお、この将来像及び方向性は、歴文構想の基本理念「“楽しみ”が未来へ伝える ふるさと豊岡の宝もの」と、「発見・学びを楽しむ」、「楽しみながら育み、活かす」、「訪れ、味わう楽しみを高める」の3つの基本方針の考え方を受け継いだ上で、現在の社会状況に合わせて再編したものである。

#### 【将来像】

ふるさとを学び、「豊岡の宝もの」を未来へつなぐまち

#### 【方向性】

- 「豊岡の宝もの」をほりおこす
- 「豊岡の宝もの」を知り・学ぶ
- 「豊岡の宝もの」を守る
- 「豊岡の宝もの」を伝え・活かす



## 第2節 「豊岡の宝もの」の保存・活用の現状と課題

前節で設定した4つの方向性は、それぞれ次のとおり施策項目と対応して整理できる。

- ・「豊岡の宝もの」をほりおこす … 調査・研究
- ・「豊岡の宝もの」を知り・学ぶ … 価値共有・担い手育成
- ・「豊岡の宝もの」を守る … 保存対策
- ・「豊岡の宝もの」を伝え・活かす … 魅力発信・活用

ここでは、4つの施策項目ごとに、「これまでの取組」と「現状と課題」を整理する。

### (1) 調査・研究

#### ① これまでの取組

これまでの調査・研究に基づく報告書及び刊行物は、巻末資料3のとおりである。第3章第1節(2)で前述したように、これらの調査・研究を通じて、指定等を受けていない「豊岡の宝もの」14,070件を把握した。「豊岡の宝もの」の類型ごとの把握調査の実施状況は表5-1のとおりである。

**市による把握調査** 合併前の旧市町(1市5町)によって把握調査の実施状況が異なる。旧市町の主要な把握調査は、旧豊岡市の石塔・石碑等の調査、旧日高町の自然資源の調査、旧但東町の庚申塔や農村歌舞伎舞台の調査などがあげられる。

合併後は、城跡の把握調査のほか、平成25年(2013)に歴文構想の策定に向けて各行政区に所在する「豊岡の宝もの」の把握調査(アンケート調査)を実施した。

歴文構想の策定後は、構想に定める方針や施策に基づき、各行政区の年中行事の現状把握調査や歴史博物館内収蔵資料等の現況把握・目録作成などを実施した。そして、令和7年(2025)に本計画の作成に向けた「豊岡の宝もの」の現状把握のための再調査(アンケート調査)を実施した。

**埋蔵文化財調査** 埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の際には、発掘調査等を実施して内容確認を行い、調査報告書を発行してきた。

**詳細調査・研究** 国指定史跡である但馬国分寺跡及び有子山城跡の発掘調査や、歴史博物館企画展の開催に向けた企画テーマに応じた調査・研究を継続的に実施してきた。

近年は、『鳥井家公私之日記』(豊岡)及び『御用部屋日記』(出石藩)の天気記録の調査、関西学院大学などとの北但大震災に関する共同研究、奈良文化財研究所及び兵庫県立考古博物館との古代但馬国関係出土文字資料に関する連携研究を実施した。

**市民や団体等による調査** 行政区や団体、郷土史家等により、テーマや地域を絞った調査が古くから実施されてきた。歴文構想の策定後は、時を同じくして設置された地域コミュニティ組織が中心となって、各地域に所在する身近な「豊岡の宝もの」の掘り起こしが、いくつかの地域で実施されてきた。これらの調



調査の様子

査の成果をもとに、書籍の発行やマップ作成、地域史誌の編纂が進められた。

表 5-1 「豊岡の宝もの」の把握調査の実施状況

区分		実施状況							
		豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	概要	
歴史資源	①建造物	建築物	△	△	△	△	△	△	出石城下町や竹野の民家建築等、城崎の旅館建築、但東地域の農村舞台、市全域の石塔・石祠は概ね把握できている。そのほかは主要なものの把握にとどまる。
		土木構造物・工作物	△	△	△	△	△	△	近代化遺産や日高地域・但東地域の鳥居、出石城下町の門・塀、竹野の井戸などは概ね把握できている。そのほかは主要なものの把握にとどまる。
	②美術工芸品	絵画	×	×	×	△	△	×	日高地域・出石地域の一部寺社等所蔵の絵画のみ把握できている。個人所有のものが多く、市主導の調査はできておらず、主要なものの把握にとどまる。
		彫刻	○	○	○	○	○	○	概ね把握できている。
		工芸品	△	△	△	△	△	△	灯籠・水盤等は概ね把握できている。そのほかは主要なものの把握にとどまる。
		書跡・典籍	△	△	△	○	○	△	日高地域・出石地域の一部寺社等所蔵の書跡・典籍のみ把握できている。そのほかは主要なものの把握にとどまる。
		古文書	○	△	△	○	△	○	一部の村文書・寺社文書・家文書は把握できている。把握できていない村や寺社等も多く残る。
		考古資料	○	○	○	○	○	○	概ね把握できている。
	③遺跡・旧跡	埋蔵文化財包蔵地	○	○	○	○	○	○	概ね把握できている。
		街道・古道	△	△	△	△	△	△	主要なものの把握にとどまる。
		近代以降の施設跡	△	△	△	△	△	△	主要なものの把握にとどまる。
	④公園・庭園	公園、民家・寺社等の庭園	×	×	×	△	△	×	出石城下町の庭園、日高地域の主要な庭園の把握にとどまる。公園は把握できていない。
	文化資源	①祭り・行事、民俗芸能、慣習	祭り・行事、民俗芸能	○	○	○	○	○	○
信仰の場			○	○	○	○	○	○	概ね把握できている。
地域の伝統的な娯楽			×	×	○	×	×	×	竹野地域は概ね把握できている。そのほかの地域は把握できていない。
②伝統の技		工芸技術、民俗技術	△	○	×	×	○	×	伝統的工芸品に関する工芸技術の把握にとどまる。
③食文化		郷土料理・行事食	△	△	△	△	△	△	主要なものの把握にとどまる。
④生活・祭礼道具		民具・生活用具類	△	△	△	△	△	△	主要なものの把握にとどまる。
		祭り・行事に使う道具類	△	△	△	△	△	△	主要なものの把握にとどまる。
⑤説話・伝承・地名	民間伝承・俗信、地名由来説話等	△	△	△	○	△	○	日高地域・但東地域は概ね把握できている。そのほかの地域は主要なものの把握にとどまる。	
⑥町並み、暮らしの風景	生活・生業・風土を反映した町並み・風景	△	△	△	△	△	△	主要なものの把握にとどまる。	
自然資源	①動物	貴重な動物種、貴重な動物の生息地	○	○	○	○	○	○	兵庫県版レッドリスト、豊岡市天然記念物調査(H25)により、概ね把握できている。
	②植物	巨樹・名木、樹林・社叢、貴重な植物群落・植物種	○	○	○	○	○	○	兵庫県版レッドリスト、豊岡市天然記念物調査(H25)により、概ね把握できている。
	③地形・地質	山岳・河川・湖沼・海浜等、地質資源、鉱物・岩石	○	○	○	○	○	○	兵庫県版レッドリスト、豊岡市天然記念物調査(H25)により、概ね把握できている。

【凡例】○…概ね把握できている △…一部は把握できている ×…ほとんど把握できていない

## ② 現状と課題

- ・ 建造物や美術工芸品など、「豊岡の宝もの」の種類の複数について、把握調査が十分にできていない。  
→ 十分に把握できていない建造物や美術工芸品の把握調査を実施する必要がある。
- ・ 祭り・行事と民俗芸能は、近年、担い手不足等を背景に失われたり内容が変化したりするものが

多い。(巻末資料2(1)参照)

→ 祭り・行事や民俗芸能は、定期的に現況確認調査を実施する必要がある。

・本市には周知の埋蔵文化財包蔵地が多く、調査ができていないものも多い。

→ 埋蔵文化財の内容を確認・把握して保護を図るため、開発等に伴う埋蔵文化財の発掘調査等を継続して実施する必要がある。

・但馬国分寺跡は、寺域西側の境界などの依然として明らかになっていない箇所が残り、整理できていない出土遺物もある。

→ 但馬国分寺跡の調査・研究を継続して実施し、さらなる価値の解明に努める必要がある。

・行政区や地域コミュニティ組織には専門的な知識が不足しており、「豊岡の宝もの」の把握や地域の歴史文化の調査・研究が十分でない部分もある。

→ 行政区や地域コミュニティ組織による歴史文化の調査・研究を支援する必要がある。

・把握した「豊岡の宝もの」の情報が集約されていない。

→ 本計画作成時に整理する「豊岡の宝ものデータベース」をもとに、「豊岡の宝もの」情報を管理する必要がある。

## (2) 価値共有・担い手の育成

### ① これまでの取組

**ふるさと教育** 本市は、小学校3年生から中学校3年生を対象に「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を共通の学習課題としたふるさと教育を実施しており、平成29年(2017)3月に「豊岡ふるさと学習ガイドブック」を作成して現場の教員等を支援してきた。

**見学会・講座等** 小・中・義務教育学校向けの出前授業(ミュージアム出前授業)や地区・施設向けの出前講座(市政出前講座)、民間の活動団体と連携した見学会等を継続的に実施してきた。

歴史博物館は、「豊岡の宝もの」について学び、その知識や技術をまちづくりに活かすことができる人材を育成するために、平成26年度(2014年度)にとよおか市民学芸員養成講座を開設し、令和7年(2025)3月現在48名のとよおか市民学芸員(修了者)を育成してきた。とよおか市民学芸員の有志により「とよおか市民学芸員友の会」が組織され、歴史博物館の展示協力やイベントの運営補助、収蔵品の整理作業などの継続的な活動が実施されてきた。

なお、兵庫県立但馬文教府においても、「但馬文教府みてやま学園」の専門講座「但馬の文化」、「自然・産業」、「麦わら細工」が開講されている。

**生徒・学生の受け入れ** 歴史博物館等は、中学生の就業体験「トライやる・ウィーク」や学芸員資格の取得を目指した学生(博物館実習)の受け入れ、また、令和6年度(2024年度)からは芸術文化観光専門職大学の実習の受け入れを実施してきた。

**展示** 歴史博物館は、常設展や定期的な企画展、館外



見学会の様子

での出張展示などを開催するとともに、民間の活動団体等の活動紹介などのミニ展示も定期的で開催してきた。特に、歴文構想策定後は、テーマ別の企画展に加えて、各地区の「豊岡の宝もの」を紹介する企画展「ふるさとの宝もの」を定期的で開催してきた。これまで、平成28年度(2016年度)の日高地区、平成29年度(2017年度)の三方・清滝・西気地区、令和元年度(2019年度)の国府・八代地区、令和3年度(2021年度)の港地区、令和6年度(2024年度)の新田・中筋・神美地区の5回を開催した。



歴史博物館での展示・解説の様子

**歴史文化情報の発信** 市のホームページにおいて、指定等文化財に関する情報や各種調査結果、歴史文化に係る計画等の情報を発信してきた。また、歴史博物館は、館のホームページで展示やイベント、体験メニュー等の情報発信のほか、館報や博物館ニュース、SNSを通じて定期的な情報発信を行ってきた。

また、歴文構想に基づいて、郷土資料の一覧表(目録)、旧市町村史のスキャン画像、「豊岡の宝もの」の写真の豊岡市立図書館のホームページへの掲載・公開に取り組んだ。

**市民や団体等による価値共有・担い手育成** 祭り・行事や民俗芸能等の担い手育成・技の継承等は、氏子や行政区で実施されており、中には保存会を組織して継承を図る地区も見られる(栗尾区練り込み保存会、薬王寺しめ縄保存会など、ほか多数)。

一方、地域コミュニティ組織では、高齢者の生きがいづくりや世代間交流などの各種取組が実施され、注連縄<sup>しめなわ</sup>づくりなどの技の伝承も行われてきた。また、それらの取組の一環として、多くの地域コミュニティ組織で「豊岡の宝もの」等を含めた地域のカルタづくりや紙芝居づくり、カルタ大会やスタンプラリー、フォトコンテストの開催などが実施されてきた。西気地区では、閉校した西気小学校を利用した西気地区資料館を設置し、収集した写真や資料を展示している。また、このような地域コミュニティ組織による各種取組は、年度ごとに「地域コミュニティ組織活動事例集」を作成して発信し、情報共有と意識啓発を図ってきた。

## ② 現状と課題

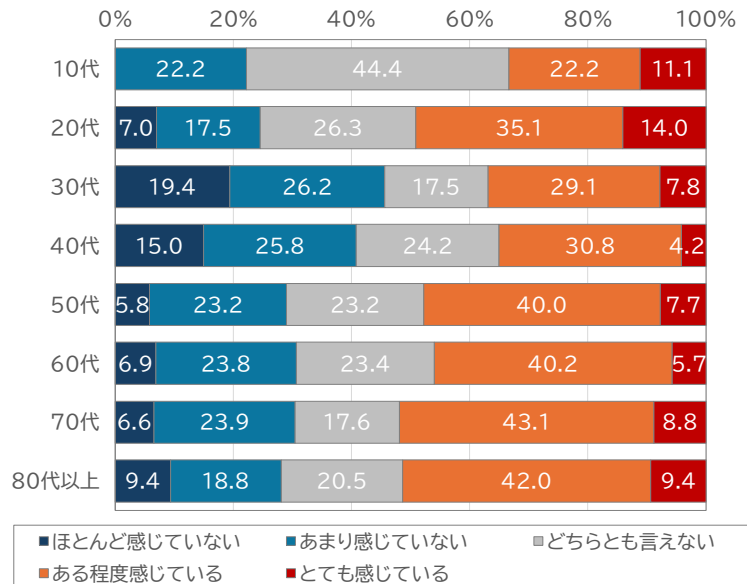
- ・市ホームページで得られる指定等文化財の情報は件数と一覧表のみであり、その価値が伝わり難い。
  - 指定等文化財に関する情報発信を充実させる必要がある。
- ・市民が「豊岡の宝もの」に触れる機会や情報が少なく、価値の理解や活用が進まない。
  - 各行政区や地域コミュニティ組織にある「豊岡の宝もの」やその価値を知ることができる機会を提供する必要がある。
- ・次世代の担い手育成のためにはふるさと教育が重要であるが、実施にあたっては情報・資料の不足などの課題もあり、効果的な実施が必要である。(巻末資料2(2)参照)
  - 教員への支援を通じて、ふるさと教育を充実させる必要がある。

- ・歴史に関係する市民団体の活動が縮小しており、担い手が減少している。  
→ 担い手につながる「とよおか市民学芸員」の継続的な養成が必要である。
- ・人口の減少が進む中で、地域住民だけでは保存・活用が困難な「豊岡の宝もの」が増えている。  
(巻末資料2(1)参照)

→ 多様な主体に「豊岡の宝もの」の魅力を知ってもらい、さまざまな形で保存・活用に関わってもらえる担い手・支援者を確保・育成する必要がある。

- ・2025年豊岡市まちづくりアンケート(政策モニタリング調査)では、30～40代の子育て世代の「地域の歴史、伝統、文化を誇りに思う」割合が低い。(図5-1)

→ 子育て世代を保存・活用の取組に巻き込んでいくため、子育て世代の歴史文化に対する興味・関心を高める必要がある。



資料：2025年豊岡市まちづくりアンケート(政策モニタリング調査)  
図5-1 「地域の歴史、伝統、文化を誇りに思うか」の回答

### (3) 保存対策

#### ① これまでの取組

**文化財指定等** 本市には令和8年(2026)8月現在 442 件の指定等文化財がある(表3-1及び巻末資料1参照)。歴文構想策定後の新たな指定等の件数は19件(国登録8件、市指定11件)である。

国史跡の但馬国分寺跡(日高町国分寺)は調査成果等に基づいて継続的に追加指定されており、近年では、令和7年(2025)3月に東面築地の南端部が追加指定された。

**指定等文化財の保存対策** 指定等文化財の確実な保存を図るため、所有者や管理者に対して、必要に応じて各分野の専門家の意見を聴きながら助言等を実施してきた。近年は、県指定の隆国寺障壁画(日高町荒川)、市指定の経王寺鐘楼(出石町下谷)や宗鏡寺開山堂(出石町東條)の修復への補助を実施した。

出石伝統的建造物群保存地区では、地区内の特定物件の修理事業を継続実施しており、令和4年(2022)3月に「出石伝統的建造物群保存地区防災計画」を策定し、令和6年(2024)12月に「出石伝統的建造物群保存地区保存計画」を改正した。

国史跡の山名氏城跡及び但馬国分寺跡は、各保存管



修復された経王寺鐘楼

理計画に基づいて保存・管理を実施してきた。なお、但馬国分寺跡は、令和7年(2025)3月に「但馬国分寺跡保存活用計画」を策定し、令和9年(2027)3月に「但馬国分寺跡整備基本計画」を策定予定である。

**関連する制度や事業等による保存** 関連する制度に基づく指定等は、第2章第2節(6)に前掲のとおり、自然公園法に基づく山陰海岸国立公園や氷ノ山後山那岐山国定公園の指定、兵庫県立自然公園条例に基づく但馬山岳県立自然公園及び出石糸井県立自然公園の指定のほか、環境の保全と創造に関する条例(兵庫県)に基づく環境緑地保全地域(3件)及び郷土記念物(6件)の指定、豊岡市景観条例に基づく景観形成重点地区(3件)の指定、景観の形成等に関する条例(兵庫県)に基づく景観形成重要建造物等(8件)の指定及び景観遺産(16件)の登録がある。これらの指定等を受けている「豊岡の宝もの」は、各制度・事業に基づいて保存されてきた。

城崎地区では、平成29年(2017)4月に豊岡市城崎温泉地区における歴史的建築物の保存及び活用に関する条例を制定し、令和2年(2020)4月に同指針を策定して建築基準法の適用除外による木造3階建旅館の町並み継承の体制を整備した。また、竹野地区では竹野地域振興局が焼杉板の設置に対する補助制度である焼杉板景観保全事業を実施し、NPO法人たけのかぞくと連携して、焼杉板づくりのイベント等を開催しながら焼杉板の町並みを保存してきた。

このほか、祭り・行事や民俗芸能などを中心に、指定等を受けていない「豊岡の宝もの」についても、文化庁の補助金、民間財団の助成金などを積極的に活用して保存・継承を図ってきた。

**市民や団体等による保存** 受け継がれてきた祭り・行事の継続をはじめ、区民や氏子・檀家の積み立て金等による神社や寺院、祭り用具の補修・新調等、保存会による民俗芸能の技の継承など、各地区の身近な「豊岡の宝もの」の保存・継承は、地域住民が中心となって実施してきた。また、行政区単独での保存・継承が困難になってくる中で、地域コミュニティ組織等を中心とした清掃活動等の取組も実施されるようになってきた。また、神鍋民謡保存会は、地域内だけでは保存・継承が困難であることから、令和5年(2023)から民俗芸能のそうだろ節、ヤチャ踊の参加者を広く地域外からも募集して後継者を育成する取組を実施しており、市はこの募集情報を市のホームページに掲載して支援している。



神鍋民謡保存会による  
そうだろ節、ヤチャ踊の公演

## ② 現状と課題

- ・指定等文化財の中にも維持管理が難しくなっているものがある。
  - 指定等文化財の適切な維持管理を通じた確実な保存・継承を支援する必要がある。
- ・文化財指定等の可能性を有するものの、詳細調査ができておらず、指定等を受けていない「豊岡の宝もの」がある。
  - 文化財的な価値が高い「豊岡の宝もの」は、その確実な保存のために、文化財指定等を推進する必要がある。

- ・歴文構想は史跡整備を重点施策の1つとし、国指定史跡の山名氏城跡及び但馬国分寺跡の保存のための整備や計画作成等を実施してきた。
  - **市が誇る2つの国指定史跡を適切に管理して保存する必要がある。**
- ・歴文構想は町並みの保存・整備を重点施策とし、景観行政と連携しながら特に力を入れて取り組んできた。
  - **城下町や温泉街、港町、震災復興建築群など、本市の歴史文化の特性を分かりやすく示す町並みを保全する必要がある。**
- ・「豊岡の宝もの」を支える人々の減少により、資金不足等が課題となっている行政区が多い。(巻末資料2(1)参照)
  - **「豊岡の宝もの」の保存・継承のために各種補助金を活用する必要がある。**
- ・文化財指定等に至らない「豊岡の宝もの」の中には、保存・継承の危機に瀕しているものもある。(巻末資料2(1)参照)
  - **文化財指定等に至らない「豊岡の宝もの」を保存・継承するための制度を創設・運用する必要がある。**
- ・「豊岡の宝もの」の中でも特に祭り・行事や民俗芸能は、継承の課題を抱えているものが多い。(巻末資料2(1)参照)
  - **行政区や地域コミュニティ組織、氏子、保存会等による祭り・行事や民俗芸能の継承を支援する必要がある。**
- ・単独では「豊岡の宝もの」の保存・継承が困難な行政区が増加しているが、地域コミュニティ組織を中心とした保存・継承の取組は十分に進んでいない。(巻末資料2(1)参照)
  - **地域コミュニティ組織による「豊岡の宝もの」の保存・継承の取組を支援する必要がある。**

#### (4) 魅力発信・活用

##### ① これまでの取組

**観光情報の発信** 平成28年(2016)6月、本市は、全但バス株式会社、WILLER株式会社、株式会社但馬銀行、但馬信用金庫とともに(一社)豊岡観光イノベーション(TTI:Toyooka Tourism Innovation)を設立し、平成30年(2018)に観光庁の観光地域づくり法人(DMO)に登録された。TTIが豊岡市観光公式サイト「六面体豊岡」を開設・運営して、豊岡市の歴史文化や「豊岡の宝もの」を含めた観光情報を発信している。

特に文化観光<sup>注1)</sup>の分野では、令和3年(2021)5月に「豊岡市地域計画」(計画期間:令和3~7年度(2021~2025年度))の認定を受け、豊岡演劇祭や城崎国際アートセンター(KIAC)コミュニティプログラムによる地域文化や自然環境などの調査を通じたアーティストによる映像・音楽等の作品創作など、“深さをもった演劇のまちづくり”のための各種事業を実施してきた。

---

注1) 文化観光<sup>注1)</sup>の分野では、令和3年(2021)5月に「豊岡市地域計画」(計画期間:令和3~7年度(2021~2025年度))の認定を受け、豊岡演劇祭や城崎国際アートセンター(KIAC)コミュニティプログラムによる地域文化や自然環境などの調査を通じたアーティストによる映像・音楽等の作品創作など、“深さをもった演劇のまちづくり”のための各種事業を実施してきた。

**市による建造物・遺跡の活用整備** 本市は、旧豊岡町役場(現豊岡稽古館)や旧兵庫県農工銀行豊岡支店(現TOYOOKA1925)、旧出石郡役場(現出石明治館)など、多くの歴史的な建築物をリノベーションして活用してきた。

一方、遺跡では、平成27年度(2015年度)から令和元年度(2019年度)にかけて、山名氏城跡(有子山城跡)の石垣・斜面の保護や登山道の整備を実施した。また、令和9年(2027)3月には但馬国分寺跡整備基本計画を策定予定である。

**山陰海岸ジオパークの活用** 山陰海岸ジオパークの関係都市との連携事業として、巡回展やフォーラム、山陰海岸ジオパークトレイルウォーキングなどのイベントを実施してきた。

**市民や団体等による活用** 行政区や地域コミュニティ組織により、地区内の「豊岡の宝もの」への案内板・解説板の設置やマップづくり、遊歩道の整備などを実施し、それらを巡る「ふるさと探訪」などのイベントなども実施されてきた。

また、国有形登録文化財である大石家住宅を活用した本屋「Wind-up Bird」(但東町矢根)、旧豊岡市商工会館を改築して開館した「江原河畔劇場」(日高町日置)、旧井東医院を活用したカフェ「か行庵」(日高町八代)、古民家を再生した交流拠点「なごみてえ」(竹野町竹野)など、民間の活動団体や個人等による歴史的な建築物の活用の事例も増えてきている。

## ② 現状と課題

- ・個々の観光地・観光資源の情報発信は充実しているものの、各々のつながりが感じられず、周遊効果が限定的である。
  - 「豊岡の宝もの」をつないだ魅力的な観光情報の発信が必要である。
- ・案内板等の老朽化に伴い、情報が正確に伝わっていないものがある。
  - 案内板等の更新・撤去が必要である。
- ・地下に遺構が埋まる遺跡など、現地の解説板を読むだけでは、価値が分からないものもある。
  - 価値を的確に伝え、現地でしか味わえない魅力を提供できるよう、現地解説にICTを積極的に活用する必要がある。
- ・「豊岡の宝もの」の保存・活用の拠点となるガイダンス施設がない。



山名氏城跡(有子山城跡)



豊岡稽古堂(旧豊岡町役場)



旧井東医院を活用したカフェ「か行庵」

- 「豊岡の宝もの」のガイダンス施設として、市立歴史博物館の機能強化の検討が必要である。
- ・ 国指定史跡の但馬国分寺跡は、調査や公有化を進めて「保存活用計画」及び「整備基本計画」を作成し、整備に向けた体制を整えてきた。
  - 但馬国分寺跡は整備基本計画に基づいて整備して活用する必要がある。
- ・ 豊岡の歴史文化は「山陰海岸ジオパーク」の豊かな自然資源が基盤となっており、周辺地域とのつながりを強めている。
  - 豊岡市の歴史文化の魅力発信や活用の取組をより一層効果的に進めるためには、「山陰海岸ジオパーク」の活用事業と連携する必要がある。
- ・ 歴史に関する市民団体等の活動が縮小しており、「豊岡の宝もの」が地域づくりへと十分に活かし切れていない。
  - 歴史に関する市民団体等の活動により、「豊岡の宝もの」を地域づくりへと活かすための支援が必要である。

### 第3節 「豊岡の宝もの」の保存・活用の方針と事業

将来像「ふるさとを学び、「豊岡の宝もの」を未来へつなぐまち」の実現に向けて、前節で整理した課題を受けて、4つの方向性に基づき「豊岡の宝もの」の保存・活用の方針と措置を定める。

方針は、図5-2に示すように、「ほりおこす」は6つ、「知り・学ぶ」は6つ、「守る」は8つ、「伝える・活かす」は7つの、合計27方針を設定する。

事業は、これらの方針に即して表5-2～表5-9に示す合計37事業を設定する。なお、事業は市費、県補助金、国庫補助金(文化財補助金、地域未来交付金等)、外部資金(民間財団の助成等)、団体費(活動団体や地域組織等の資金)を活用して進める。表5-2～表5-9の見方は次の通りである。

事業期間…「前期」は令和9～11年度(2027～2029年度)、「中期」は令和12～15年度(2030～2033年度)、「後期」は令和16～19年度(2034～2037年度)とする。  
 ■■■■ は重点的に実施する期間、■■■■ は恒常的に実施する期間を表す。  
 事業主体…「市民及び団体」は市民、行政区、地域コミュニティ組織、活動団体、民間企業等、「専門家」は審議会・委員会、大学・博物館等の研究機関、ヘリテージマネージャー等、「行政」は豊岡市、兵庫県とする。  
 ◎は中心となって取り組む主体、○は連携・協力して取り組む主体とする。

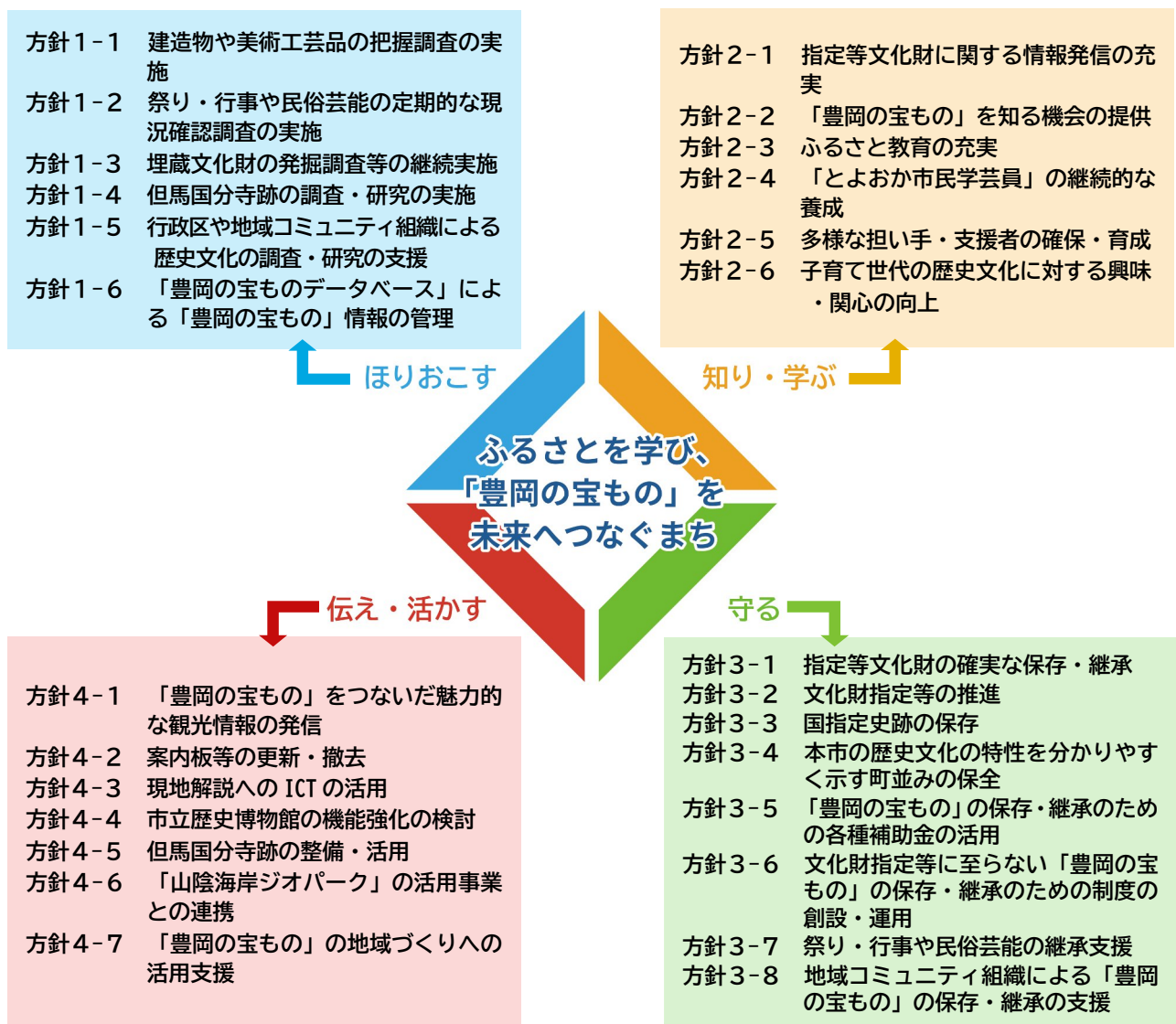


図5-2 保存・活用の将来像・方向性と方針

### (1) 「豊岡の宝もの」をほりおこす

調査・研究に関する方向性「豊岡の宝もの」をほりおこすについては、表5-2～5-3のとおり6つの方針のもとに7事業を設定して取り組む。

表5-2 調査・研究に関する方向性「豊岡の宝もの」をほりおこすの方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針1-1 建造物や美術工芸品の把握調査の実施</b> 十分に把握できていない建造物や美術工芸品の把握調査を実施する。									
1	<b>建造物の調査</b> 市内に残る未指定の建造物について、ヘリテージマネージャー等の技術的支援を受けながら把握調査を実施する。							○	◎文化財室
2	<b>美術工芸品の調査・記録作成</b> 寺社等が所有する絵画・彫刻・工芸品等の把握調査を行い、記録を作成する。							○	◎文化財室
<b>方針1-2 祭り・行事や民俗芸能の定期的な現況確認調査の実施</b> 祭り・行事や民俗芸能について、定期的に現況の確認調査を実施する。									
3	<b>祭り・行事や民俗芸能の現況確認調査</b> 祭り・行事や民俗芸能の現況確認調査を市内各地区について順次継続して実施し、定期的な現況記録の作成を行う。							○	◎文化財室
<b>方針1-3 埋蔵文化財の発掘調査等の継続実施</b> 埋蔵文化財の内容を確認・把握して保護を図るため、開発等に伴う埋蔵文化財の発掘調査等を継続して実施する。									
4	<b>埋蔵文化財の発掘調査等の継続実施</b> 開発等に伴う埋蔵文化財の発掘調査等(分布調査・試掘調査・確認調査等を含む)を継続して実施する。							○	◎文化財室
<b>方針1-4 但馬国分寺跡の調査・研究の実施</b> 但馬国分寺跡の発掘調査や出土遺物の整理を継続して実施し、さらなる価値の解明に努める。									
5	<b>但馬国分寺跡の調査・研究</b> 但馬国分寺跡の整備と並行して発掘調査を継続して実施するとともに、出土遺物の整理や報告書の刊行等を行う。							○	◎文化財室
<b>方針1-5 行政区や地域コミュニティ組織による歴史文化の調査・研究の支援</b> 行政区や地域コミュニティ組織による歴史文化の調査・研究を支援する。									
6	<b>行政区や地域コミュニティ組織による歴史文化の調査・研究の支援</b> 行政区や地域コミュニティ組織による「豊岡の宝もの」の把握や地域史誌づくりへの助言等の支援を行う。								◎文化財室

表 5-3 調査・研究に関する方向性「豊岡の宝もの」をほりおこすの方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体			
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政	
		R9	R10	R11						
<b>方針 1-6 「豊岡の宝ものデータベース」による「豊岡の宝もの」情報の管理</b> 「豊岡の宝ものデータベース」により、市内の「豊岡の宝もの」の情報を管理する。										
7	「豊岡の宝ものデータベース」による「豊岡の宝もの」情報の管理 市民及び団体、専門家、行政等の調査成果を収集し、継続的に「豊岡の宝ものデータベース」の内容を更新し、「豊岡の宝もの」情報を管理する。									◎文化財室

## (2) 「豊岡の宝もの」を知り・学ぶ

価値共有・担い手育成に関する方向性「豊岡の宝もの」を知り・学ぶについては、表 5-4～5-5 のとおり、6つの方針のもとに 11 事業を設定して取り組む。

表 5-4 価値共有・担い手育成に関する方向性「豊岡の宝もの」を知り・学ぶの方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針 2-1 指定等文化財に関する情報発信の充実</b> 指定等文化財の価値を誰もが理解できるよう、多様な媒体を通じて、指定等文化財に関する充実した情報を発信する。									
8	<b>指定等文化財に関する情報発信の充実</b> 市の広報やホームページ、SNS、市立歴史博物館の館報、ニューズレター、市立図書館ホームページ等で、各指定等文化財の概要や詳細情報を掲載して、誰もがその価値を理解できるようにする。	■	■	■	■	■			◎文化財室
<b>方針 2-2 「豊岡の宝もの」を知る機会の提供</b> 各行政区や地域コミュニティ組織にある「豊岡の宝もの」やその価値を知ることができる機会を提供する。									
9	<b>行政区別「豊岡の宝もの」リストの作成・配布</b> 行政区ごとの「豊岡の宝もの」リストを作成して、当該行政区に配布するとともに、適宜、地域コミュニティ組織にも情報提供を行う。	■	■	■					◎文化財室
10	<b>「豊岡の宝ものデータベース」の公開</b> 公開対象の整理、活用に資する情報の追加、内容の精査等の準備を行い、「豊岡の宝ものデータベース」を市ホームページ等で公開する。	■	■	■	■	■			◎文化財室
11	<b>企画展「ふるさとの宝もの」の開催</b> 市立歴史博物館の企画展「ふるさとの宝もの」を継続的に開催する。	■	■	■	■	■			◎文化財室
12	<b>市民向け講座の実施</b> 各行政区や地域コミュニティ組織、施設向けの出前講座（市政出前講座）を実施する。	■	■	■	■	■			◎文化財室
<b>方針 2-3 ふるさと教育の充実</b> ふるさと教育の支援窓口の設置や出前授業の実施などの教員への支援を行い、ふるさと教育の充実を図る。									
13	<b>ふるさと教育の支援窓口の設置・運用</b> 小・中・義務教育学校の教員がふるさと教育を実施する際に、授業内容の相談や歴史博物館資料の提供等を行う窓口を設置・運用する。	■	■	■	■	■			◎文化財室 ○学校教育課
14	<b>小・中・義務教育学校向けの出前授業の実施</b> 市職員による出前授業（ミュージアム出前授業）等を実施する。	■	■	■	■	■	○	○	◎文化財室 ○学校教育課
<b>方針 2-4 「とよおか市民学芸員」の継続的な養成</b> 「とよおか市民学芸員養成講座」等を通じて、「とよおか市民学芸員」の養成を継続的に実施する。									
15	<b>「とよおか市民学芸員養成講座」の実施</b> 「とよおか市民学芸員」の養成を図るために、「とよおか市民学芸員養成講座」を継続的に実施する。	■	■	■	■	■		○	◎文化財室

表 5-5 価値共有・担い手育成に関する方向性「豊岡の宝もの」を知り・学ぶの方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針 2-5 多様な担い手・支援者の確保・育成</b> 多様な主体に「豊岡の宝もの」の魅力を知ってもらい、さまざまな形で保存・活用に関わってもらえる担い手・支援者を確保・育成する。									
16	<b>生徒・学生の体験・実習の受け入れ</b> 生徒・学生が「豊岡の宝もの」を知り、保存・活用意識の向上につなげることを目的の1つとして、市立歴史博物館などの施設で、トライやるウィークや博物館実習などの受け入れを実施する。	■	■	■	■	■			◎文化財室
17	<b>芸術文化観光専門職大学との連携</b> 芸術文化観光専門職大学の実習の受け入れなど、さまざまな分野で連携した取組を実施し、学生が豊岡市の歴史文化を知り、「豊岡の宝もの」の保存・活用に関わる機会を増やす。	■	■	■	■	■			◎文化財室 ○その他関係課
<b>方針 2-6 子育て世代の歴史文化に対する興味・関心の向上</b> 子育て世代を保存・活用の取組に巻き込んでいくため、子育て世代の歴史文化に対する興味・関心を高める。									
18	<b>子育て世代の興味・関心を高めるイベントの開催</b> 市立歴史博物館の企画展や体験事業、いずし古代学習館のかかし倶楽部など、子どもの体験を通じて、親も歴史文化に触れる機会をつくるなど、子育て世代を巻き込んだイベントを開催する。	■	■	■	■	■			◎文化財室

### (3) 「豊岡の宝もの」を守る

保存対策に関する方向性「豊岡の宝もの」を守るについては、表 5-6～5-7 のとおり 8 つの方針のもとに 12 事業を設定して取り組む。

表 5-6 保存対策に関する方向性「豊岡の宝もの」を守るの方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針 3-1 指定等文化財の確実な保存・継承</b> 指定等文化財を適切に維持・管理し、次世代へと確実に保存・継承する。									
19	<b>指定等文化財の確実な保存・継承への支援</b> 指定等文化財について、維持管理に対する助言・指導、修理等への補助を行う。	■	■	■	■	■	○		◎文化財室 ○兵庫県
<b>方針 3-2 文化財指定等の推進</b> 文化財的な価値が高い「豊岡の宝もの」は、詳細調査等の結果を踏まえ、文化財指定等を推進する。									
20	<b>文化財指定等の推進</b> 文化財的な価値が高い「豊岡の宝もの」は、詳細調査等の結果を踏まえ、文化財指定等を推進する。	■	■	■	■	■	○		◎文化財室
<b>方針 3-3 国指定史跡の保存</b> 本市が誇る 2 つの国指定史跡（山名氏城跡、但馬国分寺跡）を適切に管理して保存する。									
21	<b>山名氏城跡の保存・管理</b> 「国指定史跡 山名氏城跡（此隅山城跡・有子山城跡）保存管理計画」に基づき、史跡の維持管理及び定期的な巡視を実施する。	■	■	■	■	■	○		◎文化財室
22	<b>但馬国分寺跡の保存・管理</b> 史跡整備を通じて遺構の確実な保存を図るとともに、「但馬国分寺跡保存活用計画」に基づき、地域住民の協力のもとに史跡の維持管理を行う。	■	■	■	■	■	○		◎文化財室
<b>方針 3-4 本市の歴史文化の特性を分かりやすく示す町並みの保全</b> 城下町や温泉街、港町、震災復興建築群など、本市の歴史文化の特性を分かりやすく示す町並みを保全する。									
23	<b>出石城下町の保全</b> 伝統的建造物群保存地区における特定物件の確実な保存と景観形成重点地区の修景等により、歴史的な町並みを保全する。	■	■	■	■	■	○		◎出石振興局 ◎都市整備課 ○文化財室
24	<b>城崎温泉街の保全</b> 景観形成重点地区としての修景や認定歴史的建築物の制度等を活用しながら、木造 3 階建旅館等が連なる温泉街の町並みを保全する。	■	■	■	■	■	○		◎都市整備課 ◎城崎振興局 ○文化財室
25	<b>豊岡震災復興建築群の保全</b> 兵庫県の景観遺産制度に基づき登録された建築群について、届出制による現状変更等への助言・指導を通じて保全する。	■	■	■	■	■	○		◎兵庫県 ○都市整備課 ○文化財室
26	<b>竹野地区の保全</b> 豊岡市焼杉板景観保全事業を通じて、焼杉板の町並みを保全する。	■	■	■	■	■	○		◎竹野振興局 ○文化財室

表 5-7 保存対策に関する方向性「豊岡の宝もの」を守る」の方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針 3-5 「豊岡の宝もの」の保存・継承のための各種補助金の活用</b> 各種補助金や民間財団助成金等を活用して「豊岡の宝もの」を保存・継承する。									
27	<b>各種補助金や民間財団助成金等の活用</b> 各種補助金や民間財団助成金等を活用して「豊岡の宝もの」を保存・継承する。	●	●	●	●	●	○		◎文化財室
<b>方針 3-6 文化財指定等に至らない「豊岡の宝もの」の保存・継承のための制度の創設・運用</b> 文化財指定等に至らない「豊岡の宝もの」を保存・継承するための制度を創設して運用する。									
28	<b>「豊岡の宝もの」の認定・登録等の制度の創設・運用</b> 認定や登録等の価値づけの方法やその要件、支援策等を検討し、文化財指定等に至らない「豊岡の宝もの」を保存・継承するための制度を創設して運用する。	準備	創設	運用	●	●	○		◎文化財室
<b>方針 3-7 祭り・行事や民俗芸能の継承支援</b> 行政区や地域コミュニティ組織、氏子、保存会等による祭り・行事や民俗芸能の継承を支援する。									
29	<b>祭り・行事や民俗芸能の継承支援</b> 記録保存や助成情報の提供など、行政区や地域コミュニティ組織、氏子、保存会等による祭り・行事や民俗芸能の継承に向けた取組を支援する。	●	●	●	●	●			◎文化財室
<b>方針 3-8 地域コミュニティ組織による「豊岡の宝もの」の保存・継承の支援</b> 地域コミュニティ組織による「豊岡の宝もの」の保存・継承を支援する。									
30	<b>地域コミュニティ組織による「豊岡の宝もの」の保存・継承の支援</b> 地域コミュニティ組織における「豊岡の宝もの」の保存・管理方針（行政区と地域コミュニティ組織の関係や役割分担等のあり方）の検討や保存・継承の取組を支援する。	●	●	●	●	●			◎文化財室

#### (4) 「豊岡の宝もの」を伝え・活かす

魅力発信・活用に関する方向性「豊岡の宝もの」を伝え・活かすについては、表5-8～5-9のとおり7つの方針のもとに7事業を設定して取り組む。

表5-8 魅力発信・活用に関する方向性「豊岡の宝もの」を伝え・活かすの方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針4-1 「豊岡の宝もの」をつないだ魅力的な観光情報の発信</b> 市内を周遊したいと思えるような、「豊岡の宝もの」をつないだ魅力的な観光情報を発信する。									
31	<b>「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語を活かした魅力的な観光情報の発信</b> 豊岡市観光公式サイトにおいて、「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語や、「豊岡の宝もの」をつないだ観光モデルコース等を発信する。								◎観光政策課 (豊岡観光イノベーション) ◎文化財室
<b>方針4-2 案内板等の更新・撤去</b> 案内板等の更新や撤去を行う。									
32	<b>案内板等の更新・撤去</b> 案内板等の現況確認を行い、更新・撤去等の対象を検討し、更新・撤去を行う。							○	◎文化財室
<b>方針4-3 現地解説へのICTの活用</b> 価値を的確に伝え、現地でしか味わえない魅力を提供できるよう、現地解説にICTを積極的に活用する。									
33	<b>現地解説へのICTの活用</b> 「豊岡の宝もの」の価値を的確に伝え、現地でしか味わえない魅力を提供できるよう、現地解説にAR・VR・MRなどのICTを積極的に活用する。							○	◎文化財室
<b>方針4-4 市立歴史博物館の機能強化の検討</b> 市立歴史博物館について、「豊岡の宝もの」の保存・活用の拠点となるガイダンス施設としての機能強化を検討する。									
34	<b>市立歴史博物館の機能強化の検討</b> 市立歴史博物館について、「豊岡の宝もの」の保存・活用の拠点となるガイダンス施設としての機能強化を検討する。								◎文化財室
<b>方針4-5 但馬国分寺跡の整備・活用</b> 但馬国分寺跡を整備し、ふるさと教育の場や地域住民の憩いの場等として活用する。									
35	<b>但馬国分寺跡の整備・活用</b> 遺構を確実に保存した上で、その価値が分かるように表示し、ふるさと教育の場や地域住民の憩いの場等として活用される史跡公園として整備する。								◎文化財室

表 5-9 魅力発信・活用に関する方向性「豊岡の宝もの」を伝え・活かす」の方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体		
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政
		R9	R10	R11					
<b>方針4-6 「山陰海岸ジオパーク」の活用事業との連携</b>									
山陰海岸ジオパークと連携して、豊岡市の地形・地質及び気候と歴史文化のつながりを発信する。									
36	<b>「山陰海岸ジオパーク」の活用事業との連携</b> 山陰海岸ジオパーク推進協議会とともに、豊岡ふるさと学習、アクティビティ体験ツアーやジオパークガイドの養成を行う。また、各種イベント、シンポジウム等を関係府県市町、関係拠点施設、各博物館等と連携して実施する。	■	■	■	■	■	◎	◎	◎観光政策課 ◎文化財室
<b>方針4-7 「豊岡の宝もの」の地域づくりへの活用支援</b>									
歴史に関する市民団体等が実施する「豊岡の宝もの」を地域づくりに活かす取組を支援する。									
37	<b>「豊岡の宝もの」の地域づくりへの活用支援</b> 歴史に関する市民団体等が実施する「豊岡の宝もの」を地域づくりに活かす取組を支援する。	■	■	■	■	■			◎文化財室



## 第6章 「豊岡の宝もの」の防災・防犯

### 第1節 豊岡市における災害等

#### (1) これまでの災害等

##### ① 地震・津波

大正時代以降、本市域で震度5弱以上の揺れがあったと推定される地震は、北但馬地震(大正14年(1925)5月23日)、北丹後地震(昭和2年(1927)3月7日)、兵庫県南部地震(平成7年(1995)1月17日)の3地震である。これらのうち北但馬地震は、地震発生は昼前で各戸とも炊事をしていたため、軟弱層上の地層で水平動を交えた激しい上下動のため多くの家が倒壊し、発生した火災により未曾有の大災害となった。

一方、本市で観測された津波は、日本海で発生した地震に伴うものである。このうち、平成5年(1993)7月12日の北海道南西沖地震(M7.8)は、津居山港で0.7mの津波を観測した。

なお、明治時代以前の地震については『鳥井家文書』などに記録されているものの全容は明らかではない。



北但馬地震に伴う豊岡市街の火災

##### ② 大雨・暴風

本市を貫流する円山川は、出石川合流点付近から河口部の勾配が非常に緩やかであり、堤防よりも低い土地も多いため、多くの水害をもたらした。

近世以前では、嘉永3年(1850)の大雨による被害が出石藩の『御用部屋日記』などに詳しく書かれている。近代以降では、昭和34年(1959)の伊勢湾台風や平成16年(2004)の台風23号などがある。特に、台風23号では、円山川と出石川で堤防が決壊するなどして甚大な被害がもたらされた。

一方、暴風に伴う被害は、近世以前は『御用部屋日記』などに記録されている。近代以降は、昭和11年(1936)の「節分(の)荒れ」による多くの漁船の遭難等がある。



平成16年(2004)台風23号による洪水  
(江本付近)

##### ③ 火災

本市域で発生した主な大火には、豊岡市街地における宝暦12年(1762)の大火、出石における慶

応2年(1866)及び明治9年(1876)などがある。これらのうち出石の大火はともに春の空気が乾燥した時期に発生し、強風により被害が拡大した。

近年では城崎町湯島の住宅等密集地において、平成27年(2015)1月、令和7年(2025)5月に火災が発生した。

#### ④ 大雪

本市は冬の積雪が深く、古文書類には大雪の記録も見られる。近代以降も何度か大雪に見舞われ、特に昭和38年(1963)の「三八豪雪」は沿岸部を中心に被害が出た。

#### ⑤ 盗難等

「豊岡の宝もの」の盗難等の被害に関する十分な把握・整理はできていないが、これまでも仏像等の盗難被害が発生していることを把握している。

### (2) 今後発生のおそれがある災害等

#### ① 地震・津波

兵庫県地震被害想定調査(平成11年(1999)3月)で想定された地震のうち、豊岡市域で最も被害が大きくなるのは「日本海沿岸地震」(冬の18~19時頃発生)である。この地震は但馬海岸付近を震源地とし、M7.3の規模を想定したものである。震度は円山川、竹野川などの河川沿いの低地部で6強~6弱、その周辺の山地部で6弱~5強程度と予測している。

円山川沿いの低地部は、地盤が軟弱で家屋倒壊の危険性が高く、それに伴う火災発生の危険性も高い。山地部に広く分布する北但層群の分布区域は地すべりの発生しやすい地層であり、地震による地すべりの誘発が懸念される。

一方、津波は、国の「日本海における大規模地震に関する調査検討会」が平成26年(2014)9月に公表したシミュレーションにおいて、本市沿岸では4mを超える水位となる地区や、地震発生から10分程度で到達する地区があることが示された。

#### ② 大雨・暴風

全国的にも極端な大雨が増加しており、これまで経験したことがないような大雨に見舞われるおそれがある。

大雨による堤防の決壊や内水氾濫は、美術工芸品など、多くの「豊岡の宝もの」に被害を及ぼすことが想定される。

また、暴風は塀等の倒壊や飛散物による建造物等への被害、樹木の損傷等の被害を引き起こすおそれがある。また、空気が乾燥している場合には火災を拡大させる危険性がある。

#### ③ 火災

古くからの木造建築は、配線の老朽化や雨漏りによる劣化、獣害等が漏電を引き起こし、火災が発生する危険性がある。

本市には木造建築が密集する市街地や集落があり、火災が延焼するおそれがある。そして、火災

は建築物だけでなく、内部に保管されている美術工芸品等に対しても被害を及ぼす危険性がある。

④ 大雪

大雪による建物倒壊や樹木の枝折れ等が想定される。

⑤ 盗難等

人口減少が進む中で、本市には、無人の神社や寺院、お堂、民家等が増加している。これらの建物に美術工芸品等が保管されている場合は盗難等の危険性がある。

## 第2節 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する近年の取組

### (1) 国・兵庫県等の取組

文化庁は、これまでさまざまな通知の発出やガイドラインの策定などを通じて、文化財の防火・防犯対策の徹底等を図ってきた。近年では、令和元年(2019)9月に『国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン』(令和2年(2020)2月改訂)と『国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン』(令和元年(2019)12月改訂)を策定した。また、所有者等が防火・防犯対策の状況を的確に把握し、対策を検討できるよう、チェックリストを作成・公表した。さらに、令和2年(2020)10月には、独立行政法人国立文化財機構に文化財防災センターが設置され、文化財の減災や迅速な救援のための体制づくりと技術開発、救援活動に対する支援等の文化財防災体制の整備が進められてきた。

兵庫県は、県全体の防災計画である『兵庫県地域防災計画』(令和6年(2024)11月修正)に災害発生時の指定等文化財への対応を示し、令和3年(2021)3月に『兵庫県文化財災害対応マニュアル』、令和4年(2022)3月に『文化財所有者のための兵庫県文化財防災・災害対応マニュアル』を作成して、文化財防災・防犯体制の強化を図ってきた。また、平成24年(2012)10月には、近畿圏の2府7県(福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県)及び関西広域連合が「近畿圏危機発生時の相互応援に関する基本協定」を締結し、平成30年(2018)3月に『近畿圏危機発生時の相互応援に関する基本協定に基づく文化財の被災対応ガイドライン』を策定して大規模災害発生時の文化財被害調査等の相互支援体制を整えた。

### (2) 豊岡市の取組

豊岡市は、平成18年(2006)9月に市全体の防災計画である『豊岡市地域防災計画』(令和7年(2025)4月最終修正)を作成した。同計画は、「みんなの力で命と暮らしを守る」を理念として「災害リアリズムに徹する」、「減災の視点に立つ」、「地域の力を蓄える」を基本的指針としている。風水害、地震・津波災害の応急対策計画では、指定等文化財の応急対策を次のように定めている。

国・県・市指定文化財及び登録文化財等の所有者及び管理者は、被害が発生した場合、市を経由して、県教育委員会に報告する。なお、指定文化財等の被災程度が大きい場合は、県教育委員会が、文化庁に支援を依頼し、必要と認められるときは、関係団体(美術館・博物館、県、市)の協力により、文化財等救援委員会が組織され、応急復旧対策を行うことになる。

「豊岡の宝もの」に関する防災計画では、令和4年(2022)3月に『豊岡市出石伝統的建造物群保存地区防災計画』を策定した。

このほか、「豊岡の宝もの」の保存に直接関係する取組として「文化財防火デー」の消防訓練や消防署と合同の文化財パトロールを実施している。

また、防犯面では、市職員が指定等文化財の現状確認を行う中で、盗難対策について文化財所有者等へ適宜助言を実施している。

### 第3節 「豊岡の宝もの」の防災・防犯の方針と方策

#### (1) 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する現状と課題

- ・「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する情報発信が十分でない。無人の寺社や空き家等が増加し、管理者不在による人の目が行き届き難くなる中で、火災や盗難等の被害の危険性が高まっている。
  - 「豊岡の宝もの」への日常的な点検や気配りを促し、災害・被害発生時の円滑な対応を図るために、さまざまな方法で「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する情報発信を実施する必要がある。
- ・指定等文化財の中には、防火設備が設置されていないものもある。
  - 火災の被害を最小限に抑えるために、指定等文化財を中心に防火設備の設置や既存設備の点検を実施する必要がある。
- ・「豊岡の宝もの」の防災訓練として、毎年「文化財防火デー」の前後に消火訓練を実施している。
  - 「文化財防火デー」の消火訓練を毎年実施し、防火体制の強化及び防災・減災意識の向上を図る必要がある。
- ・出石伝統的建造物群保存地区の建造物の多くは伝統的木造建築であり、市街中心部に広く密集して分布しているため、火災時や地震時には一般の地区に比べて脆弱な面がある。災害時の危険性や被害等を最小限に抑えるため『豊岡市出石伝統的建造物群保存地区防災計画』を策定した。
  - 『豊岡市出石伝統的建造物群保存地区防災計画』に基づく防災対策事業を実施して、同計画に掲げるヒト・モノ・コミュニティの「防災力の向上」を図る必要がある。
- ・実際に「豊岡の宝もの」に被害を及ぼすような災害や、盗難・き損等の被害が発生した際の詳細なタイムライン(時系列の行動計画)は作成できていない。
  - 災害・被害発生時の「豊岡の宝もの」に係るタイムラインを作成する必要がある。



「文化財防火デー」の消火訓練

## (2) 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する方針と事業

「豊岡の宝もの」の防災・防犯は、国・兵庫県の計画やガイドライン等及び『豊岡市地域防災計画』に即した上で、表6-1のとおり5つの方針のもとに5事業を設定して取り組む。

なお、表6-1に示す各事業の推進のための財源及び表の見方（事業期間、関係する主体）は75頁と同様である。

表6-1 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する方針と事業

No.	事業	事業期間					事業主体			
		前期			中期	後期	市民 及び 団体	専門家	行政	
		R9	R10	R11						
<b>方針1 「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する意識啓発</b>										
「豊岡の宝もの」への日常的な点検や気配りを促し、災害・被害発生時の円滑な対応を図るために、さまざまな方法で「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する情報発信を実施する。										
防1	「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する情報発信 市ホームページ等のさまざまな方法で「豊岡の宝もの」の防災・防犯に関する情報発信を実施する。									◎文化財室
<b>方針2 防火設備の整備・点検</b>										
火災の被害を最小限に抑えるために、指定等文化財を中心に防火設備の設置や既存設備の点検を定期的実施する。										
防2	防火設備の整備・点検の支援 指定等文化財である建造物や美術工芸品を保管する収蔵施設を中心に、防火設備の整備・点検を支援する。									◎文化財室
<b>方針3 消火訓練の実施</b>										
「文化財防火デー」の消火訓練を実施し、「豊岡の宝もの」の防火体制の強化及び防災・減災意識の向上を図る。										
防3	消火訓練の実施 「文化財防火デー」の消火訓練を毎年実施する。							○		◎文化財室 ○消防本部
<b>方針4 出石伝統的建造物群保存地区の防災力の向上</b>										
『豊岡市出石伝統的建造物群保存地区防災計画』に基づく防災対策事業を実施して、同計画に掲げるヒト・モノ・コミュニティの「防災力の向上」を図る。										
防4	出石伝統的建造物群保存地区における防災対策事業の実施 『豊岡市出石伝統的建造物群保存地区防災計画』に基づく防災対策事業を実施する。							○	○	◎出石振興局 ○文化財室
<b>方針5 災害・被害発生時の「豊岡の宝もの」に係るタイムラインの作成</b>										
「豊岡の宝もの」に被害を及ぼすような災害や、盗難・き損等の被害が発生した際のタイムライン(時系列の行動計画)を作成する。										
防5	災害・被害発生時の「豊岡の宝もの」に係るタイムラインの検討・作成 関係各課等との調整のもと、「豊岡の宝もの」に被害を及ぼすような災害や、盗難・き損等の被害が発生した際の詳細なタイムラインを検討し、作成する。									◎文化財室 ○危機管理課 ○消防本部 ○その他関係課

### (3) 「豊岡の宝もの」の防災・防犯体制と災害・被害等発生時の対応

被害の発生を未然に防ぐとともに、万一災害・被害が発生時に適切かつ迅速に対応できるよう、豊岡市担当部局(文化財室)は、市民(所有者・管理者や行政区等)、豊岡市消防本部、豊岡警察署等との密な連絡体制を築く。また、応急対策や復旧・復興・復元等を的確に実施するため、各分野の専門家との連携・協力体制を構築する。

災害・被害発生時の基本的な対応の流れは図 6-1 のとおりとし、災害・被害の状況に応じて柔軟に対応する。特に、「豊岡の宝もの」の盗難・き損等の被害の場合、報告を受けた豊岡市担当部局(文化財室)は、第2・第3の被害を食い止めるため、市内の指定等文化財所有者・管理者や行政区、兵庫県、周辺市町に対して速やかに被害状況を連絡・報告する。また、大規模災害の発生時は、兵庫県を經由して文化財防災センターなどの外部機関への支援を要請するとともに、外部機関に「豊岡の宝ものデータベース」等の情報を速やかに提供するなど、災害応急対応に協力する。

災害・被害への対応が完了した後、豊岡市担当部局(文化財室)は「豊岡の宝もの」の防災・防犯体制を点検し、必要に応じて改善する。また、防災・減災の知恵や技術等の情報を整理して、次世代に伝える。

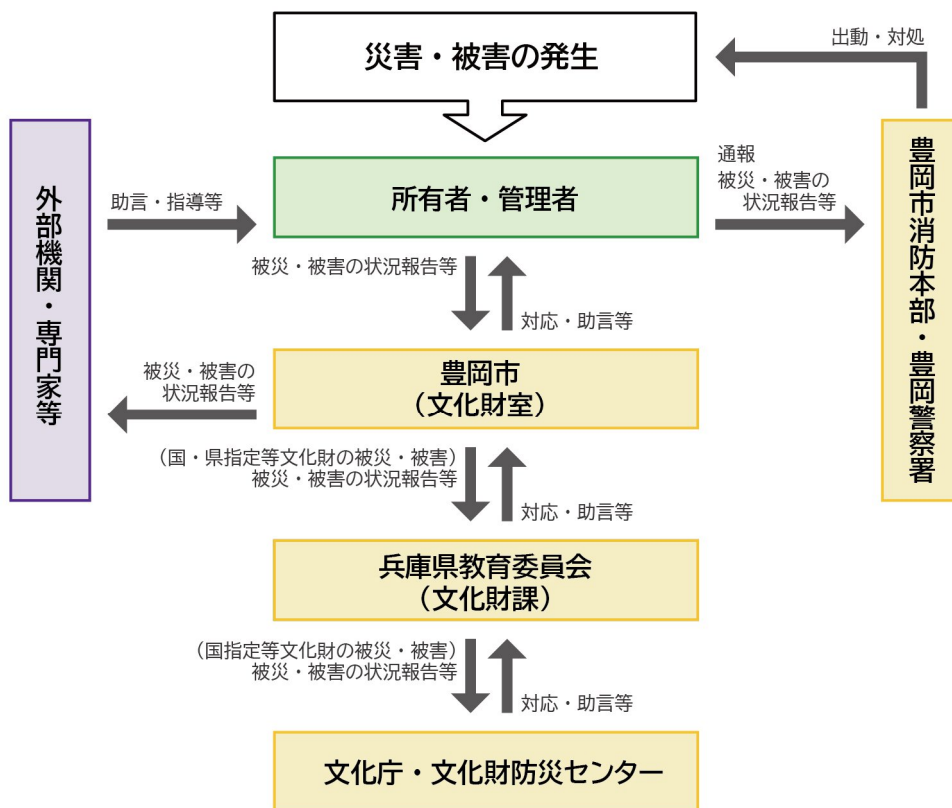


図 6-1 災害・被害発生時の基本的な対応の流れ



# 第7章 推進体制と進行管理

## 第1節 計画の推進体制

行政(豊岡市、兵庫県)、市民及び団体(市民、行政区、地域コミュニティ組織、活動団体、民間企業等)、専門家(審議会・委員会、大学・博物館等の研究機関、ヘリテージマネージャー等)の各主体がそれぞれの役割(表 7-1)を認識し、相互に連携(図 7-1)して地域総がかりで「豊岡の宝もの」の保存・活用に取り組み、本計画を推進する。主体間の連携・調整を図る場として、行政、市民及び団体、専門家で構成する「豊岡市文化財保存活用地域計画協議会」を設置し、本計画に基づく取組の効果を検証する。

このほか、計画推進にあたっては、文化庁からの情報提供や指導・助言等を受けるとともに、豊岡市の出身者・来訪者等の市外の人々、旅行業者・観光業者などの市外の民間企業、近隣の市町や関係する市町村等とも積極的な連携を図る。

表 7-1 各主体の役割

<b>行政 (豊岡市、兵庫県)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・「豊岡の宝もの」の調査・研究や担い手育成、情報発信、事業や制度等を活用した保存の措置や活用のための整備など、本計画の骨格となる施策を中心となって実施する。</li><li>・市立歴史博物館を「豊岡の宝もの」の保存・活用の拠点とし、市民及び団体、専門家、行政が連携して「豊岡の宝もの」の保存・活用を適切に推進できる体制を築くとともに、保存・活用の取組を後押しする仕組みを整える。</li><li>・文化財室を中心として、庁内関係各課や兵庫県、関係機関・関係団体等が連携・調整を図りながら計画を推進する。また、庁内関係各課職員への本計画内容の周知を図り、異動等に際しても円滑に計画を推進できる体制を築く。</li></ul>
<b>市民及び団体 (市民、行政区、地域コミュニティ組織、活動団体、民間企業等)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・市民一人ひとりが歴史文化の担い手であることを認識し、身近な「豊岡の宝もの」を大切にする。市、行政区、地域コミュニティ、活動団体等の取組に参加・協力するよう努める。</li><li>・行政区や地域コミュニティは、区域内の「豊岡の宝もの」の保存・活用のあり方を検討し、次世代に受け継ぐことができる環境の構築に努める。</li><li>・活動団体は、「豊岡の宝もの」の保存・活用に関する活動のより一層の充実、市の取組への参加・協力、各団体の特徴を活かした情報発信などに努める。</li><li>・民間企業は、自社の持つノウハウの活用・協業などを通じて、「豊岡の宝もの」の保存・活用の取組に積極的に参加・協力するよう努める。</li></ul>
<b>専門家 (審議会・委員会、大学・博物館等の研究機関、ヘリテージマネージャー等)</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・豊富な知識と経験を活かして、行政や市民及び団体による「豊岡の宝もの」の調査や保存・活用の取組に対して専門的な視点からの助言・指導を行い、確実な保存とまちづくりへの効果的な活用を支援する。</li><li>・「豊岡の宝もの」の調査・研究を継続的に実施し、本市の歴史文化の魅力向上や新たな価値の解明に努めるとともに、その成果を分かりやすく市内外に発信する。</li></ul>

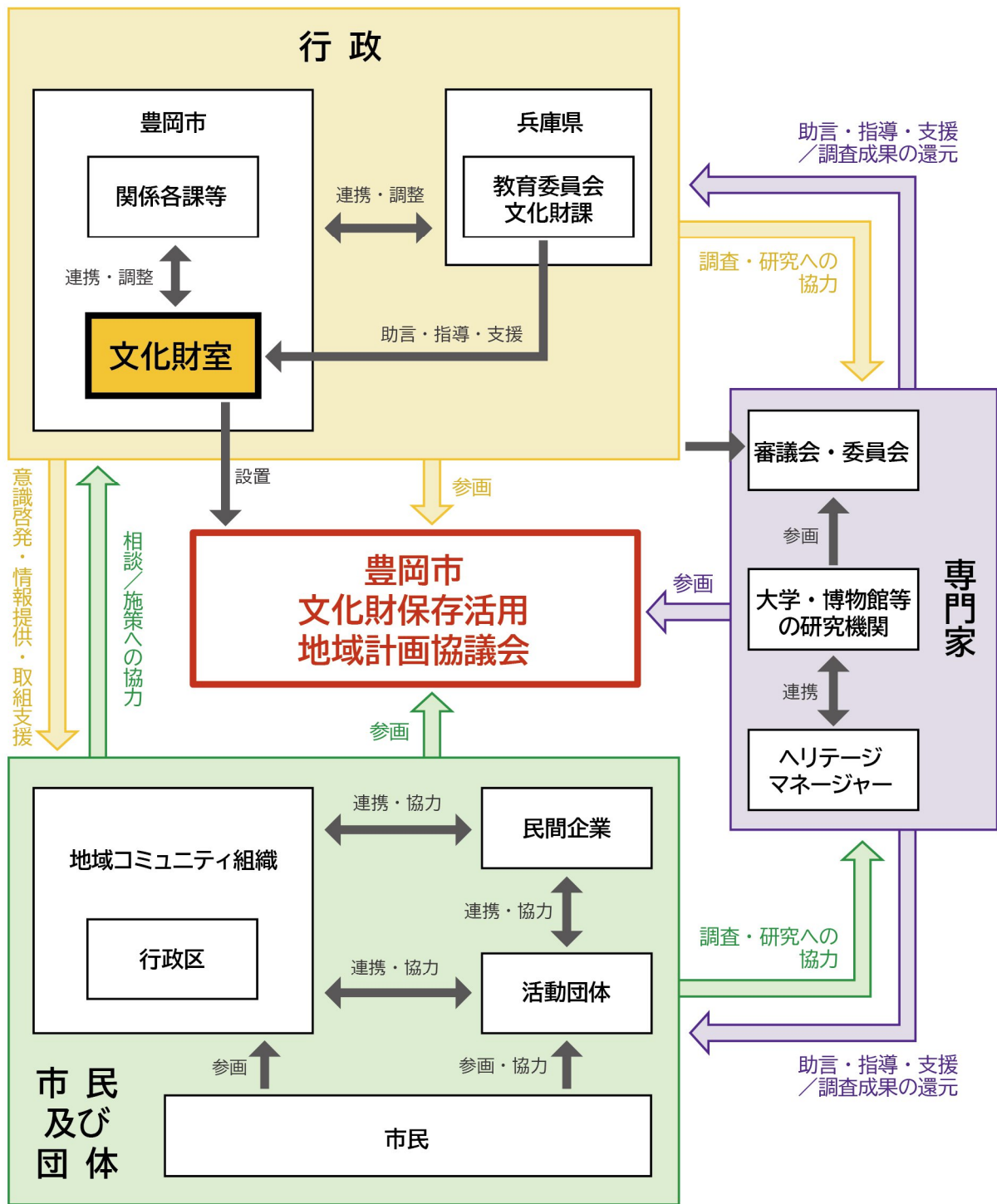


図 7-1 計画の推進体制 (主体間の連携イメージ)

表 7-2 各主体の体制（その1）

区分	主体		概要	
行政	豊岡市	産業経済部	文化・スポーツ振興課	文化芸術の振興、文化と観光の連携、歴史博物館「但馬国府・国分寺館」、いずし古代学習館、文化財収蔵庫、城崎アートセンターなどの管理運営、他の所管に属すものを除く文化芸術施設の設置・管理に関すること等。
			文化財室	「豊岡の宝もの」の調査・保存・公開活用、国指定史跡の整備、文化財保護審議会に関すること等。 (構成：職員数5人、うち専門職員3人)
			観光政策課	観光施策の企画調整や大交流の推進、観光施設の管理、山陰海岸ジオパークや豊岡演劇祭、芸術文化観光専門職大学との連携に関すること等。
			環境経済課	商工業や特産品、伝統的工芸品の振興に関すること等。
		都市整備部	都市整備課	都市計画の企画・調査・事業や基本計画の策定、景観、開発行為、交通政策に関すること等。
			建築住宅課	建築物の耐震、空き家対策、住宅・建築物の土砂災害対策支援に関すること等。
		くらし創造部	地域づくり課	地域コミュニティ施策、集落対策に関すること等。
		コウノトリ共生部	コウノトリ共生課	コウノトリ野生復帰の普及啓発、生物多様性の保全、県立コウノトリの郷公園等との連絡調整、コウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地などの設置・管理に関すること等。
		危機管理部	危機管理課	地域防災計画、防災啓発、訓練、自主防災組織の育成及び強化に関すること等。
		城崎振興局	地域振興課	城崎温泉、城崎町湯島財産区に関すること等。
		竹野振興局	地域振興課	地域コミュニティ、地域防災、観光資源の充実・整備、観光関係団体との連絡調整、観光施設等の維持管理、地域づくりに関すること等。
		日高振興局	地域振興課	植村直己顕彰事業、植村直己冒険館、道の駅に関すること等。
		出石振興局	地域振興課	出石伝統的建造物群保存地区、出石史料館などの歴史資料館や出石永楽館に関すること等。
	但東振興局	地域振興課	東井義雄顕彰事業、東井義雄記念館、日本・モンゴル民族博物館に関すること等。	
	豊岡市	教育委員会	教育総務課	生涯学習の推進、図書館の管理運営に関すること等。
			学校教育課	学校教育の基本方針、教育課題への対応、コミュニティ・スクール、教育に関する専門的及び技術的事項の研究、教職員の研修に関すること等。
		消防本部	豊岡消防署	災害予防や発災時の消防・救急・情報収集・連絡に関すること等。
		兵庫県	教育委員会	文化財課
	企画部	地域振興課	持続可能な多自然地域づくりプロジェクトや山陰海岸ジオパークの推進、多彩な地域遺産の広域的活用に関すること等。	
	まちづくり部	都市政策課	都市・まちづくり政策、景観の形成等に関する条例や緑豊かな地域環境の形成に関する条例に関すること等。	
産業労働部	地域産業立地課	伝統的工芸品産業の振興に関すること等。		
環境部	自然鳥獣共生課	自然公園、環境緑地保全地域や郷土記念物などに関すること等。		
但馬県民局	県民躍動室	地域振興や山陰海岸ジオパーク活動、自然保護などに関すること等。		
豊岡警察署		「豊岡の宝もの」の盗難・き損等の発生時の捜査、土木工事等で偶然発見された出土遺物の取扱いなどに関すること等。		

表 7-3 各主体の体制（その2）

区分	主体	概要	
市民及び団体	市民（個人）	身近な「豊岡の宝もの」の維持・管理や活用等。（所有者・管理者を含む）	
	とよおか市民学芸員	歴史博物館の展示協力やイベントの運営補助、収蔵品の整理作業への協力等。	
	行政区	行政区の区域における住民相互の連絡、環境の整備、「豊岡の宝もの」の日常的な維持管理など、良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動等。（359 行政区）	
	地域コミュニティ組織	行政区が担っていた自治・共助機能の補完や地域内の様々な主体との連携による地域課題への対応等。（29 組織）	
	活動団体	（一社）豊岡観光イノベーション	マーケティングやツアー企画・販売、各種手配などを通じた観光による地域経済の活性化推進に関する事等。（豊岡市と交通事業者、地域金融機関で設立）
		豊岡観光協会	各地域の観光案内・特産品販売、観光情報の発信等の観光振興に係る業務等。
		城崎温泉観光協会	
		たけの観光協会	
		日高神鍋観光協会	
		但馬國出石観光協会	
但東シルクロード観光協会			
豊岡市文化協会		文化イベントの企画・開催などの文化基盤強化に関する事業等。（豊岡市各地域の文化協会の母体組織）	
山陰海岸ジオパーク推進協議会	地球活動遺産をはじめとした多様な地域資源の保全、教育やツーリズム、地域産業への活用などに関する事業。（兵庫県及び豊岡市を含む3府県6市町、商工会や観光協会等の団体、専門員等で構成）		
「豊岡の宝もの」の保存・活用に取り組む団体	特定の歴史文化や地区、「豊岡の宝もの」などを対象とした保存・活用に関する活動等。（保存会やガイド団体など）		
民間企業	「豊岡の宝もの」の保存・活用に取り組む民間企業	「豊岡の宝もの」を活用した企業活動等。（温泉旅館等の宿泊施設、古民家を活用した飲食店、特産品の販売、農林漁業など）	
専門家	審議会・委員会	豊岡市文化財保護審議会	「豊岡の宝もの」の保存・活用に関する重要事項の調査・審議。
		豊岡市伝統的建造物群保存審議会	伝統的建造物群保存地区の保存等に関する重要事項の調査・審議。
		豊岡市史跡整備委員会	国史跡の保存・活用・整備に関する事項の調査・審議。
	大学・博物館等の研究機関	芸術文化観光専門職大学	芸術文化や観光の現場をフィールドにした実習等を通じた、芸術文化観光による新たな地域活力を創出するプロフェッショナルの育成、芸術文化観光学に関する研究や地域連携事業等。
		兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科	山陰海岸ジオパーク、コウノトリの野生化、地域資源の保全・活用に関する調査・研究や、生涯学習・地域づくりなどの活動等。
		兵庫県立考古博物館	県内の遺跡や考古資料の調査・研究・成果の活用に関する事等。
		兵庫県立歴史博物館	県内の郷土の歴史学習と教育・学術の発展に関する事等。
		兵庫県立人と自然の博物館	県内の自然環境や自然史の調査・研究に関する事等。
		歴史資料ネットワーク	大規模災害時の史料保全活動のセンター的役割、災害に関する資料・記録の保存・活用に関する事等。（事務局：神戸大学文学部内）
	ヘリテージマネージャー	ひょうごヘリテージ機構 H20	建造物等の調査・研究、保全・活用提案、まちづくりに関する事等。
		兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会	巨樹・巨木等の植物の保全・活用に関する事等。
		兵庫県名勝部門ヘリテージマネージャー連絡会	兵庫県内の歴史的な庭園等の保存・活用に関する事等。

## 第2節 計画の進行管理

豊岡市文化財保存活用地域計画協議会を毎年1～2回程度開催し、本計画に基づく事業の進捗状況を確認し、取組方法の改善や計画内容の見直しの検討等を行う。特に、災害や盗難等の被害が発生した場合は、防災・防犯に関する方針・方策を点検し、必要に応じて計画変更を行う。

本計画は、事業期間を「前期」（令和9～11年度(2027～2029年度)）、「中期」（令和12～15年度(2030～2033年度)）、「後期」（令和16～19年度(2034～2037年度)）の3期に区分している。「前期」の最終年度である令和11年度(2029年度)、「中期」の最終年度である令和15年度(2033年度)に、事業の進捗状況等を踏まえて計画内容(主として事業計画)を見直し、計画変更を行う。本計画期間及び「後期」の最終年度にあたる令和19年度(2037年度)に、計画期間全体における計画内容の実施状況の確認と本計画の効果検証を行い、計画全体を見直して第2次計画を作成する。

